西部第一落合遺跡群（1）

前橋都市計画事業西部第一落合土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２０２０

前 橋 市 教 育 委 員 会

西部第一落合遺跡群（1）

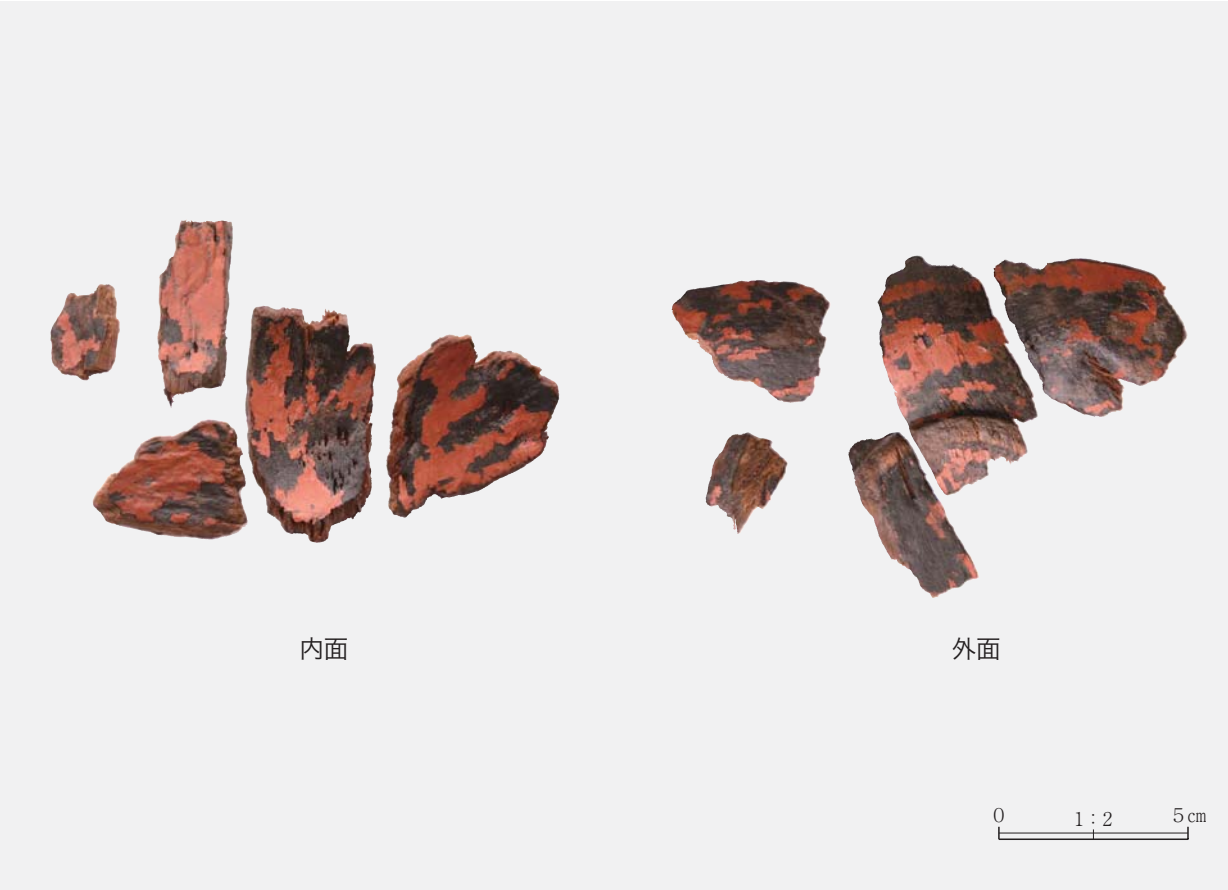
前橋都市計画事業西部第一落合土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２０２０

前橋市教育委員会

西部第一落合遺跡群（１）全景（上が北）

遺跡遠景（赤枠が本遺跡、東から）



Ｗ－１出土漆器

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる群馬県の県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、２万年前から人々が生活を始め、市内のいたる所にその息吹を感ぜられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国府、国分僧寺、国分尼寺など上野国の中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬を削った地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられ、「関東の華」とも呼ばれた厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地となり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する西部第一落合遺跡群（１）は、古代上野国の中枢地域の調査であり、上野国府推定地域にも近接することから、調査成果に多くの注目を集めております。今回の調査では、平安時代の竪穴住居跡、古代の溝跡、中世蒼海城堀跡などが発見されました。残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、関係機関や各方面の多大なるご配慮・ご尽力により調査事業を円滑に進められことができました。また、極寒の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

令和２年10月

前橋市教育委員会
教育長　　吉川　真由美

例　　言

1　本報告書は前橋都市計画事業西部第一落合土地区画整理事業に伴う「西部第一落合遺跡群（１）」の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　発掘調査および整理作業の体制は以下の通りである

遺跡名　　西部第一落合遺跡群（１）
（前橋市 0134 遺跡、前橋市 0142 遺跡、前橋市 0929 遺跡）

遺跡コード　　１Ａ 248

遺跡所在地　　群馬県前橋市元総社町 747、750-1、750-2、750-3、2509-1、2509-2、2509-3、2508-4、2510-1、2702-1

監理指導　　並木史一　小峰　篤（前橋市教育委員会）

発掘調査担当　　佐野良平　中村岳彦　岡野　茂（技研コンサル株式会社）

調査補助員　　茂木祐輔（技研コンサル株式会社）　曽根　裕

発掘調査期間　　令和元年 12 月 18 日～令和２年３月 24 日

調査面積　　2,524 ㎡

発掘調査参加者

青木美好　青山純二　秋山　修　芦川良紀　畔見恒夫　新井　實　上沢公一　宇賀神光　宇貫美代子
岡部四朗　岡　眞　岡本陽一　大嶋政彦　大山四郎　小川弘之　小田切幹緒　笠原たく江　川野京子
河本ちさと　木暮朱美　木暮　昇　北爪二郎　桑原　清　木暮廣一　木暮知二　小菅登喜雄　後藤次雄
小林克宏　坂庭孝代　佐藤秀幸　佐藤文江　佐復　進　猿谷三枝子　塩野谷和夫　設楽和男　清水隆二
杉田安廣　鈴木政江　須田一雄　関口弘子　曽根良美　高津邦道　高橋一巳　高橋正志　高橋政芳
武田茂子　田部井美砂子　土屋利治　角田令子　富澤　博　長岡　武　永井憲一　中嶋智恵子
長野利章　二木純夫　西潟　登　西山康子　乗附敏男　花田暁美　平澤小夜子　福田邦弘　二ツ橋正雄
星野一江　星野　博　星野正也　松下　明　間仁田章治　水野さかゑ　矢島昭司　吉浦英和

整理作業担当　　佐野良平

整理・報告書作成期間　　令和２年６月１日～令和２年 10 月 30 日

整理作業参加者

丸山和浩　大川明子（技研コンサル株式会社）
安藤三枝子　小林　和　今野妙子　杉田友香　鈴木史子　立川千栄子　田所順子　福島禄子　細野竹美

3　本書の編集は佐野が行い、原稿執筆についてはＩを小峰、他を佐野が担当した。

4　本書における図面・写真・遺物は、前橋市教育委員会で保管されている。

5　下記の諸氏・諸機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。

山下工業株式会社

凡　　例

1　挿図中に使用した北は座標北であり、座標については日本測地系に基づく平面直角座標第Ⅸ系を使用した。

2　挿図に国土地理院発行 1/25,000『前橋』、前橋市発行 1/2,500 都市計画図を使用した。

3　遺構名称は、竪穴建物跡：H、溝・堀跡：W、井戸：Ｉ、土坑：D、ピット：P、性格不明遺構：ＳＸである。

4　遺構・遺物実測図の縮尺は原則的に次のとおりである。その他各図スケールを参照されたい。

　遺構　竪穴建物跡、竪穴状遺構、溝跡、井戸、土坑、ピットほか・・・1/30、1/60

　　全体図・・・1/600

　遺物　土器・・・1/3、1/4　瓦製品・・・1/6　鉄・銅製品・・・1/2、1/3　土製品・・・1/2

　　石製品・・・1/1、1/3、1/6

5　本文および表中の計測値については（　）は現存値を、〔　〕は復元値を表す。

6　遺物実測図のトーン表現は以下の通りである。

　遺物実測図・・・須恵器：　　施釉：　　灰釉陶器：

目　　次

巻頭図版１

巻頭図版２

はじめに

例言・凡例

Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1

Ⅱ　遺跡の位置と環境 …… 1

　1　地理的環境

　2　歴史的環境

Ⅲ　調査方針と経過 …… 6

　1　発掘調査

　2　整理作業

Ⅳ　基本土層 …… 7

Ⅴ　遺構と遺物 …… 9

　1　竪穴建物跡

　2　溝跡

　3　井戸・土坑・性格不明遺構・畠跡・ピット

Ⅵ　まとめ …… 51

挿図目次

Fig.1　調査区位置図 …… 1
Fig.2　周辺遺跡図 …… 3
Fig.3　グリッド設定図 …… 5
Fig.4　基本土層 …… 7
Fig.5　西部第一落合遺跡群（1）全体図 …… 8
Fig.6　H－1～3号竪穴建物跡 …… 18
Fig.7　H－4・5・7号竪穴建物跡 …… 19
Fig.8　H－6・8～10号竪穴建物跡 …… 20
Fig.9　H－8号竪穴建物跡掘り方、H－11～13号竪穴建物跡 …… 21
Fig.10　H－14～17・19号竪穴建物跡 …… 22
Fig.11　H－18・20～23号竪穴建物跡 …… 23
Fig.12　H－23号竪穴建物跡カマド、H－24・25号竪穴建物跡 …… 24
Fig.13　H－26号竪穴建物跡 …… 25
Fig.14　H－27・28・30号竪穴建物跡 …… 26
Fig.15　H－29～34号竪穴建物跡 …… 27
Fig.16　H－35・36号竪穴建物跡、W－1号溝跡 …… 28
Fig.17　W－1・2号溝跡 …… 29
Fig.18　W－1～6号溝跡、畠跡（1） …… 30
Fig.19　W－1～6号溝跡、畠跡（2） …… 31
Fig.20　W－3・4・7～10・12号溝跡、畠跡 …… 32
Fig.21　W－11・13～17号溝跡 …… 33
Fig.22　I－1～9号井戸跡 …… 34
Fig.23　I－10～12号井戸跡、D－2・3・5～12号土坑 …… 35
Fig.24　D－13・14～18・20～24・26～30・34号土坑 …… 36
Fig.25　D－31～33・35～37・39号土坑、SX－2号性格不明遺構、P－1～21号ピット …… 37
Fig.26　P－22・24～29・31・33～52号ピット …… 38
Fig.27　出土遺物（1） …… 38
Fig.28　出土遺物（2） …… 39
Fig.29　出土遺物（3） …… 40
Fig.30　出土遺物（4） …… 41
Fig.31　出土遺物（5） …… 42
Fig.32　出土遺物（6） …… 43
Fig.33　出土遺物（7） …… 44
Fig.34　出土遺物（8） …… 45
Fig.35　出土遺物（9） …… 46
Fig.36　蒼海城縄張図 …… 52
Fig.37　本遺跡周辺の蒼海城縄張り想定図 …… 53
Fig.38　推定東山道国府ルートと推定日高道の推定ラインと道路状遺構検出遺跡 …… 54
Fig.39　城絵図と地割からの推定ルート …… 55

表目次

Tab.1　周辺遺跡一覧表 …… 4
Tab.2　溝・井戸・土坑・性格不明遺構・ピット計測表 …… 16
Tab.3　出土遺物観察表 …… 46

写真図版

PL.1　調査区北側全景、調査区南側
PL.2　H－1カマド全景、H－2全景、H－2カマド全景、H－2貯蔵穴全景、H－3全景、H－3カマド全景、H－4・5全景、H－4カマド全景
PL.3　H－7全景、H－8全景、H－8カマド全景、H－9・10全景、H－11全景、H－11カマド全景、H－12全景、H－12カマド全景
PL.4　H－13全景、H－14全景、H－15全景、H－15カマド全景、H－16全景、H－17全景、H－18全景、H－18カマド全景
PL.5　H－19全景、H－20全景、H－21全景、H－22全景、H－23全景、H－23カマド全景、H－25全景、H－25カマド1全景
PL.6　H－25カマド2全景、H－26全景、H－26カマド全景、H－27全景、H－27カマド全景、H－28全景、H－29・30全景、H－29カマド全景
PL.7　H－30カマド全景、H－31全景、H－31カマド全景、H－32カマド全景、H－33全景、H－33カマド全景、H－34全景、H－35全景
PL.8　W－1底面状況、W－2a・b全景、W－2～6全景、W－8～10・12・14・15全景、W－11遺物出土状況全景、D－13全景、調査風景
PL.9～12　出土遺物

Ⅰ　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業西部第一落合土地区画整理事業に伴い実施され、令和元年度が初年度である。本事業地周辺は、上野国府推定域が近接すること、また北側では元総社蒼海土地区画整理事業施行に伴い、20年以上に亘り発掘調査が実施され、数多くの貴重な調査成果を得ていることなどから、濃密な遺跡地として認識されている。

令和元年６月17日付で、前橋市長　山本　龍（区画整理課）（以下「前橋市」という。）と前橋市教育委員会（以下「市教委」という。）との間で、当該土地区画整理事業施行にあたり埋蔵文化財を保護し、また埋蔵文化財発掘調査業務の取扱いについて、基本的事項を定めた協定書を取り交わした。

令和元年６月21日、前橋市より試掘･確認調査依頼を受け、同年８月19日～21日に試掘･確認調査を実施した。調査の結果、竪穴住居跡、溝跡などが検出されたため、埋蔵文化財の取扱いについて協議を行い、記録保存を目的とした発掘調査を実施することで合意した。

令和元年９月19日付で前橋市より、埋蔵文化財発掘調査業務に係る依頼が市教委に提出された。市教委では既に他の発掘調査を実施中のため、市教委直営による調査実施が困難であると判断し、前橋市と市教委では民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで合意した。業務実施にあたっては市教委の作成する調査仕様書に則り、市教委による監理・指導のもと発掘調査を実施することとなった。同年12月６日付で前橋市と民間調査組織である技研コンサル株式会社との間で業務委託契約が締結され発掘調査に着手した。なお、令和元年度は現地での発掘作業のみとし、発掘調査報告書作成に係る整理作業全般は、令和２年度の業務として実施した。整理作業に係る業務委託も技研コンサル株式会社が受注した。

なお、遺跡名称「西部第一落合遺跡群（１）」（遺跡コード：1A248）の「西部第一落合」は土地区画整理事業名を採用し、「（１）」は当該土地区画整理事業において最初に実施した発掘調査として付したものである。

Ⅱ　遺跡の位置と環境

１　地理的環境（第１図）

本遺跡が所在する前橋市元総社町は前橋市街地中心から南西約４Kmに位置する。市街地西端にあたる場所で周辺には現在も畑地が多く見られる場所である。遺跡南東約200ｍには国道17号線高崎前橋バイパス、北側約200ｍには県道10号線前橋安中富岡線、西側１Kmには関越自動車道が南北に走っている。遺跡の東西には相馬ヶ原扇状地を源とする牛池川と染谷川が流れ、両河川の挟まれた地域に立地する。

落合地区は榛名山南東に広がる相馬ヶ原扇状地から前橋台地といった平野部へと移行する地帯である。本遺跡では北側の低地部が相馬ヶ原扇状地、南側の台地が前橋台地に分類される。

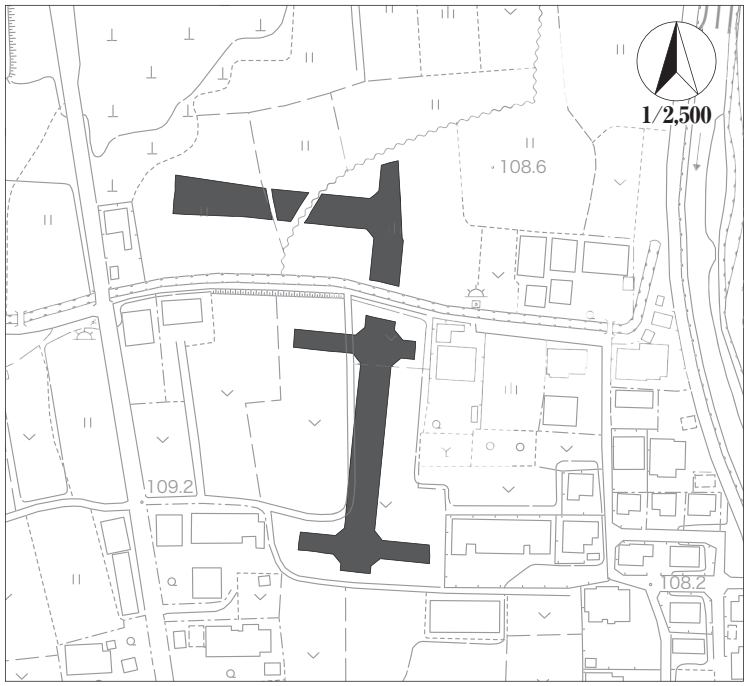


Fig. 1　調査区位置図

２　歴史的環境

本遺跡が所在する元総社地域は、上野国府推定地や上野国分寺・国分尼寺を中心に連綿と遺跡が広がる地域であり、関越自動車道建設や区画整理事業などに伴う発掘調査が行われ、多くの遺構が確認されている。本遺跡周辺地域での時代毎の遺跡の概要は以下の通りである。

（１）縄文時代　八幡川右岸の微高地上に産業道路東［19］・産業道路西［20］、本遺跡の立地する牛池川右岸台地上に上野国分僧寺・尼寺中間地域［27］・元総社小見Ⅲ遺跡・元総社蒼海遺跡群（24）などが挙げられ、竪穴住居跡が確認されている。

（２）弥生時代　当該期の遺跡は日高遺跡［50］［51］・上野国分僧寺尼寺中間地域・正観寺遺跡［49］などがあるが、その分布は散在的である。この内、日高遺跡では浅間Ｃ軽石下の水田跡が確認されており、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて継続して営まれた水田と捉えられている。

（３）古墳時代　利根川右岸の地域は県内でも有数の古墳密集地域であり、それを代表するものとして総社古墳群が挙げられる。古墳時代後期・終末期に亘り、王山古墳［７］・愛宕山古墳［８］・宝塔山古墳［10］・蛇穴山古墳［11］などの首長墓が多数築造された。また、この時期には山王廃寺［４］が建立され、総社古墳群を含め、政治的中枢地域となる。

山王廃寺は昭和３年に日枝神社境内が「山王塔址」として国指定史跡となり、その後昭和 49 ～ 56 年にかけて７次にわたる本格的な発掘調査が行われた。この調査で金堂の検出および「放光寺」箆書の平瓦出土により山王廃寺が「山ノ上碑」「上野国交替実録帳」にみられる「放光寺」であることが有力視されるようになった。平成９～ 11 年の調査でも土坑から大量の塑像が出土し、平成 18・19 年度調査では北・東・西面、平成 20 年度調査では南面の回廊を検出している。さらに平成 21 年度調査では「推定中門」と「西側南側回廊」の周辺部が、平成 22 年度調査では北西隅の回廊と接するように「基壇建物跡」と「北方建物群」が確認されている。なお、この寺の塔心礎や石製鴟尾、根巻石等の石造物群は宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術によるものと考えられており、仏教文化と古墳文化とが併存しながら機能していた様子が窺える。この時代の集落は牛池川と染谷川に挟まれた台地上に展開しているが、前期～中期の集落は散見される程度で、後期からの集落増加が看取できる。生産域としては、牛池川左岸一帯に広がる低地平野において、元総社明神遺跡、元総社北川遺跡、総社閑泉明神北Ⅳ・Ⅴ遺跡などで水田跡が確認されている。

（４）奈良・平安時代　奈良時代には上野国府が造営され、上野国分寺［２］・国分尼寺［３］の建立に示されるように、本遺跡周辺は古代の政治・経済・文化の中心地として再編成される。

上野国府は本遺跡付近の区域に約 900m 四方に推定され、関連遺跡として元総社小学校校庭遺跡［46］では県下最大級の掘立柱建物跡が検出され、元総社蒼海遺跡群（99）・（127）・（136）、上野国府等範囲内容確認調査 28・33・34 トレンチでは掘込地業を持つ建物跡が、元総社蒼海遺跡群（95）では方形の柱穴掘り方をもつ大型掘立柱建物跡が確認されている。元総社寺田遺跡［44］では「國府」・「曹司」・「国」・「邑厨」などの墨書土器や人形（ひとがた）が出土している。元総社明神遺跡［43］では南北方向の溝跡、閑泉樋遺跡［36］や元総社蒼海遺跡群（７）・（９）・（10）では東西方向の溝跡が確認され、国府域の外郭線の想定が為されている。また、周辺遺跡からは円面硯や緑釉陶器、巡方（腰帯具）なども出土しており、国府を考える上で貴重な資料となっている。

国分僧寺は大正 15 年に国指定史跡となり、昭和 40 年代から部分的な発掘調査が進められるようになった。昭和 55 年以降には本格的な調査が始まり、主要伽藍の礎石・築垣・堀等が確認されている。また、平成 24 年度から 28 年度にかけての第２期発掘調査において、これまでの金堂が講堂であったことが判明する等、伽藍配置の変更が行われている。国分尼寺は昭和 44・45 年のトレンチ調査により伽藍配置が推定され、その後平成 12 年度に前橋市埋蔵文化財発掘調査団により南辺での寺域確認調査が行われた。調査の結果、南東・南西隅の築垣

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
高崎市
1：25,000
0m
500
1000
1500
2000m

Fig. 2　周辺遺跡図

Tab. 1　周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名
1	西部第一落合遺跡群（1）
2	上野国分寺跡
3	上野国分尼寺跡
4	山王廃寺跡
5	推定東山道国府ルート
6	推定日高道
7	王山古墳
8	愛宕山古墳
9	遠見山古墳
10	宝塔山古墳
11	蛇穴山古墳
12	稲荷山古墳
13	元総社蒼海遺跡群 元総社小見遺跡・Ⅱ～Ⅵ遺跡 元総社小見内遺跡・Ⅱ～Ⅹ遺跡 元総社草作遺跡・Ⅴ遺跡 総社甲稲荷塚大道西遺跡・Ⅱ～Ⅳ遺跡 総社閑泉明神北遺跡・Ⅱ～Ⅴ遺跡 元総社宅地遺跡
14	北原遺跡
15	国分境遺跡・Ⅱ・Ⅲ遺跡
16	村東遺跡
17	大屋敷遺跡Ⅰ～Ⅵ
18	昌楽寺廻向遺跡・Ⅱ遺跡
19	産業道路東遺跡
20	産業道路西遺跡
21	稲荷塚道東遺跡
22	大渡道場遺跡
23	大渡道場Ⅱ遺跡
24	元総社中学校遺跡
25	元総社北川遺跡
26	元総社牛池川遺跡
27	上野国分僧寺・尼寺中間地域
28	元総社西川遺跡
29	上野国分寺参道遺跡
30	塚田村東遺跡
31	鳥羽遺跡
32	弥勒遺跡・Ⅱ遺跡
33	元総社早道乙遺跡
34	天神遺跡・Ⅱ遺跡
35	天神Ⅲ遺跡
36	閑泉樋遺跡
37	閑泉樋南遺跡
38	屋敷遺跡・Ⅱ遺跡
39	堰越遺跡
40	堰越Ⅱ遺跡
41	大友宅地添遺跡
42	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡
43	元総社明神遺跡Ⅰ～ⅩⅢ
44	元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ
45	寺田遺跡
46	元総社小学校校庭遺跡
47	元総社落合遺跡
48	中尾遺跡
49	正観寺遺跡Ⅰ～Ⅳ
50	日高遺跡
51	日高遺跡
52	勝呂遺跡
53	新保田中村前遺跡
54	元総社稲葉遺跡
55	箱田川西遺跡
56	村前遺跡
57	五反田遺跡
58	五反田Ⅱ遺跡
59	平成28年度上野国府等範囲内容確認調査45ａ・ｂトレンチ

と、それに平行する溝跡や道路状遺構等が確認されている。また、高崎市教育委員会による平成28年度の調査で講堂跡が尼坊跡であったことが判明し、平成29年度の調査では回廊跡の一部が確認されている。関連遺跡としては鳥羽遺跡［31］で神社遺構と工房跡が確認され、上野国分僧寺・尼寺中間地域では大規模な集落・掘立柱建物跡群が検出されている。

本遺跡周辺では高崎市浜川町周辺からＮ－64°－Ｅ方向へ東山道（国府ルート）が延びると推定されている。前橋市域では平成28年度上野国府等範囲内容確認調査45ａ・ｂトレンチ［59］において２時期の両側側溝を持つ道路跡を確認している。鳥羽遺跡でも２条の道路跡が確認されている。日高遺跡では幅約4.5mの推定日高道が国府方向へ延びると推定されている。

当該期の一般的な集落は、古墳時代と同様に牛池川と染谷川に挟まれた台地上に立地するが、国府推定域の中心部での分布は少なく、国府域と居住域の区分けが看取できる。近年の調査による元総社蒼海遺跡群（40）で８世紀後半の住居跡内の一角に鍛冶遺構が検出されている。元総社蒼海遺跡群（41）では９世紀後半の鍛冶工房が検出され、同遺跡からは金の付着した灰釉陶器や奈良三彩といった貴重な遺物が出土している。また、元総社蒼海遺跡群（64）では８世紀前半には廃絶されたと考えられる製鉄炉跡（箱型炉）が１基、元総社稲葉遺跡［54］では10世紀に想定される製鉄炉跡（小型自立炉）が２基確認されている。

（５）中世　室町時代になると上野国守護上杉氏から守護代に任命された長尾氏が蒼海城を本拠地としこの地を治めた。元総社蒼海遺跡群では蒼海城の堀跡が多く検出されており、12～15世紀の青白磁梅瓶、青磁酒会壺蓋・袴腰香炉などの貿易陶磁が多数出土している。天正年間以降は諏訪･秋元氏が蒼海城に入り当地の領主となるが、慶長六年（1601）に秋元長朝が総社城に移ると同時に蒼海城は廃城となった。また、当該期の周辺遺跡では大渡道場遺跡［22］の貨幣埋納遺構から572枚におよぶ銭貨が撚紐を通した「緡（さし）」の状態で六緡出土している。

Fig.3　グリッド設定図

Ⅲ　調査方針と経過

1　発掘調査

委託調査箇所は前橋都市計画事業西部第一落合土地区画整理事業地内であり、調査面積は2524㎡である。調査区中央やや北側で東から西へ流れる用水路「芦田堰」を境に調査区北側と調査区南側に区分した。

グリッド座標については近隣調査との整合性や以後の拡張性を考慮して元総社蒼海遺跡群の調査で使用されている任意グリッド座標（国家座標（日本測地系第Ⅸ系）X＝ 44000.000、Y＝－ 72200.000 を基点とする４ｍピッチのもの）を使用した。なお経線をX、緯線をYとして北西隅を基点に番付して呼称とした。公共座標は次のとおりである。

	測点	日本測地系（第Ⅸ系）	世界測地系（第Ⅸ系　測地成果 2011）
調査区北側	X 296、Y 390	X＝ 42440.000 m、Y＝－ 71016.000 m	X＝ 42794.925 m、Y＝－ 71307.777 m
調査区南側	X 294、Y 410	X＝ 42360.000 m、Y＝－ 71024.000 m	X＝ 42714.927 m、Y＝－ 71315.778 m

発掘調査は遺構確認面まで重機（0.25 ㎥バックホー）にて表土掘削を行ない、遺構確認、遺構掘り下げ、遺構精査、測量・写真撮影の手順で実施した。遺構調査については土層の堆積状況を確認するため、土層ベルトを適宜設定した。なお、出土遺物に関しては、床面直上や遺構に伴うと判断したものはNo遺物とし、他の覆土中の破片等については一括遺物として取り上げた。遺構の記録には、図面作成はトータルステーション・電子平板を用いての測量・編集を行なった。記録写真は35mm判 モノクロ・リバーサルフィルムと、デジタルカメラの３種類を用いて撮影を実施した。調査区全景撮影についてはドローンとラジコンヘリコプター、巻頭図版に使用している遺跡遠景についてはセスナからの撮影を実施した。

調査経過については以下の通りである。令和元年12月18日、調査区北側から表土掘削開始。遺構確認作業も開始。大型の溝（Ｗ－１）を検出。20日、Hr-FA洪水層を覆土とする畠跡を検出。21日、仮設トイレ搬入。26日、調査区北側の表土掘削終了。重機は調査区南側へ移動し表土掘削開始。28日、仮設プレハブを設置。令和２年１月８日、遺構掘削開始。20日、ドローンによる調査区北側全景撮影。前橋市教育委員会立会いの下、調査区北側（微高地部分）の調査終了確認。22日、調査区南側表土掘削終了。23日、重機を用いてのＷ－１調査開始（１・２トレンチ）。同日、重機撤収。２月17日、人力によるＷ－１（３トレンチ）の調査開始。20日、ラジコンヘリコプターによる調査区南側全景撮影。前橋市教育委員会立会いの下、調査区北側（低地部分）・南側の調査終了確認。27日、重機（0.25 ㎥バックホー、クローラー、転圧ローラー）搬入。28日、調査区北側から埋め戻し作業開始。仮設プレハブ撤収。３月11日、セスナによる遺跡遠景撮影。24日、仮設トイレ撤収。埋め戻し作業完了。現地での調査終了。

2　整理作業

整理作業は６月１日から開始した。出土遺物の洗浄・注記作業から行い、遺物の分類・接合作業へ移っていった。出土遺物の断面計測と外面調整の撮影には、従来の手法から３Ｄスキャナー型三次元計測器（KEYENCE社製、VL-300）による機械計測に切り替えた。誤差１mm の１/1,000 という高精度な全点取得が可能で、従来の２次元図化以外の用途にも発展性が見込めるものである。報告書掲載の遺物写真に関してはデジタルカメラを用いて撮影を行った。遺構図はデジタルによる修正・編集作業を行い、報告書の編集に関してはDTPの手法を用いて作業を行った。10月30日に報告書を刊行し、全ての作業を完了した。

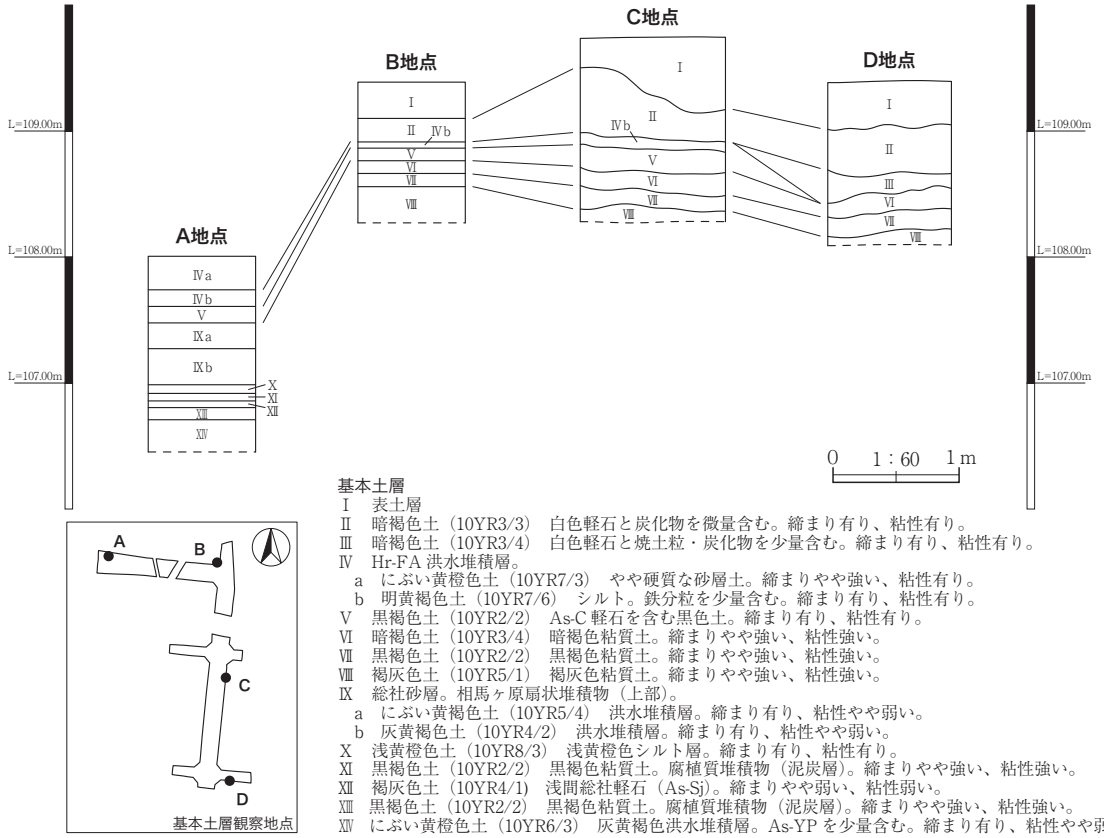
Ⅳ　基本土層

本遺跡は北側の低地部　基本土層は調査区北側で２地点、調査区南側で２地点の計４地点において観察を行った（Fig. 4）。A 地点は低地に位置し、B ～ D 地点は台地上に立地する。A 地点についてはＷ － 1 北側立ち上がりの側面において観察を行った。

Ⅰ層土は現代の表土層、Ⅱ層土は暗褐色土である。Ⅲ層土は暗褐色土に焼土粒・炭化物を含む土層で主に調査区南側の遺構覆土として確認できる。Ⅳ層土は６世紀初頭の榛名山噴火で降灰した火山灰（Hr-FA) の洪水堆積層と考えられる。Ⅴ層土は As-C 軽石を含む黒色土、いわゆる「C 黒」と呼称される土層である。Ⅵ～Ⅷ層土は B ～ D 地点のみで確認できる非常に粘性の高い粘質土層である。Ⅸ層土は総社砂層である。榛名山系の山体崩落に起因する陣場岩屑なだれ（約 1.7 万年前）以降に堆積した河川性堆積物（相馬ヶ原扇状地堆積物上部）[1]と考えられている。本遺跡では総社砂層の切り石を用いてカマドの袖心材として使用されている例がいくつか見られる。Ⅹ層土は灰黄褐色シルト層。Ⅺ層土は腐植質堆積物層（泥炭層）で黒色の強く締まる粘質土層である。Ⅻ層土は約 1.2 万年前に降灰した As-Sj（浅間総社軽石）である。ⅩⅢ層はⅪ層と同様に黒色粘質土層（泥炭層）である。ⅩⅣ層土は灰黄褐色洪水層で As-YP（浅間板鼻黄色軽石、約 1.5 ～ 1.65 万年前）が少量混じる。

註

（1）早田　勉　2018　「付編　自然化学分析」『小八木薬研寺遺跡』　高崎市教育委員会



基本土層
Ⅰ　表土層
Ⅱ　暗褐色土（10YR3/3）　白色軽石と炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
Ⅲ　暗褐色土（10YR3/4）　白色軽石と焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
Ⅳ　Hr-FA 洪水堆積層。
　a　にぶい黄橙色土（10YR7/3）　やや硬質な砂層土。締まりやや強い、粘性有り。
　b　明黄褐色土（10YR7/6）　シルト。鉄分粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
Ⅴ　黒褐色土（10YR2/2）　As-C 軽石を含む黒色土。締まり有り、粘性有り。
Ⅵ　暗褐色土（10YR3/4）　暗褐色粘質土。締まりやや強い、粘性強い。
Ⅶ　黒褐色土（10YR2/2）　黒褐色粘質土。締まりやや強い、粘性強い。
Ⅷ　褐灰色土（10YR5/1）　褐灰色粘質土。締まりやや強い、粘性強い。
Ⅸ　総社砂層。相馬ヶ原扇状堆積物（上部）。
　a　にぶい黄褐色土（10YR5/4）　洪水堆積層。締まり有り、粘性やや弱い。
　b　灰黄褐色土（10YR4/2）　洪水堆積層。締まり有り、粘性やや弱い。
Ⅹ　浅黄橙色土（10YR8/3）　浅黄橙色シルト層。締まり有り、粘性有り。
Ⅺ　黒褐色土（10YR2/2）　黒褐色粘質土。腐植質堆積物（泥炭層）。締まりやや強い、粘性強い。
Ⅻ　褐灰色土（10YR4/1）　浅間総社軽石（As-Sj）。締まりやや弱い、粘性弱い。
ⅩⅢ　黒褐色土（10YR2/2）　黒褐色粘質土。腐植質堆積物（泥炭層）。締まりやや強い、粘性強い。
ⅩⅣ　にぶい黄橙色土（10YR6/3）　灰黄褐色洪水堆積層。As-YP を少量含む。締まり有り、粘性やや弱い。

Fig. 4　基本土層

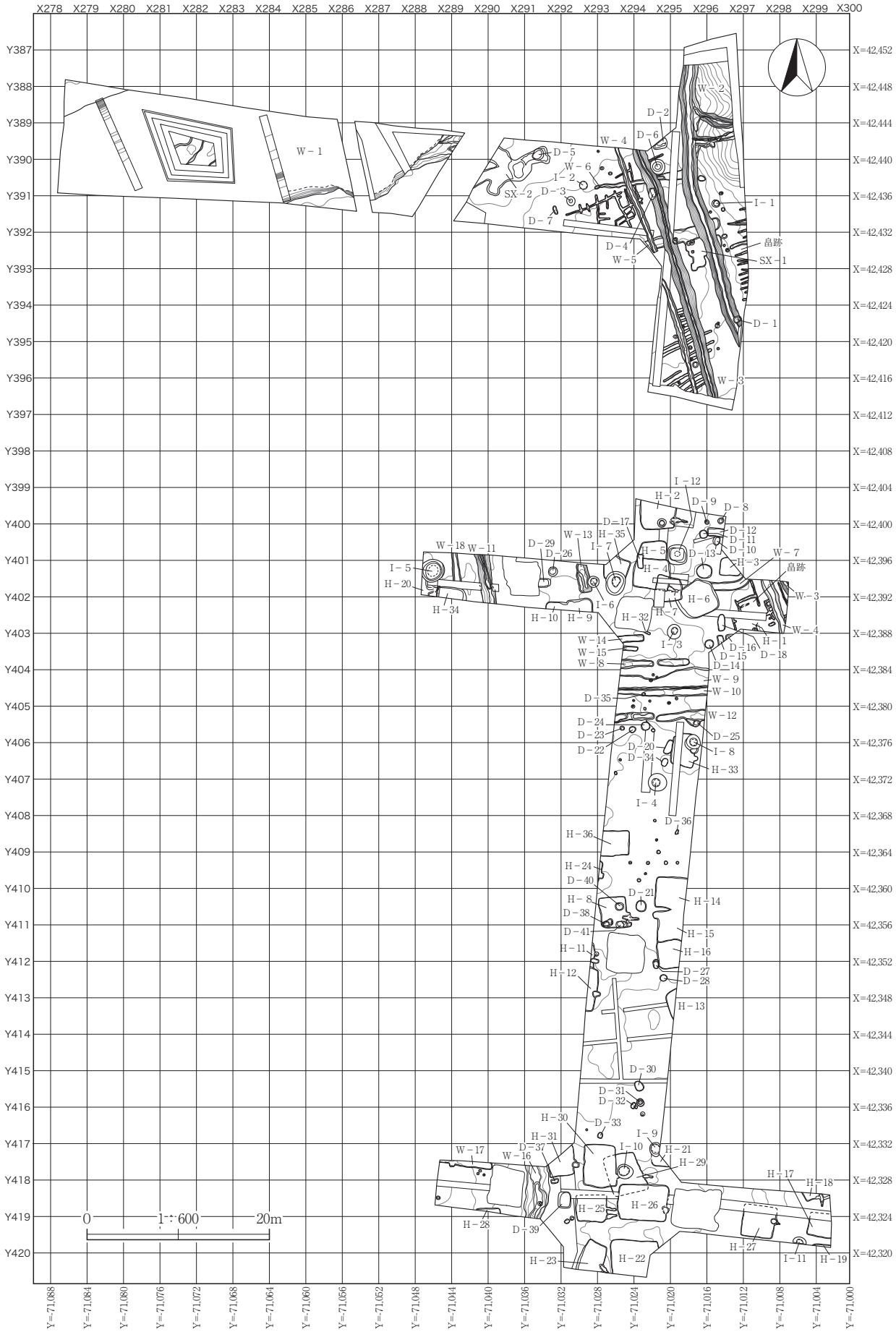


Fig.5　西部第一落合遺跡群（1）全体図

Ⅴ　遺構と遺物

１　竪穴建物跡

Ｈ－１号竪穴建物跡　（Fig. ６・27、Tab. ３、PL. ２・９）

位置　X297、Y402　**主軸方向**　Ｎ－41°－Ｗ　**規模**　カマドのみの確認。東西（1.35）m、南北（1.00）m、壁高 0.09 m。　**床面積**（0.53）㎡　**床面**　地山床　**カマド**　南東方向に煙道が延びる。カマド前面には炭化物・灰が広がる。袖には方形状に加工された総社砂層を用いており、燃焼部内に設置された支脚石も同様の石材を用い円錐状に加工されている。燃焼部は床面よりやや下がり、隅丸方形状を呈する。　**出土遺物**　カマド前面から酸化焔焼成の須恵器坏（１）、羽釜（２）が出土。羽釜はやや球胴で鍔の突出が弱い。　**時期**　出土遺物から 11 世紀前半と想定される。

Ｈ－２号竪穴建物跡　（Fig. ６・27、Tab. ３、PL. ２・９）

位置　X294・295、Y399・400　**主軸方向**　Ｎ－81°－Ｗ　**規模**　全体の 1/3 が調査区外（北側）。東西 3.97 m、南北（3.14）m、壁高 0.20 m。　**床面積**（10.94）㎡　**床面**　地山床　**カマド**　東壁南東隅に位置。長方形を呈する燃焼部のカマド前面部の両脇に方形に加工された総社砂層を２～４個立たせカマド本体の心材としている。燃焼部中央には平たい石を立たせ支脚としている。煙道部へは燃焼部奥壁で垂直気味に立ち上がりほぼ水平に延びる。煙道部長 1.08 m。　**貯蔵穴**　南東隅付近に位置。平面円形のピット状を呈する。蓋受けと考えられる段を有する。　**出土遺物**　酸化焔焼成の須恵器小皿（１～３）、坏（４～６）、土師器甕（７）を図示。南壁付近やカマド内から残存率の高い土器が集中して出土している。須恵器小皿は口径９～ 10 ㎝、器高 2.5cm 前後を測る。　**時期**　出土遺物から 11 世紀前半と想定される。

Ｈ－３号竪穴建物跡　（Fig. ６・28、Tab. ３、PL. ２・９）

位置　X296、Y400・401　**主軸方向**　Ｎ－85°－Ｗ　**規模**　全体の 1/3 が調査区外（北東側）。平面形状方形。東西（2.34）m、南北 2.00 m、壁高 0.06 m。　**床面積**（3.18）㎡　**床面**　地山床　**カマド**　南東隅床面に炭化物よ灰の広がりが確認できるため、この位置にカマドがあると想定される。　**出土遺物**　羽釜（１）を図示。その他に土師器・須恵器の坏・甕の小片が出土している。　**時期**　出土遺物から 10 世紀代と想定される。

Ｈ－４号竪穴建物跡　（Fig. ７・28、Tab. ３、PL. ９）

位置　X293 ～ 295、Y400・401　**主軸方向**　Ｎ－86°－Ｗ　**規模**　平面形状方形。東西 4.12 m、南北 3.36 m、壁高 0.33 m。　**床面積**　13.38 ㎡　**床面**　地山床　**カマド**　東南隅に位置。煙道部長 1.24 m。床面から燃焼部に向かって緩やかに下がり、煙道部へ向かって緩やかに上がる。　**重複**　Ｈ－５～７、Ｄ－ 17 と重複。本遺構はＤ－ 17、Ｈ－５～７より新しい。　**出土遺物**　酸化焔焼成の須恵器小皿（１）、埦（２）、坏（３）を図示。その他に土師器・須恵器の坏・甕が出土している。　**時期**　出土遺物と重複関係から 11 世紀前半と考えられる。

Ｈ－５号竪穴建物跡（Fig. ７、Tab. ３、PL. ２）

位置　X294、Y400　**主軸方向**　Ｎ－86°－Ｅ　**規模**　平面形状方形か。東西（3.03）m、南北（2.03）m、壁高 0.14 m。　**床面積**（5.73）㎡　**床面**　地山床　**カマド**　確認できず　**重複**　Ｈ－４と重複。本遺構はＨ－４より古い。**出土遺物**　土師器・須恵器の坏・甕の小片が出土。　**時期**　出土遺物と重複関係から 10 世紀代と想定される。

Ｈ－６号竪穴建物跡　（Fig. ８・28、Tab. ３、PL. ９）

位置　X295･296、Y401･402　**主軸方向**　Ｎ－26°－Ｗ　**規模**　平面形状方形。東西 4.03 m、南北 3.74 m、壁高 0.21 m。　**床面積**　14.78 ㎡　**床面**　地山床　**カマド**　なし　**重複**　Ｈ－４・７、Ｗ－７と重複。本遺構はＨ－４より古く、Ｈ－７、Ｗ－７より新しい。　**出土遺物**　須恵器の坏（１）、埦（２）と内面黒色処理された酸化焔焼成の須恵器坏（３）を図示。その他に土師器・須恵器の坏・甕や灰釉陶器埦が出土している。　**時期**　出土遺物と重複関係から９世紀後半から 10 世紀前半と想定される。

Ｈ－７号竪穴建物跡　（Fig. ７・28、Tab. ３、PL. ３・９）

位置　X294・295、Y401・402　**主軸方向**　Ｎ－４°－Ｅ　**規模**　平面形状方形。東西2.96ｍ、南北2.89ｍ、壁高0.53ｍ。　**床面積**　7.52㎡　**床面**　地山床　**カマド**　なし　**重複**　Ｈ－４・６と重複。本遺構はＨ－４・６より古い。　**出土遺物**　土錘（１）と石製紡錘車（２）を図示。その他に土師器・須恵器の坏・甕や灰釉陶器埦が出土している。　**時期**　出土遺物と重複関係から９世紀代と想定される。

Ｈ－８号竪穴建物跡　（Fig. ８・９・28・29、Tab. ３、PL. ３・９）

位置　X293・294、Y410・411　**主軸方向**　Ｎ－88°－Ｅ　**規模**　平面形状方形。東西3.04ｍ、南北3.43ｍ、壁高0.06ｍ。　**床面積**　10.62㎡　**床面**　焼土粒と炭化物を含む暗褐色土の貼り床。　**掘り方**　全体的に平坦。　**カマド**　南東隅に位置。長方形を呈する燃焼部の周囲に総社砂層の加工石材を立たせ心材としている。燃焼部の覆土中から被熱した平瓦が出土しており、カマドの構築材として使用していたと考えられる。掘り方はカマド前面にピット上の掘り込みと心材としていた石材の差し込み孔が見られる。　**住居内施設**　Ｄ－41とＤ－38は形状・位置関係から貯蔵穴の可能性が考えられる。共に平面長方形を呈し、底面は比較的平坦である。　**出土遺物**　灰釉陶器埦（１）、須恵器の坏（２）、埦（３～５）、酸化焔焼成の須恵器埦（６～９）、羽釜（10～12）、平瓦（13）を図示。灰釉陶器埦は三日月高台の特徴から大原２号窯式と考えられる。足高高台の椀である（８）は腰部は丸みを持ち口縁部へ向かって直立する。平瓦には「大田」の線刻が見られる。主にカマド、遺構中央部で残存率の高い土器が集中して出土している。　**時期**　出土遺物から10世紀後半と想定される。

Ｈ－９号竪穴建物跡　（Fig. ８、Tab. ３、PL. ３）

位置　X292、Y402　**主軸方向**　Ｎ－４°－Ｗ　**規模**　遺構の大部分が南側（調査区外）に延びる。平面形状方形か。東西（2.82）ｍ、南北（1.44）ｍ、壁高0.19ｍ。　**床面積**（3.69）㎡　**床面**　地山床　**カマド**　確認できず　**重複**　Ｈ－10と重複。本遺構はＨ－10より新しい。　**出土遺物**　土師器・須恵器の坏・甕の小片が出土。　**時期**　出土遺物と重複関係から９世紀代と想定される。

Ｈ－10号竪穴建物跡　（Fig. ８、Tab. ３、PL. ３）

位置　X291・292、Y402　**主軸方向**　Ｎ－５°－Ｅ　**規模**　遺構の大部分が南側（調査区外）に延びる。平面形状方形か。東西（2.35）ｍ、南北（0.88）ｍ、壁高0.13ｍ。　**床面積**（1.80）㎡　**床面**　地山床　**カマド**　なし　**重複**　Ｈ－９と重複。本遺構はＨ－９より古い。　**出土遺物**　土師器・須恵器の坏・甕の小片が出土。　**時期**　出土遺物と重複関係から８世紀末から９世紀初頭と想定される。

Ｈ－11号竪穴建物跡　（Fig. ９・29、Tab. ３、PL. ３・９）

位置　X292・293、Y411・412　**主軸方向**　Ｎ－82°－Ｗ　**規模**　遺構の大部分が西側（調査区外）に延びる。東西（0.41）ｍ、南北（2.78）ｍ、壁高0.10ｍ。　**床面積**（1.19）㎡　**床面**　地山床　**カマド**　東壁に位置。燃焼部は床面から一段下がり、長方形を呈する。燃焼部から煙道部にかけては直立気味に底面が上がる。　**重複**　Ｈ－12と重複。本遺構はＨ－12より古い。　**出土遺物**　須恵器の埦（１・２）、坏（３）、羽釜（４）を図示。北壁付近から残存率の高い土器が集中して出土。　**時期**　出土遺物と重複関係から10世紀前半と想定される。

Ｈ－12号竪穴建物跡　（Fig. ９・29・30、Tab. ３、PL. ３・10）

位置　X292・293、Y412・413　**主軸方向**　Ｎ－83°－Ｗ　**規模**　遺構の大部分が西側（調査区外）に延びる。東西（1.06）ｍ、南北4.77ｍ、壁高0.18ｍ。　**床面積**（4.87）㎡　**床面**　地山床　**カマド**　東壁に位置。燃焼部は床面から一段下がり、隅丸台形を呈する。燃焼部から煙道部にかけては直立気味に底面が上がる。　**重複**　Ｈ－11と重複。本遺構はＨ－11より新しい。　**出土遺物**　灰釉陶器埦（１）、須恵器の坏（２）、酸化焔焼成の須恵器埦（３）、坏（４）、羽釜（５）を図示。その他に土師器・須恵器の坏・甕の小片が出土。　**時期**　出土遺物と重複関係から10世紀後半と想定される。

Ｈ－13 号竪穴建物跡　（Fig. 9、Tab. 3、PL. 4）

位置　X294・295、Y412・413　**主軸方向**　N－18°－W　**規模**　北西隅付近のみ確認。平面形状方形か。東西（1.44）m、南北（2.85）m、壁高 0.17 m。　**床面積**（2.30）㎡　**床面**　地山床　**カマド**　確認できず　**出土遺物**　出土量が極めて少ない。土師器が少量出土。　**時期**　出土遺物から９世紀代と想定される。

Ｈ－14 号竪穴建物跡　（Fig.10・30、Tab. 3、PL. 4・10）

位置　X294・295、Y409・410　**主軸方向**　N－5°－E　**規模**　東側が調査区外に延びる。平面形状方形か。東西（3.41）m、南北 3.49 m、壁高 0.17 m。　**床面積**（11.93）㎡　**床面**　地山床　**カマド**　確認できず　**重複**　H－15 と重複。本遺構はＨ－15 より新しい。　**出土遺物**　酸化焔焼成の須恵器坏（１）、高台の付く皿（２）、羽釜（３・４）を図示。その他に灰釉陶器の埦・壷、緑釉陶器の埦が小片で出土している。　**時期**　出土遺物と重複関係から 11 世紀前半と想定される。

Ｈ－15 号竪穴建物跡　（Fig.10・30、Tab. 3、PL. 4・10）

位置　X294・295、Y410・411　**主軸方向**　N－32°－W　**規模**　東側が調査区外に延びる。平面形状方形か。東西（2.71）m、南北（3.50）m、壁高 0.17 m。　**床面積**（10.07）㎡　**床面**　地山床　**カマド**　北西隅に位置。燃焼部・袖等は判然としないが焼土粒・炭化物が集中していたためカマドと判断。カマド前面から煙道部にかけては緩やかに上がる。　**重複**　H－14・16 と重複。本遺構はＨ－14 より古く、Ｈ－16 より新しい。　**出土遺物**　酸化焔焼成の須恵器の坏（１）と埦（２）を図示。　**時期**　出土遺物と重複関係から10世紀代と想定される。

Ｈ－16 号竪穴建物跡　（Fig.10、Tab. 3、PL. 4）

位置　X294・295、Y411・412　**主軸方向**　N－32°－W　**規模**　東側が調査区外に延びる。平面形状方形か。東西（4.51）m、南北（3.08）m、壁高 0.53 m。　**床面積**（7.44）㎡　**床面**　地山床　**カマド**　確認できず　**重複**　H－15 と重複。本遺構はＨ－15 より古い。　**出土遺物**　土師器・須恵器の坏・甕や灰釉陶器の埦・皿が少量出土。　**時期**　出土遺物と重複関係から９世紀代と想定される。

Ｈ－17 号竪穴建物跡　（Fig.10、Tab. 3、PL. 4）

位置　X298・299、Y418・419　**主軸方向**　N－32°－W　**規模**　北側はトレンチにより消失、東側は調査区外へと延びる。平面形状方形。東西（4.51）m、南北（3.08）m、壁高 0.53 m。　**床面積**（6.51）㎡　**床面**　地山床　**カマド**　南東隅の床面に炭化物・灰の集中箇所が見られるため、この付近（調査区外）にカマドが設置されていると考えられる。　**出土遺物**　土師器と須恵器の甕・坏が少量出土。　**時期**　出土遺物から 10 世紀代と想定される。

Ｈ－18 号竪穴建物跡　（Fig.11・30、Tab. 3、PL. 4・10）

位置　X298・299、Y418　**主軸方向**　N－30°－W　**規模**　遺構の大部分が北側（調査区外）に延びる。平面形状方形か。東西（2.71）m、南北（1.11）m、壁高 0.32 m。　**床面積**（2.03）㎡　**床面**　地山床　**カマド**　南壁中央に位置。楕円形の燃焼部両脇に川原石を立たせカマド・袖の心材としている。燃焼部中央には支脚とみられる川原石が立つ。燃焼部は床面より一段下がり、煙道部へ向かって緩やかに上がる。煙道部長 0.53 m。　**出土遺物**　灰釉陶器の埦（１）、酸化焔焼成の須恵器小皿（２・３）を図示。灰釉陶器埦は伝世品の可能性が考えられる。　**時期**　須恵器の小皿の年代観から 11 世紀前半と想定される。

Ｈ－19 号竪穴建物跡　（Fig.10、Tab. 3、PL. 4・5）

位置　X298・299、Y419　**主軸方向**　N－32°－W　**規模**　遺構の大部分が南側（調査区外）に延びる。東西（2.03）m、南北（0.27）m、壁高 0.53 m。　床面積（0.45）㎡　**床面**　地山床　**カマド**　確認できず　**出土遺物**　遺構の大部分が調査区外であるため出土量が極めて少ない。土師器と須恵器の甕・坏が少量出土。　**時期**　出土遺物から 10 世紀代と想定される。

Ｈ－20 号竪穴建物跡　（Fig.11、Tab. ３、PL. ５）

位置　X288、Y401　**主軸方向**　Ｎ－72°－Ｅ　**規模**　遺構の大部分が調査区外。東西（0.90）m、南北（2.32）m、壁高 0.24 m。　**床面積**（1.86）㎡　**床面**　地山床　**カマド**　東壁に位置。明確な燃焼部は不明。煙道部両脇と覆土上部に中～大型の川原石が出土している。天井等の心材の可能性が考えられる。底面はカマド前面から煙道部へ向かって緩やかに上がる。　**重複**　Ｈ－34、Ｉ－５と重複。本遺構はＩ－５より古く、Ｈ－34 より新しい。**出土遺物**　土師器と須恵器の甕・坏が少量出土。　**時期**　出土遺物と重複関係から９世紀後半から 10 世紀前半と想定される。

Ｈ－21 号竪穴建物跡　（Fig.11・30、Tab. ３、PL. ５・10）

位置　X294、Y417　**主軸方向**　Ｎ－３°－Ｅ　**規模**　南西隅付近のみ確認。東西（1.95）m、南北（1.31）m、壁高 0.09 m。　**床面積**（1.61）㎡　**床面**　地山床。中央部に硬化面が広がる。　**カマド**　確認できず　**重複**　Ｉ－９と重複。本遺構はＩ－９より古い。　**出土遺物**　羽釜（１）を図示。　**時期**　出土遺物から 10 世紀代と想定される。

Ｈ－22 号竪穴建物跡　（Fig.11・12・30、Tab. ３、PL. ５・10）

位置　X293・294、Y419・420　**主軸方向**　Ｎ－２°－Ｗ　**規模**　全体の 1/3 が調査区外。東西 5.27 m、南北（4.13）m、壁高 0.10 m。　**床面積**（17.04）㎡　**床面**　地山床。中央部に硬化面が広がる。　**カマド**　確認できず　**出土遺物**　須恵器の坏（１）、羽釜を図示。その他に灰釉陶器埦や土師器の甕・坏が出土している。　**時期**　出土遺物から 10 世紀前半と想定される。

Ｈ－23 号竪穴建物跡　（Fig.11・12・30、Tab. ３、PL. ５・10）

位置　X292・293、Y419・420　**主軸方向**　Ｎ－62°－Ｗ　**規模**　南北に長い長方形。南側が調査区外。東西 2.76 m、南北（3.55）m、壁高 0.24 m。　**床面積**（8.66）㎡　**床面**　地山床。中央部に硬化面が広がる。　**カマド**　東壁やや南よりに位置。燃焼部は長楕円形を呈し、床面よりわずかに下がる。燃焼部から煙道部へ向かっては緩やかに上がる。燃焼部壁面は被熱し焼土化、底面には炭化物と灰がわずかに残る。部分的に天井が残存する。**出土遺物**　酸化焔焼成の須恵器埦（１）と鎌（２）を図示。その他に羽釜、土師器と須恵器の甕・坏が出土している。　**時期**　出土遺物から 10 世紀代と想定される。

Ｈ－24 号竪穴建物跡　（Fig.12、Tab. ３、PL.10）

位置　X293、Y409　**主軸方向**　Ｎ－83°－Ｗ　**規模**　遺構の大部分が調査区外。東西（0.94）m、南北 4.48 m、壁高 0.21 m。　**床面積**（0.74）㎡　**床面**　地山床　**カマド**　東壁南側に位置。燃焼部は方形を呈する。底面はカマド前面から燃焼部へ向かって緩やかに上がり、奥壁で直立気味に立ち上がり煙道部と延びる。　**出土遺物**　灰釉陶器の段皿（１）を図示。その他に羽釜、土師器と須恵器の甕・坏が出土している。　**時期**　灰釉陶器の段皿やその他の出土遺物の年代観から 10 世紀前半と想定される。

Ｈ－25 号竪穴建物跡　（Fig.12・30・31、Tab. ３、PL. ５・６・10）

位置　X292・293、Y418・419　**主軸方向**　Ｎ－90°－Ｗ　**規模**　東西 3.45 m、南北（2.54）m、壁高 0.13 m。**床面積**　10.44 ㎡　**床面**　地山床。カマド１前面から中央にかけて硬化面が広がる。　**カマド**　東壁に時期差のあるカマド２基確認。カマド１：東南隅に位置。燃焼部は長楕円形を呈し、床面からわずかに下がる。燃焼部から煙道部へ向かって緩やかに上がる。カマド長 1.23 m。カマド２：東壁中央に位置。燃焼部は不明。カマド長 1.14 m。　**出土遺物**　酸化焔焼成の須恵器埦（１）、須恵器の埦（２）、土師器の甕（３）、土錘（４）を図示。その他に灰釉陶器埦、鉄釘等が出土している。　**時期**　出土遺物から 10 世紀前半と想定される。

Ｈ－26 号竪穴建物跡　（Fig.13・31、Tab. ３、PL. ６・10）

位置　X293・294、Y418・419　**主軸方向**　Ｎ－87°－Ｗ　**規模**　東西に長い長方形。東西 5.67 m、南北 4.07 m、壁高 0.53 m。　**床面積**　21.28 ㎡　**床面**　大部分が地山床であるが南西隅部だけ貼り床が施されている。　**掘り**

方　南西隅部に浅い掘り込みを確認。床面とはほぼフラットである。　**カマド**　東壁やや南側に位置。燃焼部は円形状を呈し、両脇に袖の心材として総社砂層の加工石が立つ。床面から燃焼部へはピット状に窪む。　**住居内施設**　中央部に不整形の床下土坑を１基確認。覆土中に土器や焼土粒・炭化物を多く含む。　**重複**　Ｈ－29と重複。本遺構はＨ－29より古い。　**出土遺物**　灰釉陶器の段皿（１）、椀（２）、小椀（３）、瓶（４）、須恵器の坏（５）、酸化焔焼成の須恵器椀（６）、土師器甕（７）を図示。灰釉陶器の出土が目立つ。　**時期**　出土遺物と重複関係から９世紀末から10世紀初頭と想定される。

Ｈ－27号竪穴建物跡　（Fig.14・31、Tab. ３、PL. ６・10）

位置　X296・297、Y418・419　**主軸方向**　Ｎ－79°－Ｗ　**規模**　北側をトレンチにより消失。平面形状方形。東西3.69 m、南北（2.70）m、壁高0.15 m。　**床面積**　12.68 ㎡　**床面**　地山床。カマド前面から中央にかけて硬化面が広がる。　**カマド**　東壁中央に位置。燃焼部は円形を呈し、床面から一段下がる。燃焼部奥壁で直立気味に立ち上がり煙道部へと続く。燃焼部底面には炭化物・灰が集中する。　**出土遺物**　緑釉陶器椀（１）、灰釉陶器椀（２）、酸化焔焼成の須恵器椀（３）、須恵器椀（４）、羽釜（５）、二又状鉄製品（６）を図示。緑釉陶器椀は見込みに陰刻の花文を彫り、内外面に施釉している。灰釉陶器椀は三日月高台の特徴から大原２号窯式と考えられる。二又状鉄製品は先端部（二又部分）は断面方形を呈し、中央部は括れる。基部は錐状に尖り、銹化した木質が残存している。柄と想定される木材に差し込まれていた状態であったと考えられる。用途は不明。**時期**　出土遺物から10世紀前半と想定される。

Ｈ－28号竪穴建物跡　（Fig.14・31、Tab. ３、PL. ６）

位置　X289・290、Y418　**主軸方向**　Ｎ－87°－Ｅ　**規模**　遺構の大部分が南側（調査区外）に延びる。平面形状方形か。東西2.63 m、南北（0.57）m、壁高0.29 m。　**床面積**（0.96）㎡　**床面**　地山床　**出土遺物**　灰釉陶器椀や土師器・須恵器の甕・坏が少量出土している。　**時期**　出土遺物から９世紀代と想定される。

Ｈ－29号竪穴建物跡　（Fig.14・15、Tab. ３、PL. ６・10）

位置　X293・294、Y417・418　**主軸方向**　Ｎ－73°－Ｅ　**規模**　平面形状方形。東西3.75 m、南北（4.04）m、壁高0.18 m。　**床面積**　16.77 ㎡　**床面**　地山床　**カマド**　東壁中央に位置。燃焼部は長楕円形を呈し、床面から一段下がる。燃焼部の両脇には袖の心材として用いられた川原石が直立する。が数点底面は燃焼部から煙道部へ向かって緩やかに上がる。カマド長0.92 m。　**重複**　Ｈ－26・30、Ｉ－10と重複。本遺構はＩ－10より古く、Ｈ－26・30より新しい。　**出土遺物**　酸化焔焼成の須恵器皿（１）、羽釜（２）、鍔付きの土釜（３）を図示。羽釜の鍔には２つ孔が穿たれている。土釜の鍔は耳たぶ状を呈しており、取っ手として使用されたと考えられる。　**時期**　出土遺物と重複関係から11世紀前半と想定される。

Ｈ－30号竪穴建物跡　（Fig.14・15・31、Tab. ３、PL. ６・７・11）

位置　X292・293、Y417・418　**主軸方向**　Ｎ－32°－Ｗ　**規模**　平面形状は南北に長い長方形。東西3.65 m、南北4.77 m、壁高0.30 m。　**床面積**　16.58 ㎡　**床面**　地山床　**カマド**　東壁やや南側に位置。煙道部付近がＩ－10により消失。カマドの心材に使用された総社砂層の破片をカマド前面で確認。カマド確認長0.31 m。　**重複**　Ｈ－29と重複。本遺構はＨ－29より古い。　**出土遺物**　須恵器皿（１）、土師器坏（２）、須恵器甑（３）を図示。その他に土師器・須恵器の甕・坏が出土。　**時期**　出土遺物と重複関係から10世紀前半と想定される。

Ｈ－31号竪穴建物跡　（Fig.15・32、Tab. ３、PL. ７・11）

位置　X291・292、Y417　**主軸方向**　Ｎ－４°－Ｗ　**規模**　全体の1/3が調査区外（北西側）。平面形状方形。東西2.78 m、南北（3.36）m、壁高0.08 m。　**床面積**（6.99）㎡　**床面**　地山床　**カマド**　東壁やや南側に位置。燃焼部は方形を呈し、床面からわずかに下がる。　**出土遺物**　灰釉陶器椀（１）、須恵器椀（２）、坏（３）を図示。灰釉陶器椀は三日月高台の特徴から大原２号窯式と考えられる。カマド内から残存率の高い土器（主に須恵器椀）が集中して出土している。　**時期**　出土遺物から10世紀前半と想定される。

Ｈ－32 号竪穴建物跡　（Fig.15、Tab. 3、PL. 7）

位置　X294、Y402・403　**主軸方向**　N－64°－W　**規模**　カマド煙道部のみ確認。東西（0.73）m、南北0.26 m、壁高 0.18 m。　**床面積**（0.14）㎡　**カマド**　東方向に延びる煙道部。内壁は被熱し良好に焼土化している。　**出土遺物**　なし　**時期**　出土遺物もなく判断し難い。

Ｈ－33 号竪穴建物跡　（Fig.15・32、Tab. 3、PL. 7・11）

位置　X295、Y405・406　**主軸方向**　N－79°－W　**規模**　中央部をトレンチ、北東部をＩ－８によって消失。東西 2.58 m、南北 3.63 m、壁高 0.06 m。　**床面積**　8.99 ㎡　**床面**　地山床　**カマド**　東壁やや南側に位置。燃焼部は隅丸方形を呈し、床面との段差は無く、ほぼ平坦である。　**重複**　Ｉ－８と重複。本遺構はＩ－８より古い。　**出土遺物**　酸化焔焼成の須恵器埦（１）、鉄鏃（２）、石製品（３）を図示。石製品は多角柱状を呈し、片側に穿孔途中と考えられる孔が穿たれている。その他に灰釉陶器の小片や須恵器・土師器の甕・坏が出土している。　**時期**　出土遺物から 10 世紀代と想定される。

Ｈ－34 号竪穴建物跡　（Fig.15・32、Tab. 3、PL. 7・11）

位置　X288・289、Y401・402　**主軸方向**　N－4°－E　**規模**　遺構の大部分が南側（調査区外）に延びる。東西 3.33 m、南北（1.27）m、壁高 0.20 m。　**床面積**（3.78）㎡　**床面**　地山床　**カマド**　確認できず　**重複**　Ｈ－20 と重複。本遺構はＨ－20 より古い。　**出土遺物**　灰釉陶器皿（１）、酸化焔焼成の須恵器埦（２・３）を図示。灰釉陶器皿は光ヶ丘１号窯式（９世紀末頃）に帰属するものであり、他の遺物との年代差があることから伝世品の可能性が考えられる。須恵器埦はやや小形で体部に丸みがある特徴から 10 世紀後半頃と想定される。その他に灰釉・緑釉陶器の小片や須恵器・土師器の甕・坏が出土している。　**時期**　出土遺物と重複関係から 10 世紀後半と想定される。

Ｈ－35 号竪穴建物跡　（Fig.16・32、Tab. 3、PL. 7・11）

位置　X293、Y400・401　**主軸方向**　N－17°－E　**規模**　北西隅が調査区外、南側がＩ－６により消失。東西2.80 m、南北（2.76）m、壁高 0.11 m。　**床面積**（6.25）㎡　**床面**　地山床　**カマド**　確認できず　**重複**　Ｉ－６と重複。本遺構はＩ－６より古い。　**出土遺物**　酸化焔焼成の須恵器坏（１）と埦（２）を図示。その他に灰釉・緑釉陶器の小片や須恵器・土師器の甕・坏が出土。　**時期**　出土遺物と重複関係から 10 世紀代と想定される。

Ｈ－36 号竪穴建物跡　（Fig.16・32、Tab. 3、PL.11）

位置　X293、Y408・409　**主軸方向**　N－1°－E　**規模**　西側が調査区外。平面形状は東西に長い長方形か。東西（3.20）m、南北 2.85 m、壁高 0.16 m。　**床面積**（8.17）㎡　**床面**　地山床　**カマド**　確認できず　**出土遺物**　酸化焔焼成の須恵器埦（１）と羽釜（２）を図示。その他に灰釉陶器の小片や須恵器・土師器の甕・坏が出土している。　**時期**　出土遺物から 10 世紀代と想定される。

２　溝跡

Ｗ－１号溝跡　（Fig.16・17・32・33、Tab. ２・３、PL. １・８・11）

位置　X278～279、Y388～391　**主軸方向**　N－68°－E　**規模**　確認長 41.72 m、上幅〔17.88〕m、下幅〔13.79〕m、深さ 1.85～2.37 m。　**形状**　全体的には直線に近い平面形状であるが３か所のトレンチで確認された立ち上がりの位置を考えると若干蛇行していると考えられる。立ち上がりは概ね 35°の傾斜角を持つ。底面には流路方向に沿って浸食された痕跡が見られる（３トレンチ）。断面形状は逆台形、１トレンチでは南側に浅い段が付く。　**出土遺物**　底面付近から須恵器坏（１）、埦（２）、瓶（３）、羽釜（４）が出土している。中間の層からは銅製の刀の柄頭（５）、酸化焔焼成の須恵器坏（６）が出土している。志野焼鉄絵皿（７）、端反皿（８）、五輪塔の空風輪（９）は中世から近世にかけての土層から出土している。空風輪の正面には種字が陰刻されており、風輪は「カ」、空輪は「キャ」と読める。風輪は上半部に最大径がある円筒形、空輪は下半部が円筒状となる宝珠形で頂部は一部欠損している。風輪との接点の括れ部は深い溝状になっている。形状から 16 世紀後半頃

と推定される。漆器の椀（巻頭写真２）が出土している。底部から体部の小片で非常に脆い。内外面とも下地として炭粉柿下地（柿渋に炭粉を混ぜたもの）を塗り、その上に朱漆を施している。その技法から中世から近世に帰属するものと想定される。その他に底面付近では８～10世紀代の須恵器・土師器の甕・坏の少片、中間から底面の層では馬の歯・骨や流木が出土している。　**時期**　底面から出土している遺物は８～10世紀代までの年代を示しており、10世紀頃までは底面付近まで水が流れるような規模であったことが想定される。覆土中位にAs-B軽石が堆積していることから12世紀初頭頃までに下位の堆積層が形成されたと言える。As-B軽石層より上位は粘性の強い泥層と砂質土が互層状になっており、中世以降も継続して流水していたと考えられる。蒼海城絵図の南東側に描かれている一番外側の堀がこの溝であると想定される。土層断面２層土の上位からは17世紀前半頃の志野焼鉄絵皿（７）が出土しており、蒼海城の堀底がこの高さ位であった可能性が考えられる。最上位の総社砂層ブロックを中心とした人為的な埋め土は蒼海城が城としての機能を果たさなくなった頃、17世紀以降に入れられたものと想定される。

Ｗ－２号溝跡　（Fig.17～19・33、Tab.２・３、PL.８・11）

位置　X295・296、Y387～395　**主軸方向**　北側：N－90°－W、南側：N－19°－W　**規模**　確認長31.21ｍ、上幅1.88ｍ、下幅0.46ｍ、深さ0.63～0.71ｍ。　**形状**　断面形状箱薬研。底面には溝を掘削したときの工具痕が２列並行して確認できる。底面の高低差は北端部と南端部ではほとんど差が無い。　**取水**　Ｗ－２の北側には本遺跡で確認されたＷ－１が東西方向に流れていると想定されるため、ここから取水したと考えられる。但し両溝間には若干の高低差があるため、水車等を用いて揚水していたのではないかと想像される。　**分岐する溝**　北端付近で東側へと分岐する２本の溝が確認された。共にＷ－２から取水していた溝と考えられる。北側の溝をＷ－２a、南側をＷ－２bとした。Ｗ－２aはＷ－２のオーバーフローした水が流れる構造になっている。接続する場所においてＷ－２とＷ－２aの底面の高低差が約0.20ｍと、一定の水量がないとＷ－２aへと流れ込まない構造になっている。Ｗ－２からの取水点とＷ－２aの東端部の高低差は約１ｍ。断面形状は薬研状。Ｗ－２の流水量を調整する役目を担っていた溝と考えられる。Ｗ－２bはＷ－２との接続点の底面高低差はほとんどない。むしろＷ－２より低いため積極的に水を流していたと考えられる。そのためか底面には水流により浸食された痕跡も見られる。堰などで水量調整を行った溝であろうか。Ｗ－２からの取水点とＷ－２bの東端部の高低差は0.28ｍ。断面形状は緩い薬研状。　**出土遺物**　灰釉陶器皿（１）、土師器坏（２）を図示。１は光ヶ丘１号窯式に帰属する。　**時期**　出土遺物から８～９世紀と想定される。

Ｗ－３号溝跡　（Fig.18～20・33、Tab.２・３、PL.８・11）

位置　X293～298、Y389～402　**主軸方向**　N－19°－W　**規模**　確認長50.92ｍ、上幅1.59ｍ、下幅0.22ｍ、深さ0.64～0.76ｍ。　**形状**　断面形状箱薬研。底面には溝掘削時の工具痕が一列確認できる。底面の高低差は北側から南側に向かって緩やかに上がる。両端部の高低差約0.07ｍ。　**取水**　Ｗ－２と同様にＷ－１から取水していたと考えられる。　**出土遺物**　土師器坏（１～３）を図示。　**時期**　出土遺物から８世紀と想定される。

Ｗ－４号溝跡　（Fig.18～20・33、Tab.２・３、PL.８・11）

位置　X293～298、Y389～402　**主軸方向**　N－19°－W　**規模**　確認長56.42ｍ、上幅1.24ｍ、下幅0.68ｍ、深さ0.10～0.29ｍ。　**形状**　断面形状は北側は浅い弧状、南側では浅い逆台形。底面の高低差は北側から南側に向かって緩やかに上がる。両端部の高低差約0.08ｍ。　**取水**　Ｗ－１から取水していたと考えられる。　**出土遺物**　須恵器坏（１）と酸化焔焼成の埦（２）を図示。　**時期**　出土遺物から９世紀後半と想定される。

Ｗ－11号溝跡　（Fig.21・33、Tab.２・３、PL.８・11）

位置　X289・290、Y400～402　**主軸方向**　N－12°－W　**規模**　確認長5.65ｍ、上幅1.41ｍ、下幅0.14ｍ、深さ0.63ｍ。　**形状**　断面薬研状。東側の立ち上がりはやや急で、西側は緩やかに上がる。底面は北側と中央部は平坦、相互で段差が生じている。南側はやや凸凹気味で断面形状も浅い弧状を呈するように違う様相を示

す。底面の高さは南側が高く、北側が続き中央部が一番低い。南側と中央部の高低差は 0.36 m。　**出土遺物**　須恵器皿（１・２）、壷（３）、石製紡錘車（４）を図示。中央部の底面付近から残存率の高い土器が集中して出土。　**時期**　出土遺物から９世紀前半と想定される。

Ｗ－16 号溝跡　（Fig.21・33、Tab. ２・３、PL.12）

位置　X290・291、Y417 ～ 419　**主軸方向**　N － 1 °－ W　**規模**　確認長 41.72 m、上幅 2.60 m、下幅 0.63 m、深さ 0.24 m。　**形状**　断面形状は浅い弧状を呈す。上端は直線的な平面形状であるが、下端はやや蛇行している形状を示す。　**出土遺物**　緑釉陶器埦（１）を図示。その他には須恵器坏、土師器の甕・坏が少量出土している。　**時期**　出土遺物から９世紀代と想定される。

３　井戸・土坑・性格不明遺構・畠跡・ピット

計測値については「Tab. ２　溝・井戸・土坑・性格不明遺構・ピット計測表」を参照のこと。畠跡は溝が Hr-FA 洪水堆積層（Ⅳｂ層）に被覆されているため、６世紀前半の年代と想定される。

Tab. ２　溝・井戸・土坑・性格不明遺構・ピット計測表

溝跡

遺構名	グリッド	主軸方向	確認長 (m)	上幅（m）	下幅（m）	深さ（m）	断面形状	出土遺物	備考
W － 1	X278 ～ 279、Y388 ～ 391	N － 68°－ E	41.72	〔17.88〕	〔13.79〕	1.85 ～ 2.37	逆台形	土師器・須恵器・灰釉陶器・陶器・漆器・銅製品・五輪塔・馬歯・木片	
W － 2	X295・296、Y387 ～ 395	北側：N － 90°－ W 南側：N － 19°－ W	31.21	1.88	0.46	0.63 ～ 0.71	箱薬研状	土師器・須恵器・灰釉陶器	底面に２列の工具痕。
W － 3	X293 ～ 298、Y389 ～ 402	N － 19°－ W	50.92	1.59	0.22	0.64 ～ 0.76	箱薬研状	土師器・須恵器・馬歯	底面に１列の工具痕。
W － 4	X293 ～ 298、Y389 ～ 402	N － 19°－ W	56.42	1.24	0.68	1.85 ～ 2.37	北側：浅い弧状 南側：逆台形	土師器・須恵器	
W － 5	X294 ～ 296、Y391・392	N － 70°－ E	8.59	1.54	1.28	0.13 ～ 0.19	浅い弧状		
W － 6	X292 ～ 295、Y390	N － 81°－ E	9.68	1.00	0.83	0.03 ～ 0.13	浅い弧状	土師器・須恵器・灰釉陶器	
W － 7	X295 ～ 297、Y401	N － 86°－ E	3.95	0.98	0.71	0.12	浅い逆台形	土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器	
W － 8	X293 ～ 295、Y403	N － 87°－ E	7.54	1.04	0.43	0.22	浅い弧状	土師器・須恵器・灰釉陶器	
W － 9	X293 ～ 296、Y403・404	N － 88°－ E	9.83	0.99 ～ 2.22	0.77 ～ 1.92	0.13	浅い箱状	土師器・須恵器・瓦	
W － 10	X293 ～ 296、Y404	N － 89°－ E	9.86	0.53 ～ 0.93	0.40 ～ 0.60	0.06 ～ 0.28	浅い弧状	土師器・須恵器・灰釉陶器・瓦	
W － 11	X289・290、Y400 ～ 402	N － 12°－ W	5.65	1.41	0.14	0.32 ～ 0.63	薬研状	土師器・須恵器・灰釉陶器・石製紡錘車	
W － 12	X293 ～ 295、Y405	N － 87°－ E	9.97	0.81	0.65	0.18 ～ 0.23	浅い弧状	土師器・須恵器・灰釉陶器	
W － 13	X292、Y401	N － 11°－ W	3.31	1.07 ～ 1.39	0.22 ～ 0.71	0.34 ～ 0.36	弧状	土師器・須恵器	
W － 14	X293・294、Y403	N － 85°－ E	2.87	0.75	0.60	0.10	浅い逆台形	土師器・須恵器	
W － 15	X293・294、Y403	N － 85°－ W	1.64	0.48	0.36	0.07	浅い逆台形	土師器・須恵器	
W － 16	X290・291、Y417 ～ 419	N － 1 °－ W	41.72	2.60	0.63	0.17 ～ 0.24	浅い弧状	土師器・須恵器・緑釉陶器・瓦	
W － 17	X288 ～ 290、Y417	N － 81°－ W	5.74	(0.76)	(0.65)	0.05 ～ 0.17	浅い弧状か	土師器・須恵器	
W － 18	X28・289、Y400・401	N － 6 °－ W	3.12	0.81	0.56	0.20 ～ 0.30	浅い弧状		

井戸

遺構名	グリッド	長軸（m）	短軸（m）	確認深度 (m)	平面形状	出土遺物	備考
Ｉ－１	X296、Y391	0.89	0.81	0.68	円形	土師器	
Ｉ－２	X292、Y390	0.89	0.86	0.71	円形		
Ｉ－３	X294・295、Y402・403	1.59	1.47	0.70	円形	土師器・須恵器	
Ｉ－４	X294、Y406・407	2.02	1.91	1.02	円形	土師器・須恵器・灰釉陶器	
Ｉ－５	X288、Y400・401	2.60	2.42	0.72	円形	土師器・須恵器・瓦	
Ｉ－６	X292・293、Y401	1.21	1.20	0.56	円形	土師器・須恵器・灰釉陶器	
Ｉ－７	X293、Y401	2.59	2.15	0.82	楕円形	土師器・須恵器・青磁	
Ｉ－８	X295、Y405・406	2.10	1.70	0.74	楕円形	土師器・須恵器・灰釉陶器	
Ｉ－９	X294、Y416・417	1.55	1.08	0.76	楕円形		
Ｉ－10	X2.93、Y417	1.72	1.52	0.82	楕円形	土師器・須恵器	

遺構名	グリッド	長軸（m）	短軸（m）	確認深度（m）	平面形状	出土遺物	備考
Ｉ－11	X298、Y419	1.46	(0.79)	0.95	円形	土師器・須恵器・陶器	
Ｉ－12	X294・295、Y400・401	2.17	2.10	1.19	隅丸方形	土師器・須恵器・瓦	調査時遺構名称：Ｄ－19

土坑

遺構名	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	平面形状	備考
Ｄ－1	X296、Y394	0.87	0.66	0.19	楕円形	
Ｄ－2	X294、Y389	(0.78)	1.65	0.39	楕円形	
Ｄ－3	X292、Y391	1.03	0.90	0.83	円形	
Ｄ－4	X294、Y390・391	1.23	0.83	0.78	長方形	
Ｄ－5	X291、Y389・390	1.32	1.14	0.16	楕円形	
Ｄ－6	X294、Y390	1.68	1.54	0.87	円形	
Ｄ－7	X291、Y391	0.96	0.41	0.23	長楕円形	
Ｄ－8	X296、Y399	0.69	0.65	0.17	円形	
Ｄ－9	X295・296、Y399・400	0.53	0.47	0.19	円形	
Ｄ－10	X296、Y400	0.97	0.76	0.18	楕円形	
Ｄ－11	X295・296、Y400	0.91	0.86	0.19	円形	
Ｄ－12	X296、Y400	(1.80)	0.93	0.25	長方形	
Ｄ－13	X295・296、Y401	1.70	1.55	0.10	円形	土師器坏が多く出土
Ｄ－14	X295・296、Y403	0.95	0.93	0.14	円形	
Ｄ－15	X296、Y403	(0.88)	0.68	0.18	長方形	
Ｄ－16	X296、Y403	(0.40)	1.00	0.16	方形か	
Ｄ－17	X294、Y400・401	1.55	0.63	0.04	長方形	
Ｄ－18	X296、Y402	1.82	0.80	0.09	長楕円形	
Ｄ－20	X294・295、Y405・406	1.70	0.85	0.15	長楕円形	
Ｄ－21	X294、Y410	1.26	1.16	0.12	円形	

遺構名	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	平面形状	備考
Ｄ－22	X293・294、Y405	0.75	0.66	0.20	円形	
Ｄ－23	X293、Y405	0.49	0.44	0.26	円形	
Ｄ－24	X294、Y405	0.96	0.96	0.20	円形	
Ｄ－25	X295、Y405	0.82	0.67	0.12	楕円形	
Ｄ－26	X291、Y401	1.00	0.98	0.14	円形	
Ｄ－27	X294、Y411	1.03	0.70	0.28	楕円形	
Ｄ－28	X294、Y412	0.81	0.73	0.17	円形	
Ｄ－29	X291、Y401	1.63	0.95	0.19	長方形	
Ｄ－30	X294、Y415	1.17	0.87	0.11	楕円形	
Ｄ－31	X294、Y415	0.88	0.80	0.16	円形	
Ｄ－32	X293・294、Y415・416	0.70	0.45	0.14	楕円形	
Ｄ－33	X293、Y416	0.65	0.55	0.15	楕円形	
Ｄ－34	X294、Y406	0.88	0.63	0.05	楕円形	
Ｄ－35	X294、Y404	0.44	0.36	0.10	円形	
Ｄ－36	X295、Y408	0.52	0.30	0.15	不整形	
Ｄ－37	X291、Y417・418	0.81	0.50	0.10	長方形	
Ｄ－38	X293、Y410・411	1.20	0.71	0.32	方形	
Ｄ－39	X291・292、Y418	1.79	1.40	0.25	方形	
Ｄ－40	X293、Y410	0.92	0.85	0.24	円形	
Ｄ－41	X293、Y410・411	1.30	0.75	0.28	方形	

※Ｄ－19は欠番

性格不明遺構

遺構名	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	平面形状	備考
SX－1	X295、Y392・393	3.42	2.06	0.20	不整形	

遺構名	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	平面形状	備考
SX－2	X289～291、Y389・390	9.10	4.82	0.07～0.25	不整形	

ピット

遺構名	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	平面形状	備考
Ｐ－1	X295、Y396	0.28	0.27	0.22	円形	
Ｐ－2	X295、Y395	0.64	0.62	0.20	円形	
Ｐ－3	X295、Y395	0.31	0.30	0.16	円形	
Ｐ－4	X295、Y395	0.41	0.35	0.28	円形	
Ｐ－5	X295、Y394	0.50	0.41	0.28	楕円形	
Ｐ－6	X295、Y394	0.30	0.27	0.20	円形	
Ｐ－7	X296、Y395	0.30	0.29	0.23	円形	
Ｐ－8	X296、Y394	0.47	0.50	0.20	楕円形	
Ｐ－9	X296、Y394	0.30	0.26	0.20	楕円形	
Ｐ－10	X296、Y392	0.26	0.25	0.08	円形	
Ｐ－11	X295、Y394	0.32	0.28	0.25	円形	
Ｐ－12	X294・295、Y392	0.70	0.50	0.28	楕円形	
Ｐ－13	X296、Y391	0.29	0.28	0.10	円形	
Ｐ－14	X296、Y391	0.43	0.40	0.10	円形	
Ｐ－15	X296、Y390	0.44	0.35	0.11	楕円形	
Ｐ－16	X292・293、Y389	0.28	0.25	0.11	円形	
Ｐ－17	X293、Y390	0.40	0.34	0.13	楕円形	
Ｐ－18	X293、Y390	0.41	0.33	0.15	楕円形	
Ｐ－19	X296、Y392	0.41	0.40	0.18	円形	
Ｐ－20	X296、Y392	0.66	0.50	0.14	楕円形	
Ｐ－21	X295、Y390	0.81	0.61	0.11	楕円形	
Ｐ－22	X294、Y405	0.41	0.35	0.13	円形	
Ｐ－23	X292・293、Y411	0.47	0.46	0.12	円形	
Ｐ－24	X293、Y406	0.28	0.26	0.35	円形	
Ｐ－25	X294、Y404	0.37	0.29	0.23	楕円形	
Ｐ－26	X293、Y406	0.42	0.30	0.16	楕円形	

遺構名	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	平面形状	備考
Ｐ－27	X294、Y408	0.30	0.29	0.04	円形	
Ｐ－28	X294、Y408	0.25	0.25	0.24	円形	
Ｐ－29	X294、Y408・409	0.42	0.41	0.23	円形	
Ｐ－30	X294、Y404	0.37	0.37	0.41	円形	
Ｐ－31	X294、Y416	0.48	0.46	030	円形	
Ｐ－32	X294、Y415・416	0.32	0.30	0.07	円形	
Ｐ－33	X294、Y404	0.27	0.27	0.20	円形	
Ｐ－34	X294、Y404	0.27	0.25	0.20	円形	
Ｐ－35	X292、Y416	0022	0.22	0.04	円形	
Ｐ－36	X294、Y409	0.37	0.37	0.15	円形	
Ｐ－37	X293、Y409	0.33	0.31	0.15	円形	
Ｐ－38	X294、Y409	0.26	0.25	0.16	円形	
Ｐ－39	X294、Y409	0.41	0.40	0.18	円形	
Ｐ－40	X292、Y419	0.43	0.38	0.32	楕円形	
Ｐ－41	X292、Y419	0.60	0.47	0.38	楕円形	
Ｐ－42	X288、Y418	0.44	0.38	0.15	円形	
Ｐ－43	X289、Y417	0.25	0.24	0.11	円形	
Ｐ－44	X289、Y417	0.30	0.27	0.10	円形	
Ｐ－45	X289、Y417	0.26	0.26	0.16	円形	
Ｐ－46	X294、Y409	0.41	0.36	0.21	楕円形	
Ｐ－47	X295、Y409	0.31	0.30	0.20	円形	
Ｐ－48	X293・294、Y404	0.25	0.22	0.07	円形	
Ｐ－49	X293・294、Y404・405	0.39	0.36	0.20	円形	
Ｐ－50	X294、Y404	0.25	0.25	0.05	円形	
Ｐ－51	X294、Y405	0.30	0.20	0.06	方形	
Ｐ－52	X295、Y404	0.33	0.30	0.15	円形	

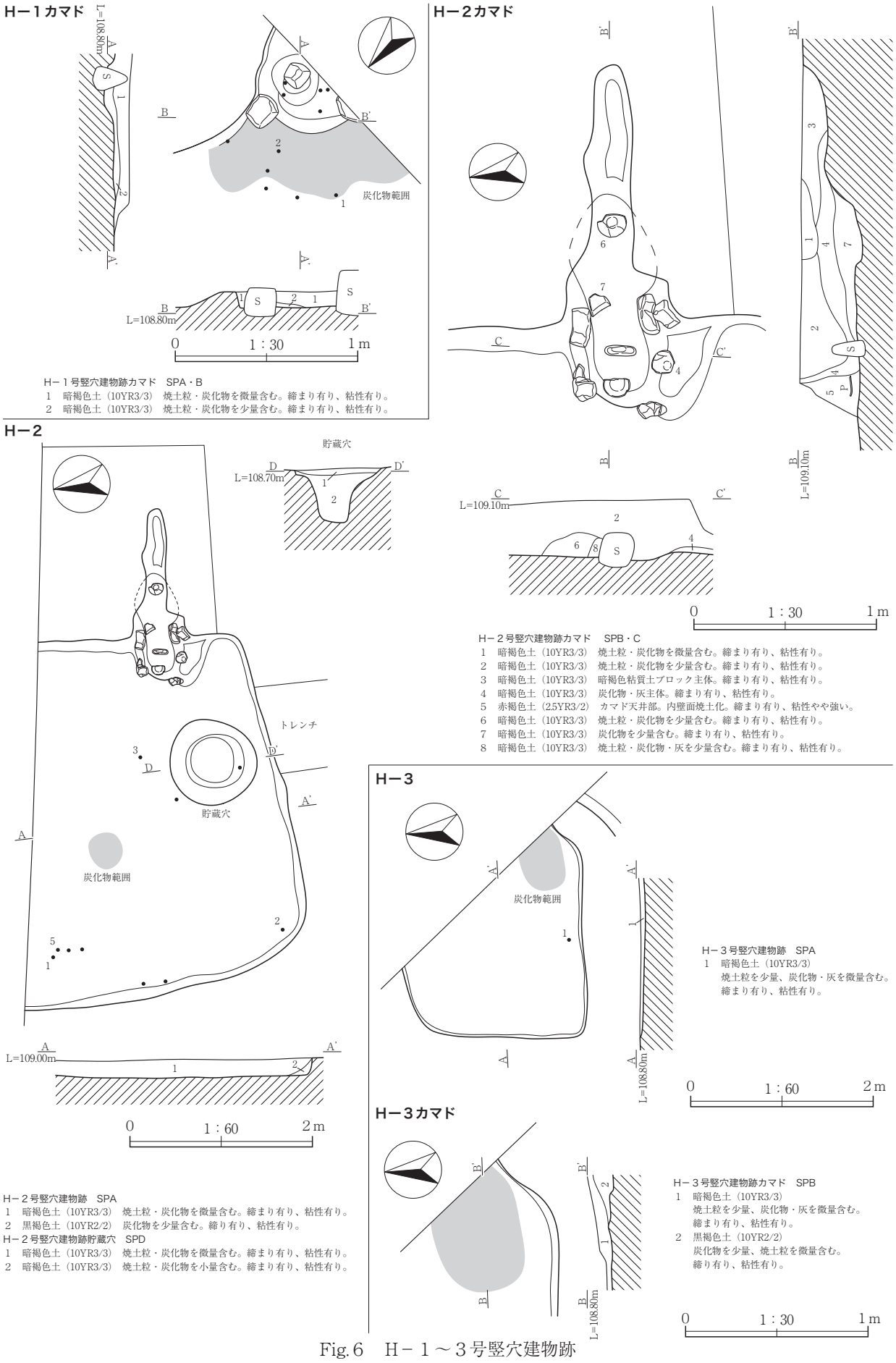
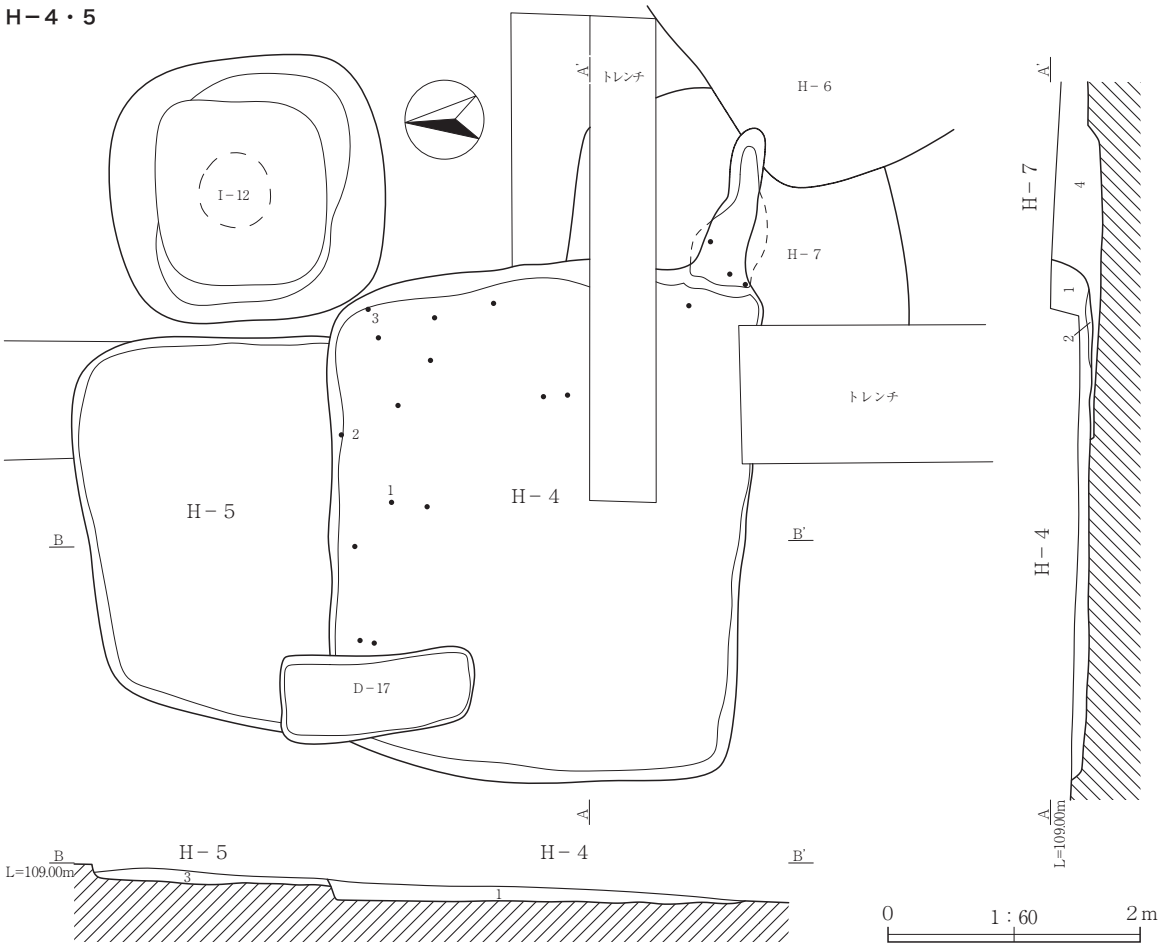


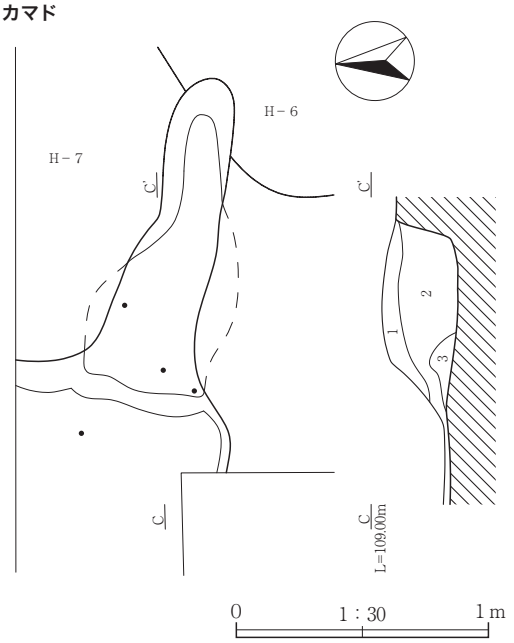
Fig. 6　H－１～３号竪穴建物跡

H－4・5

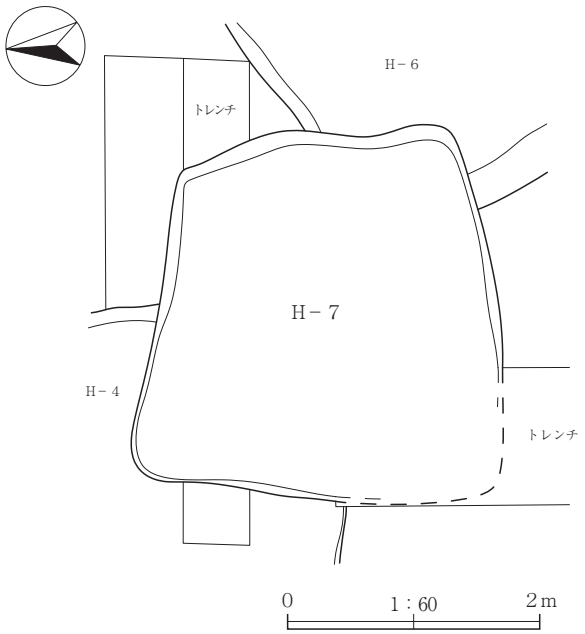


H－４・５・７号竪穴建物跡　SPA・B
1　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。H－４覆土
2　黒褐色土（10YR3/2）　灰主体。焼土粒を微量含む。締まりやや弱い、粘性有り。H－４覆土
3　暗褐色土（10YR3/3）　白色軽石・焼土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。H－５覆土
4　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒・炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。H－７覆土

H－4カマド



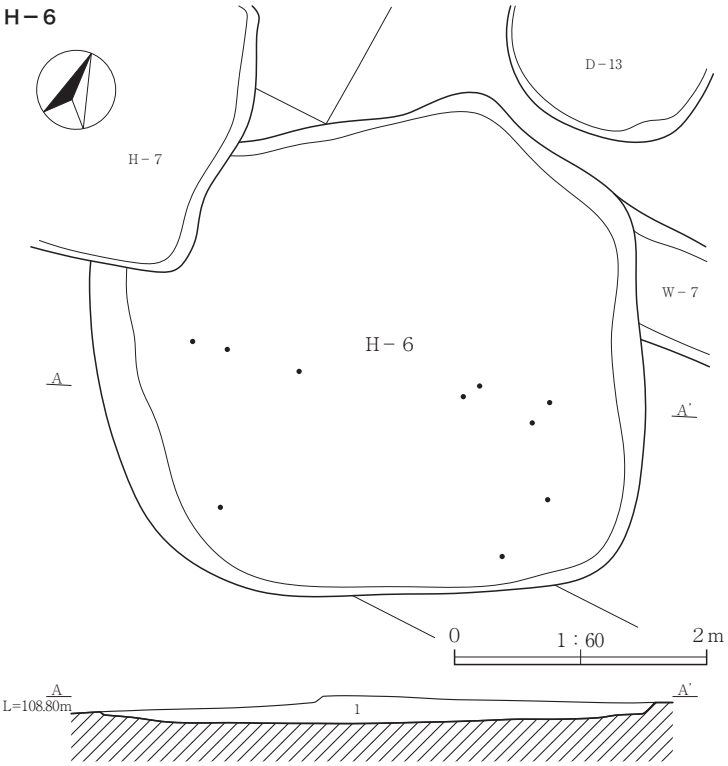
H－7



H－４号竪穴建物跡カマド　SPC
1　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。
3　黒褐色土（10YR2/2）　灰・黄褐色粘質土ブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。

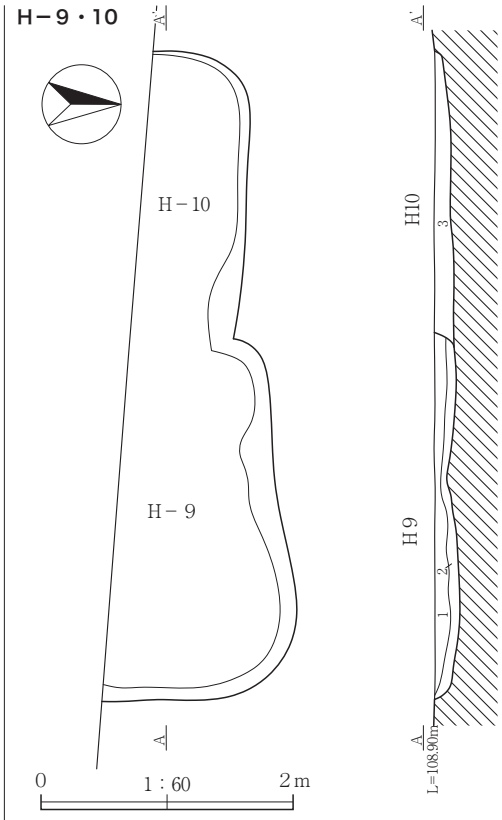
Fig.7　H－４・５・７号竪穴建物跡

H－6



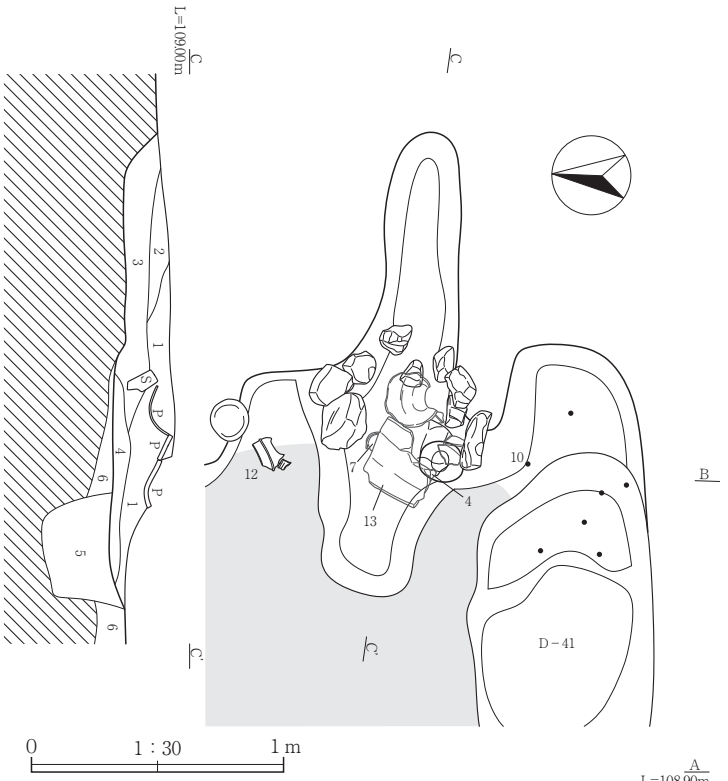
H－６号竪穴建物跡　SPA
1　暗褐色土（10YR3/4）　白色軽石・焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。

H－9・10

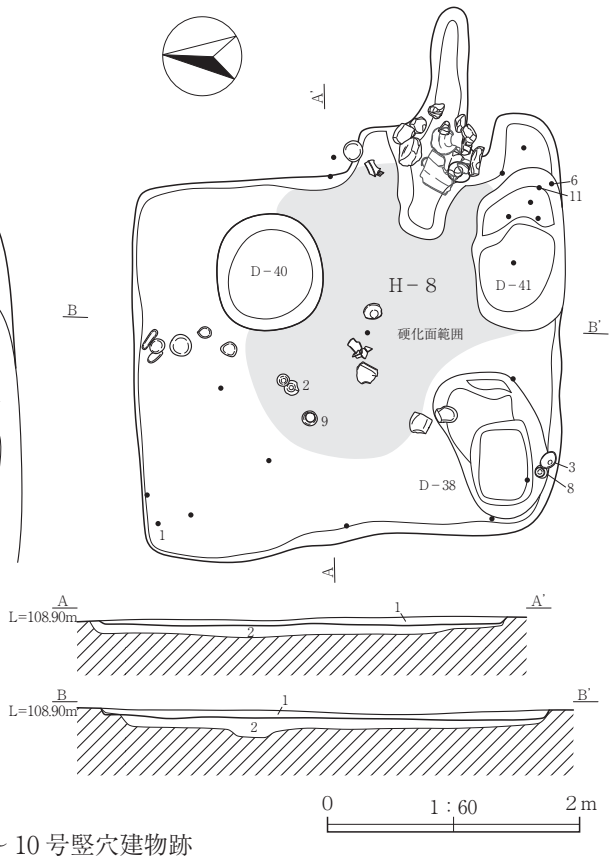


H－９・10号竪穴建物跡　SPA
1　暗褐色土（10YR3/4）
白色軽石・焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。H－９覆土
2　暗褐色土（10YR3/4）
焼土粒・炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。H－９覆土
3　暗褐色土（10YR3/4）
焼土粒を少量、白色軽石を微量含む。締まり有り、粘性有り。H－10覆土

H－8カマド



H－8

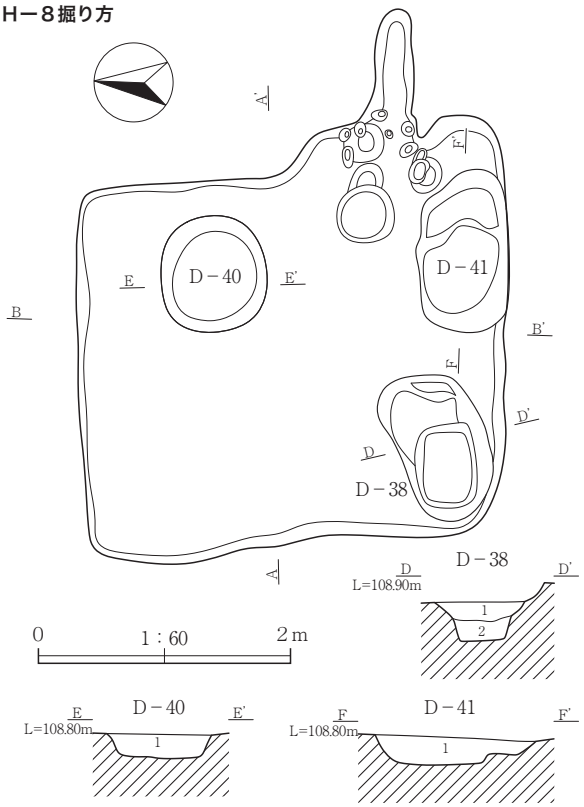


H－８号竪穴建物跡　SPA・B
1　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒・炭化物を小量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒・炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。掘り方

H－８号竪穴建物跡カマド　SPC
1　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒を少量、炭化物・灰を微量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。
3　黒褐色土（10YR2/2）　灰主体。締まり有り、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/3）　灰を少量、焼土粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。
5　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。掘り方
6　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒・炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。掘り方

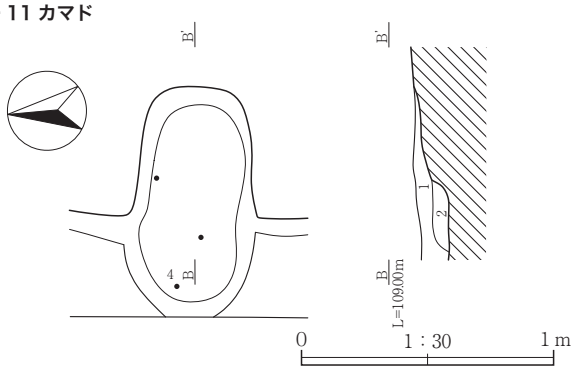
Fig.8　H－６・８～10号竪穴建物跡

H－8掘り方



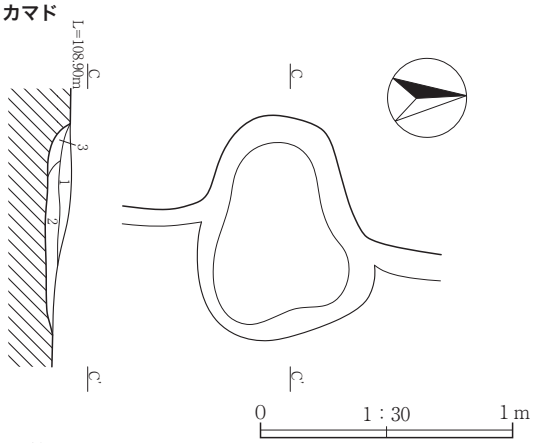
D－38 号土坑　SPD
1　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒・炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/4）　炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
D－40 号土坑　SPE
1　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
D－41 号土坑　SPF
1　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒を少量、炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。

H－11 カマド



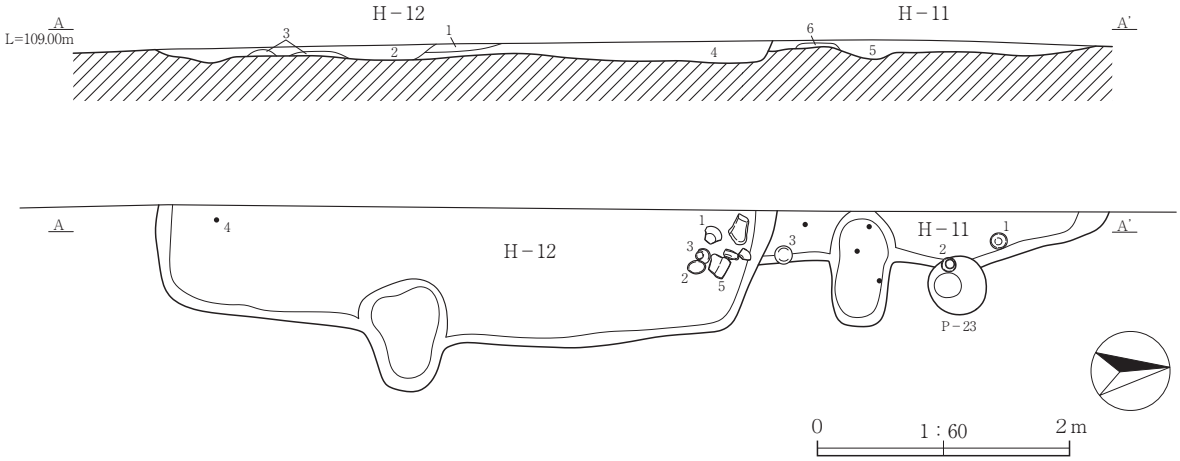
H－11 号竪穴建物跡カマド　SPB
1　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
2　黒褐色土（10YR2/2）　焼土粒・灰を少量、炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。

H－12 カマド



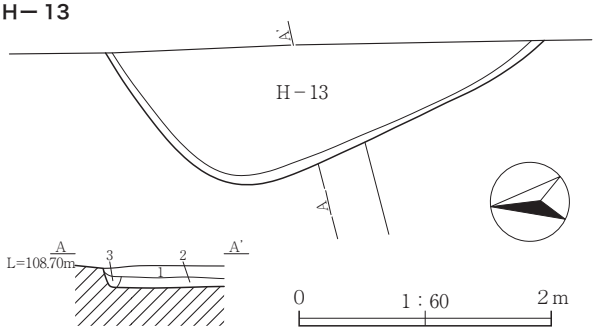
H－12 号竪穴建物跡カマド　SPC
1　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒を少量、炭化物・灰を微量含む。締まり有り、粘性有り。
3　黒褐色土（10YR2/2）　炭化物を少量、焼土粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。

H－11・12



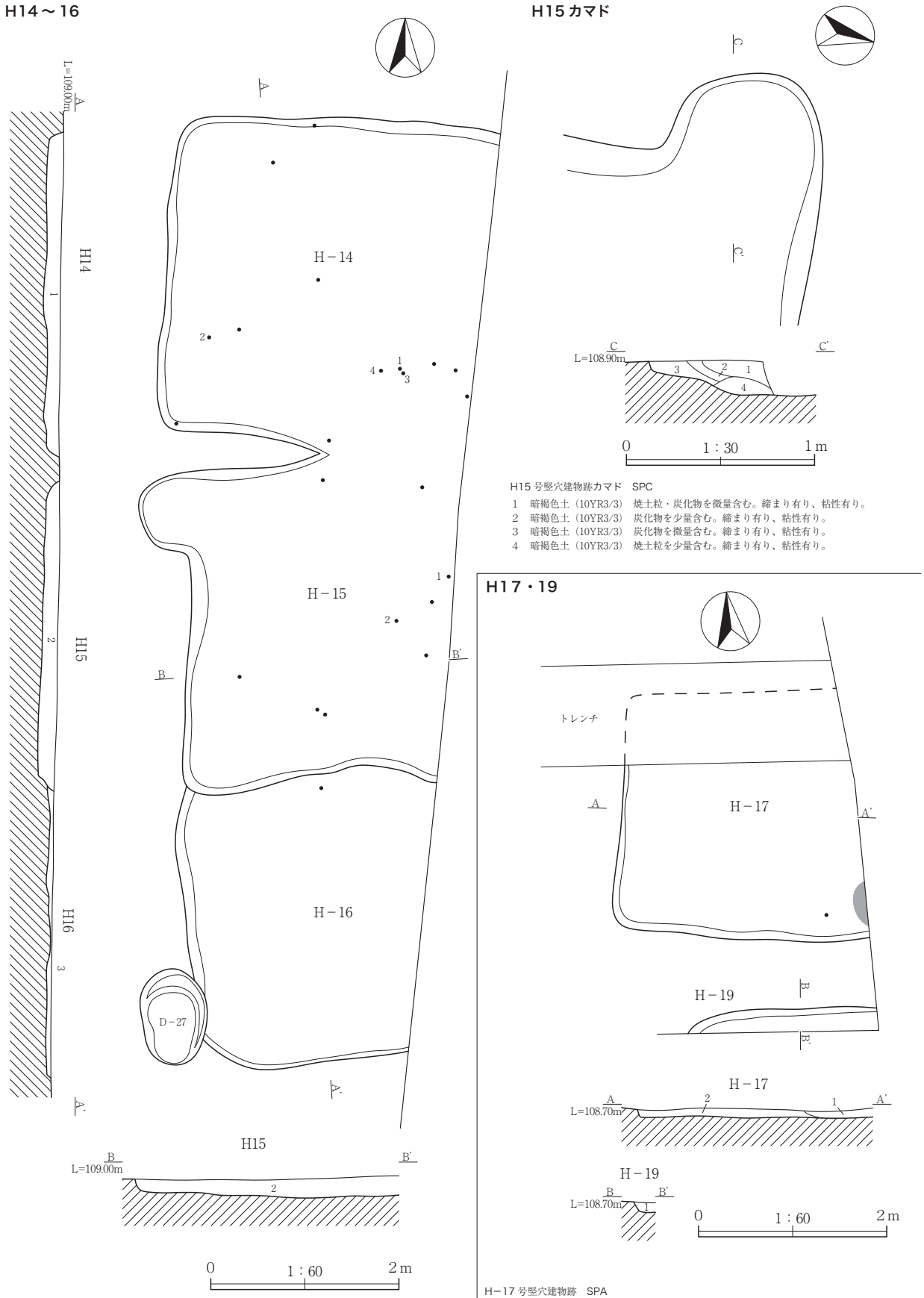
H－11・12 号竪穴建物跡　SPA
1　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒を少量、炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。H－12 覆土
2　黒褐色土（10YR2/2）　炭化物・灰を少量含む。締まり有り、粘性有り。H－12 覆土
3　暗褐色土（10YR3/4）　炭化物を少量、焼土粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。H－12 覆土
4　暗褐色土（10YR3/4）　焼土ブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。H－12 覆土
5　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。H－11 覆土
6　黒褐色土（10YR2/2）　炭化物・灰を少量含む。締まり有り、粘性有り。H－11 覆土

H－13



H－13 号竪穴建物跡　SPA
1　黒褐色土（10YR2/2）　炭化物を少量、焼土ブロックを微量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/4）　黄白色粘質土ブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。

Fig. 9　H－８号竪穴建物跡掘り方、H－11 ～ 13 号竪穴建物跡



H15 号竪穴建物跡カマド　SPC

1　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒・炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/3）　炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/3）　炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。

H14～16 号竪穴建物跡　SPA・B

1　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。H－14 覆土。
2　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒・炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。H－15 覆土。
3　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。H－16 覆土。

H－17 号竪穴建物跡　SPA

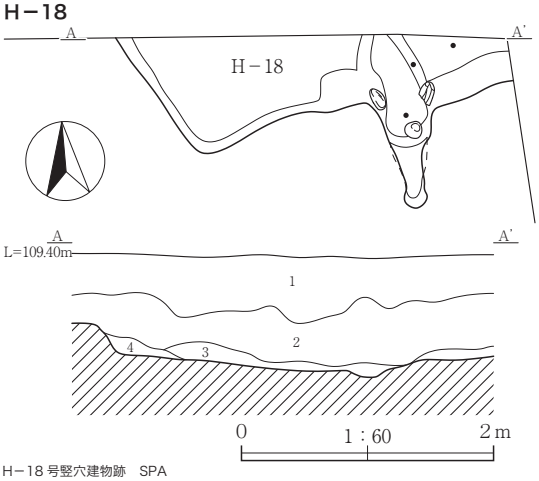
1　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/4）　白色軽石を少量、焼土粒・炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。

H－19 号竪穴建物跡　SPB

1　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。

Fig.10　H－14 ～ 17・19 号竪穴建物跡

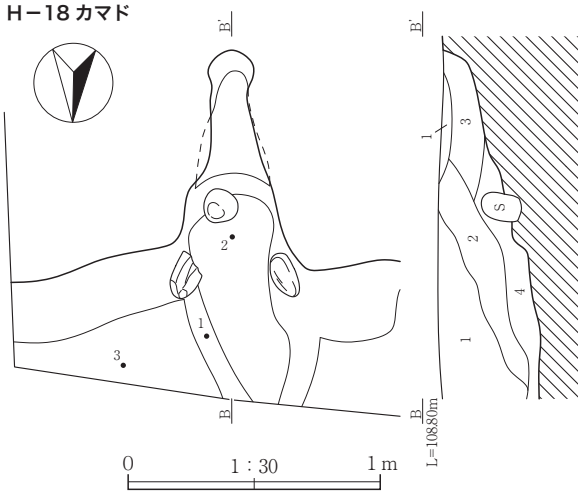
H－18



H－18 号竪穴建物跡　SPA

1　表土層
2　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒・炭化物・灰を少量含む。締まり有り、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。

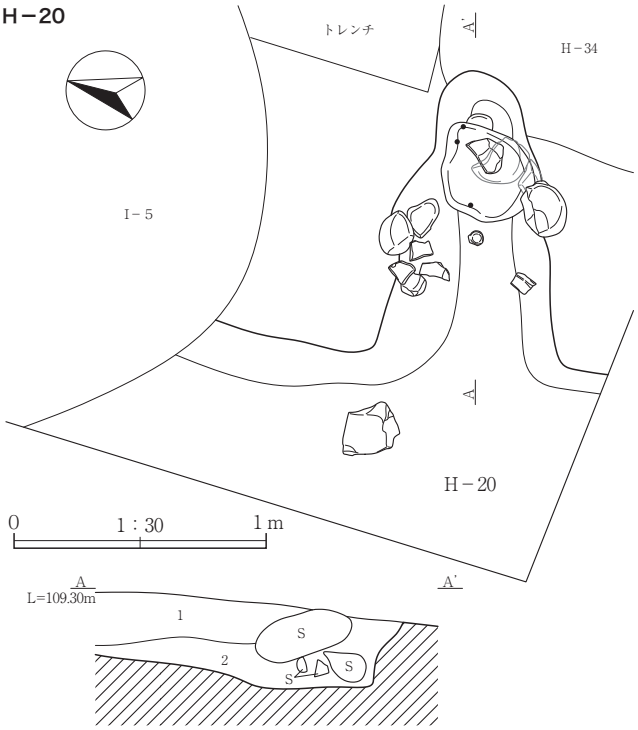
H－18 カマド



H－18 号竪穴建物跡カマド　SPB

1　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒を少量、炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
2　黒褐色土（10YR2/2）　炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/3）　炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/3）　炭化物・灰を少量、焼土粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。

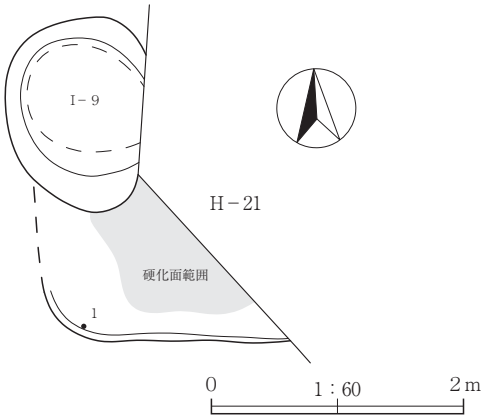
H－20



H－20号竪穴建物跡カマド　SPA

1　暗褐色土（10YR3/4）　砂質土。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒・炭化物を少量、灰を微量含む。締まり有り、粘性有り。

H－21



H－22・23

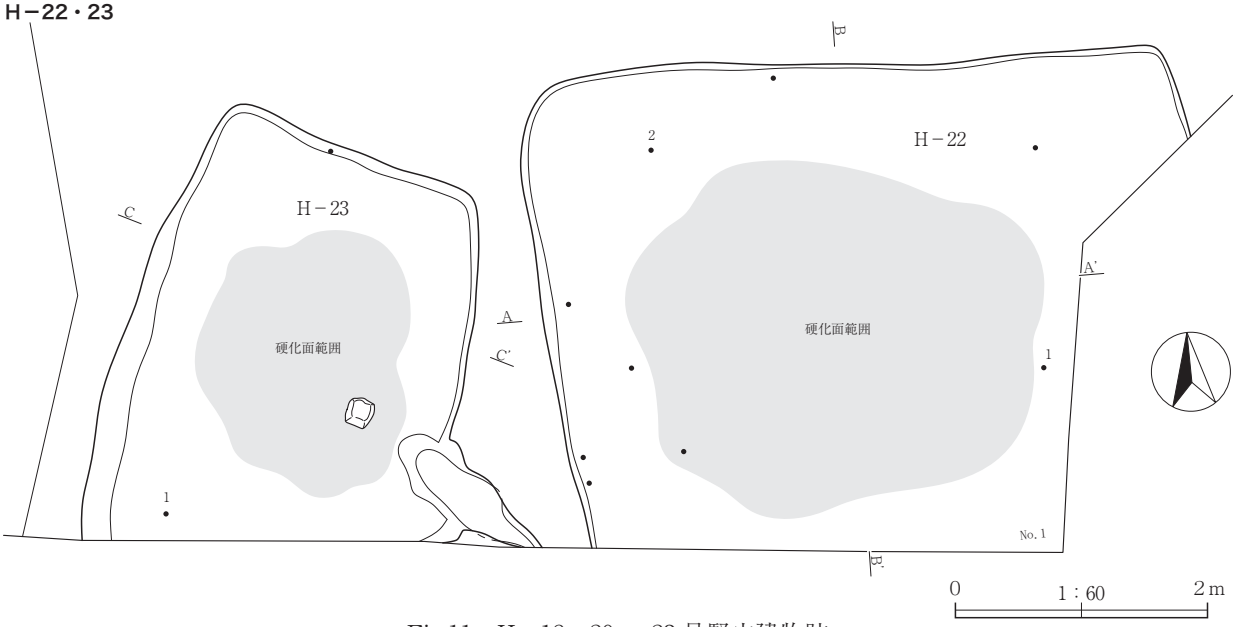
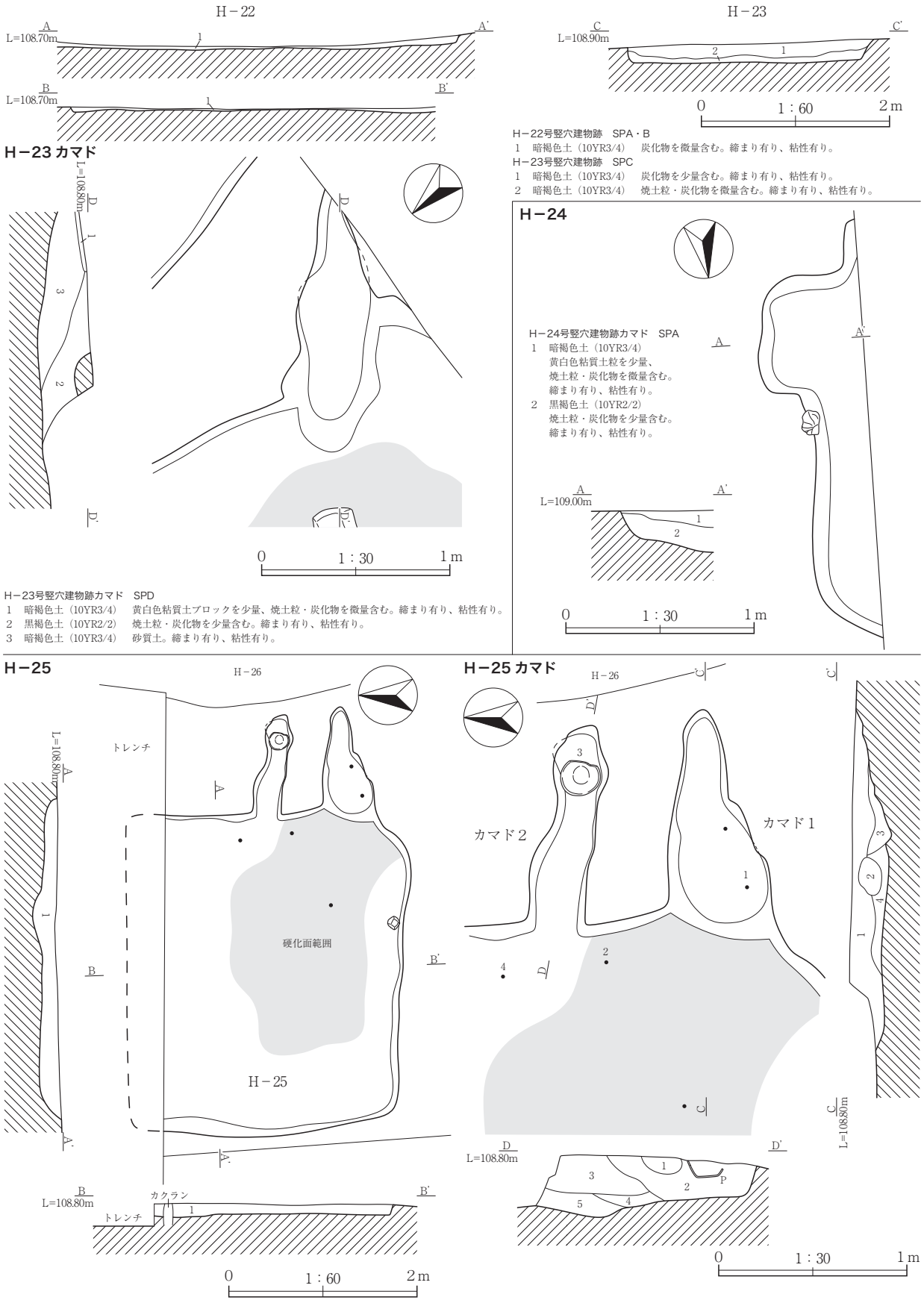


Fig.11　H－18・20 ～ 23 号竪穴建物跡



H－22号竪穴建物跡　SPA・B
1　暗褐色土（10YR3/4）　炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
H－23号竪穴建物跡　SPC
1　暗褐色土（10YR3/4）　炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒・炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。

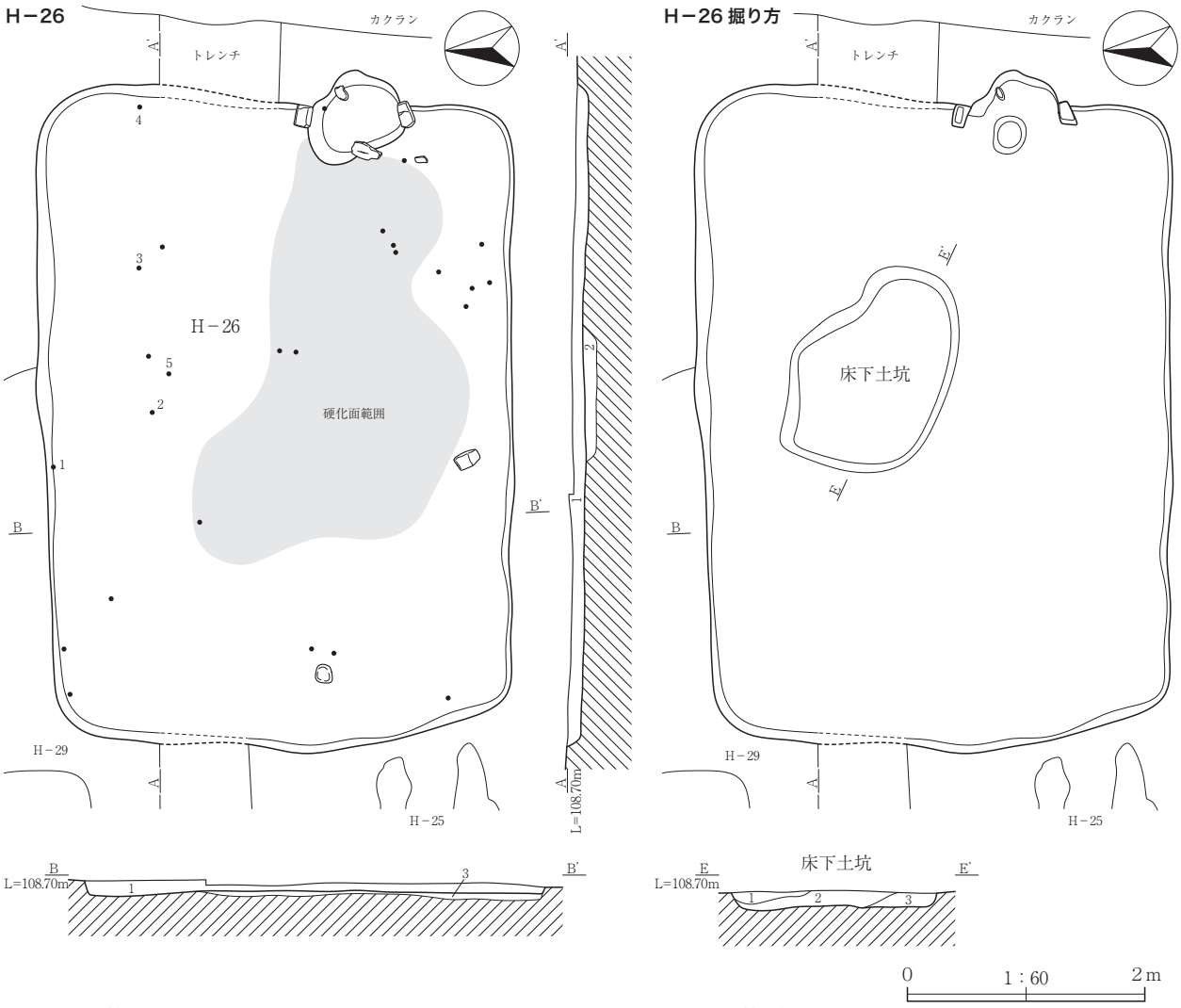
H－23号竪穴建物跡カマド　SPD
1　暗褐色土（10YR3/4）　黄白色粘質土ブロックを少量、焼土粒・炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
2　黒褐色土（10YR2/2）　焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/4）　砂質土。締まり有り、粘性有り。

H－24号竪穴建物跡カマド　SPA
1　暗褐色土（10YR3/4）
黄白色粘質土粒を少量、
焼土粒・炭化物を微量含む。
締まり有り、粘性有り。
2　黒褐色土（10YR2/2）
焼土粒・炭化物を少量含む。
締まり有り、粘性有り。

H－25 号竪穴建物跡　SPA・B
1　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
H－25 号竪穴建物跡カマド１　SPC
1　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒・炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
2　赤褐色土（2.5YR3/2）　天井崩落土。内壁面焼土化。締まり有り、粘性やや強い。
3　褐灰色（10YR6/1）　灰主体。焼土粒・炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
4　黒褐色土（10YR2/2）　炭化物・灰を少量含む。締まり有り、粘性有り。

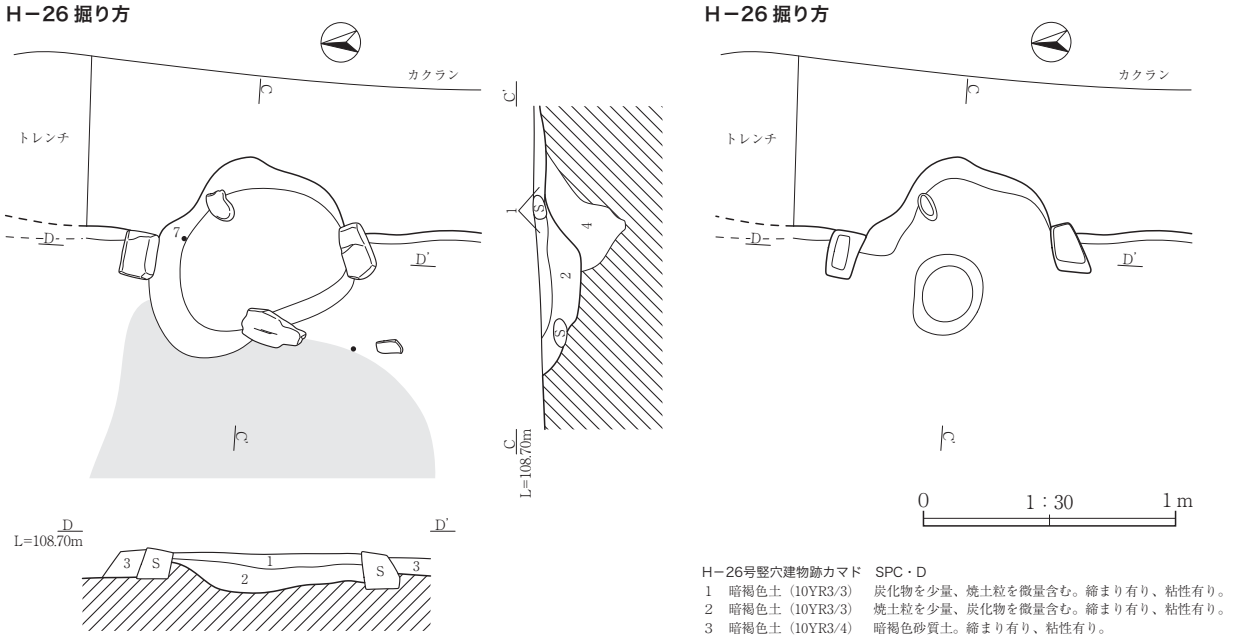
H－25 号竪穴建物跡カマド２　SPD
1　赤褐色土（2.5YR3/2）　天井崩落土。内壁面焼土化。締まり有り、粘性やや強い。
2　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒を少量、炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒・炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
5　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒・炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。

Fig.12　H－23 号竪穴建物跡カマド、H－24・25 号竪穴建物跡



H－26号竪穴建物跡　SPA・B
1　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。床下土坑。
3　暗褐色土（10YR3/4）　炭化物を少量、焼土粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。掘り方。

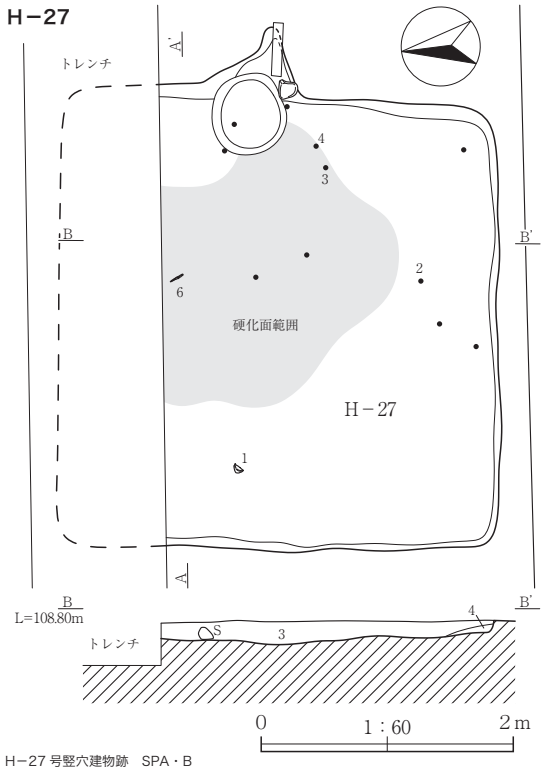
H－26号竪穴建物跡床下土坑　SPE
1　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒を多量、炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
3　黒褐色土（10YR2/2）　焼土ブロック・灰を少量含む。締まり有り、粘性有り。



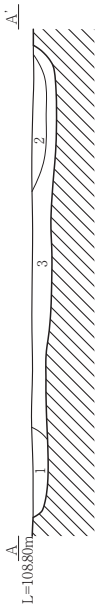
H－26号竪穴建物跡カマド　SPC・D
1　暗褐色土（10YR3/3）　炭化物を少量、焼土粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒を少量、炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/4）　暗褐色砂質土。締まり有り、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒・炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。

Fig.13　H－26 号竪穴建物跡

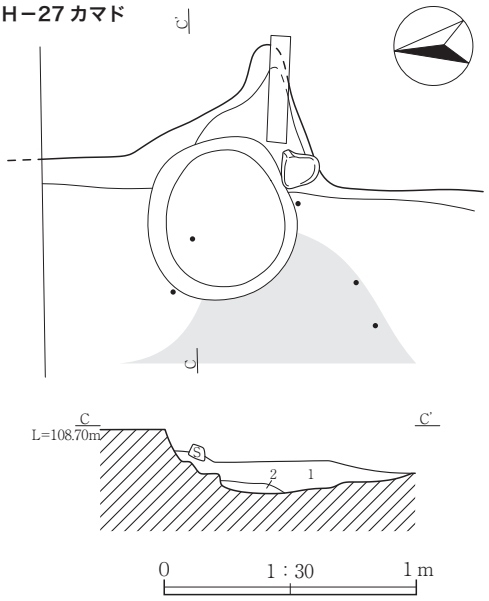
H－27



H－27 号竪穴建物跡　SPA・B
1　暗褐色土（10YR3/4）　褐色粘質土ブロック・焼土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒を少量、褐色粘質土粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/4）　炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。

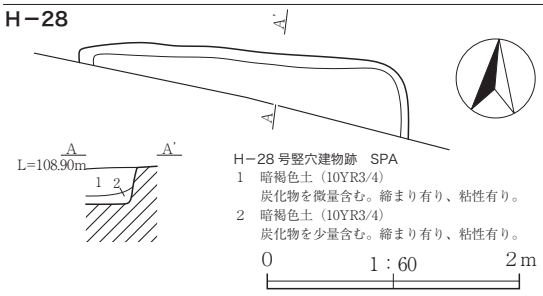


H－27 カマド



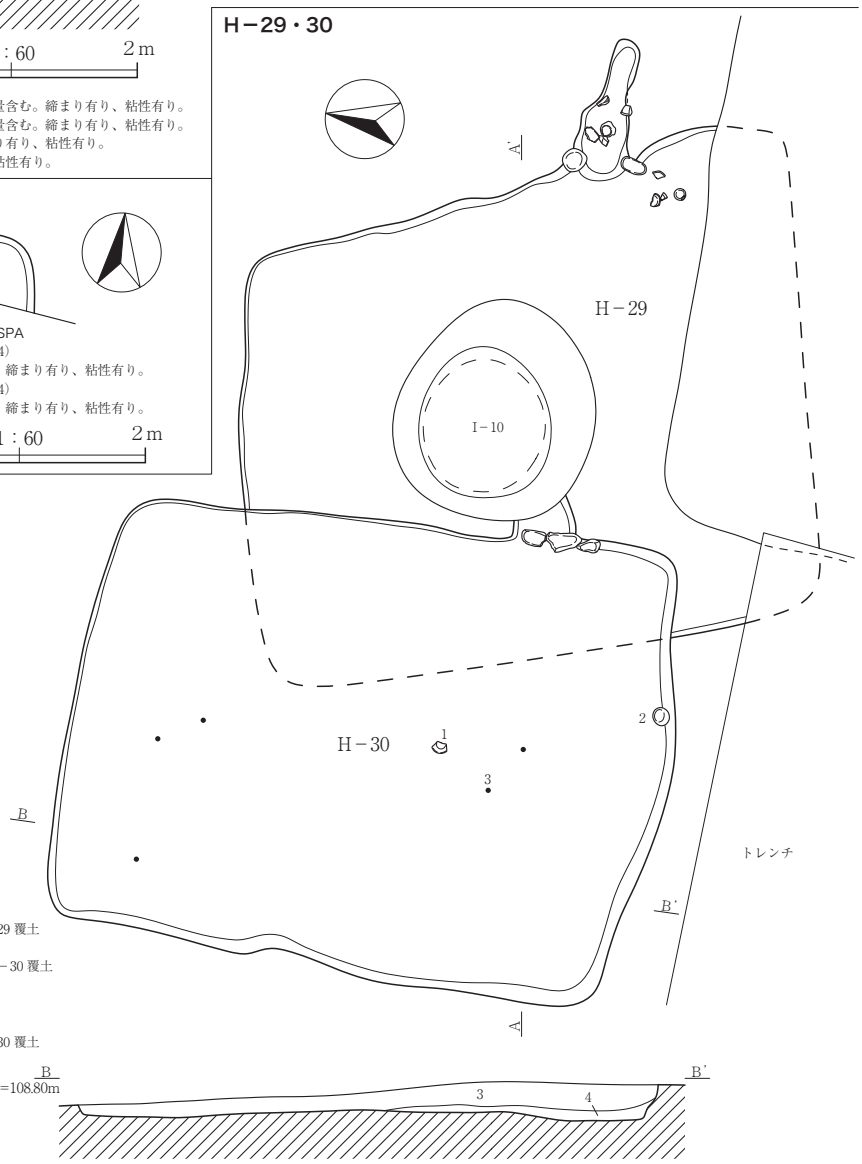
H－27 号竪穴建物跡カマド　SPC
1　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
2　黒褐色土（10YR2/2）　炭化物・灰主体。締まり有り、粘性有り。

H－28

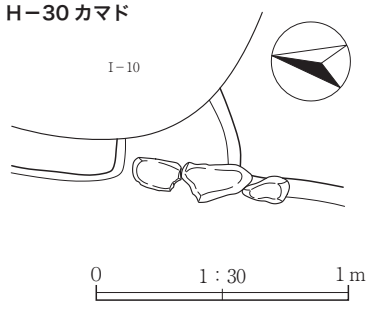


H－28 号竪穴建物跡　SPA
1　暗褐色土（10YR3/4）
炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/4）
炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。

H－29・30

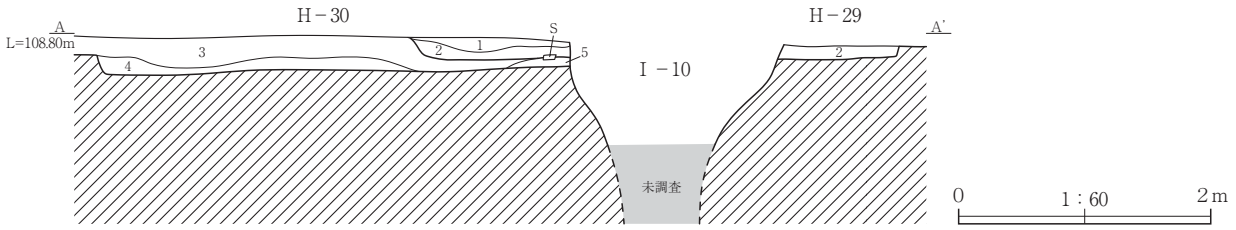


H－30 カマド

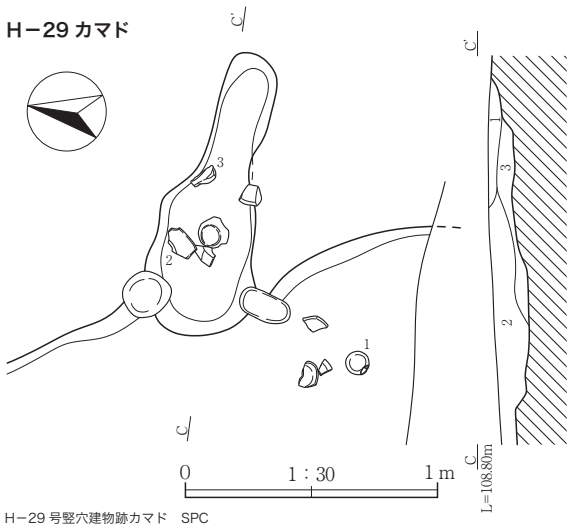


H－29・30 号竪穴建物跡　SPA・B
1　黒褐色土（10YR2/2）
炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。H－29 覆土
2　暗褐色土（10YR3/3）
焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。H－29 覆土
3　暗褐色土（10YR3/4）
灰を少量、炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。H－30 覆土
4　暗褐色土（10YR3/4）
焼土粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。H－30 覆土
5　暗褐色土（10YR3/4）
粘質土。焼土粒を少量。締まり有り、粘性やや強い。H－30 覆土

Fig.14　H－27・28・30 号竪穴建物跡

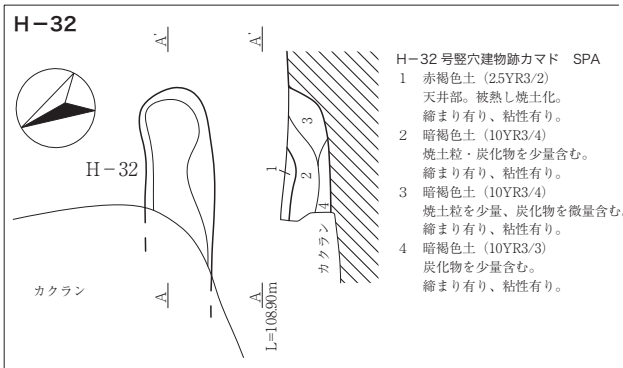


H－29 カマド



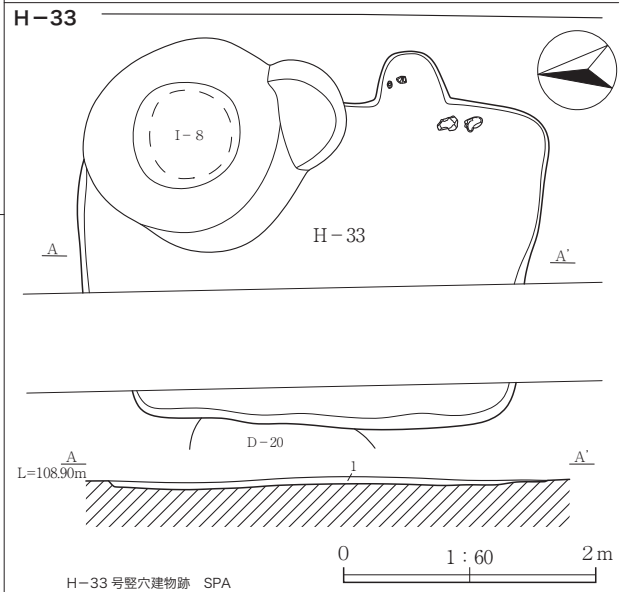
H－29 号竪穴建物跡カマド　SPC
1　赤褐色土（2.5YR3/2）　天井崩落土。内壁面焼土化。締まり有り、粘性やや強い。
2　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
3　黒褐色土（10YR2/2）　炭化物・灰主体。締まり有り、粘性有り。

H－32



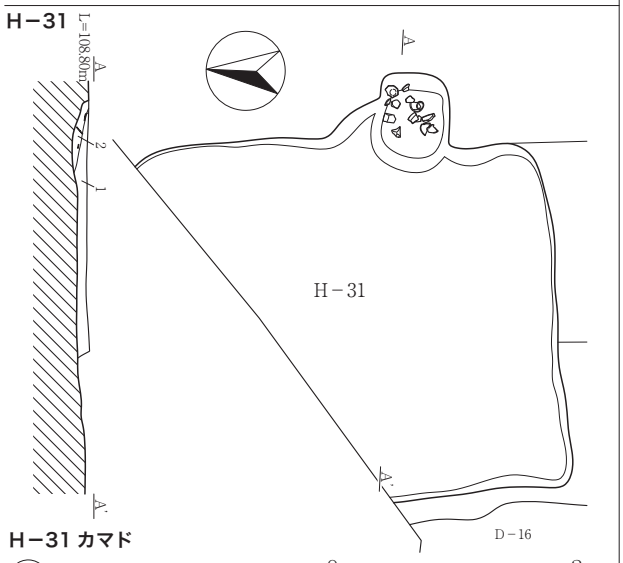
H－32 号竪穴建物跡カマド　SPA
1　赤褐色土（2.5YR3/2）
天井部。被熱し焼土化。
締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/4）
焼土粒・炭化物を少量含む。
締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/4）
焼土粒を少量、炭化物を微量含む。
締まり有り、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/3）
炭化物を少量含む。
締まり有り、粘性有り。

H－33

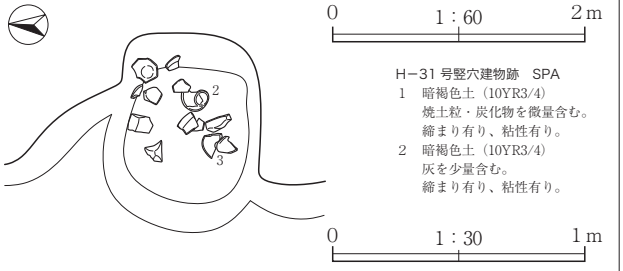


H－33 号竪穴建物跡　SPA
1　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。

H－31

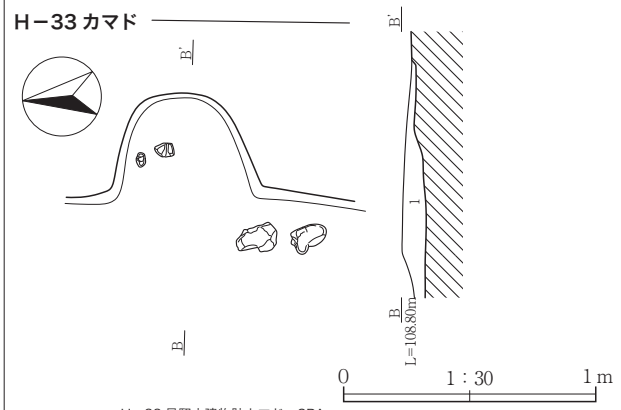


H－31 カマド



H－31 号竪穴建物跡　SPA
1　暗褐色土（10YR3/4）
焼土粒・炭化物を微量含む。
締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/4）
灰を少量含む。
締まり有り、粘性有り。

H－33 カマド



H－33 号竪穴建物跡カマド　SPA
1　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。

H－34

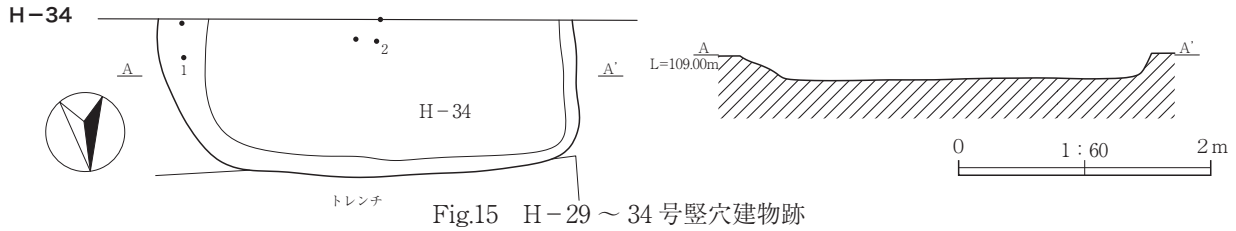


Fig.15　H－29 ～ 34 号竪穴建物跡

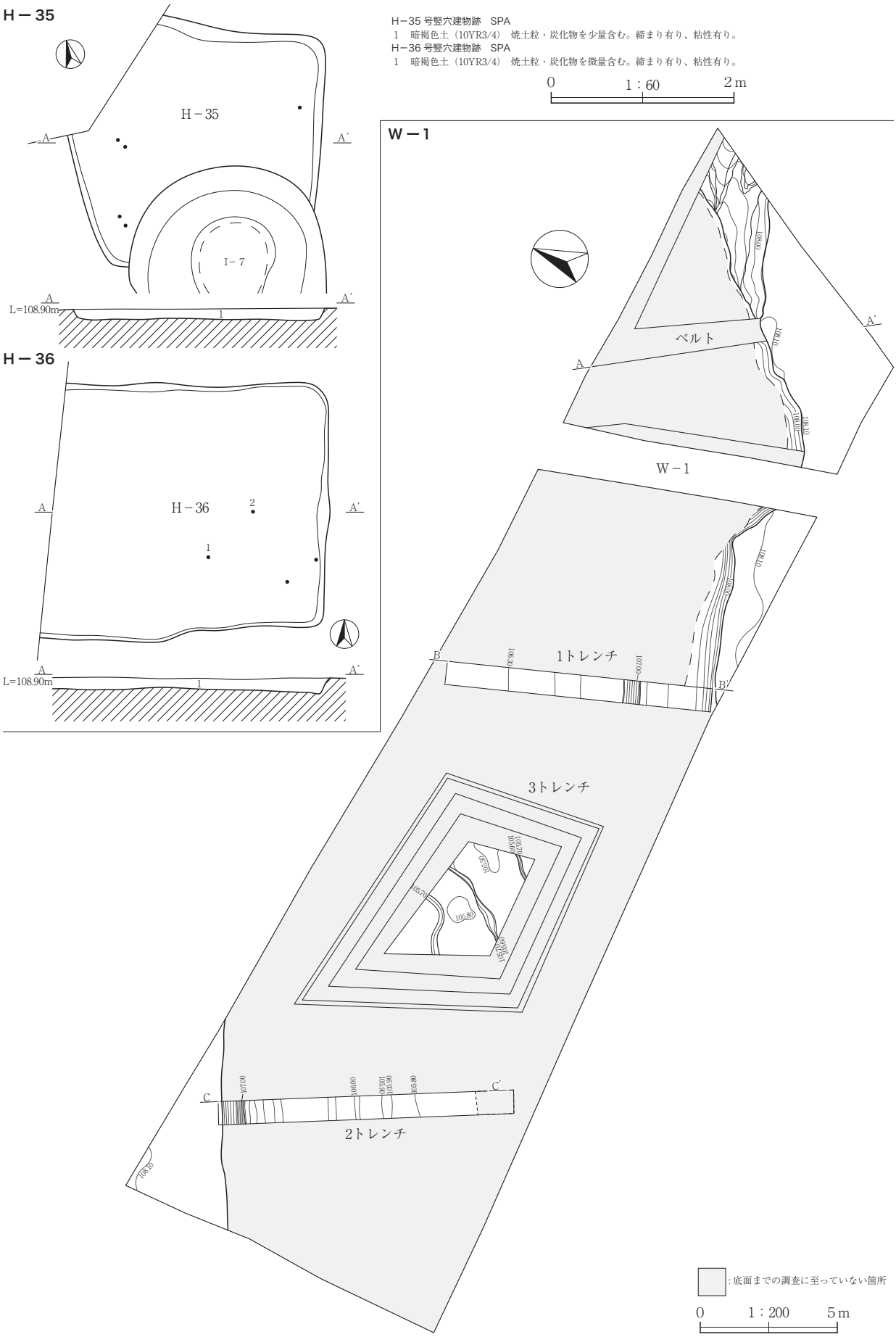
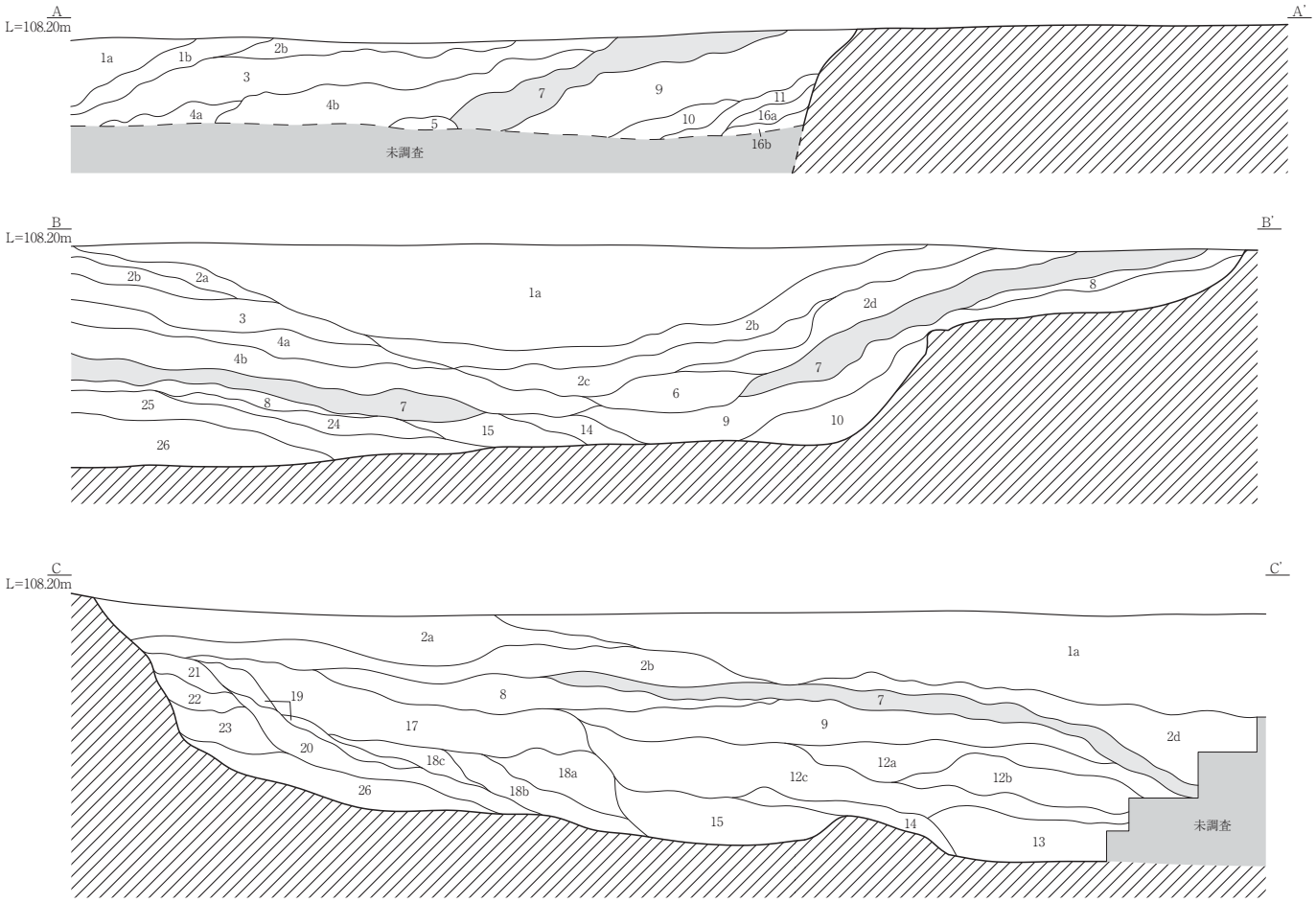


Fig.16　H－35・36 号竪穴建物跡、W－1 号溝跡



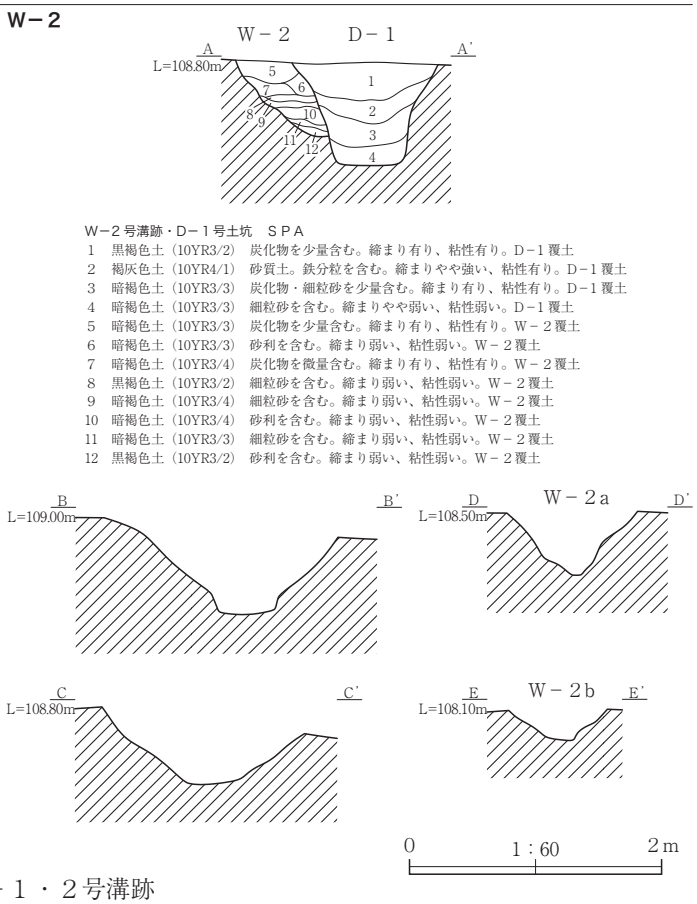
0　1：60　2m

= As-B

W－１号溝跡　SPA～C

1　灰黄褐色土（10YR4/2）総社砂層ブロックと暗褐色粘質土ブロックの混土層。
　a　総社砂層ブロックを多量、暗褐色粘質土ブロックを少量含む。締り有り、粘性やや強い。
　b　暗褐色粘質土ブロック主体。総社砂層ブロックを少量含む。締り有り、粘性やや強い。
2　暗褐色土（10YR3/3）暗褐色粘質土層。
　a　暗褐色粘質土ブロック主体。締り有り、粘性やや強い。
　b　暗褐色粘質土主体。締り有り、粘性やや強い。
　c　暗褐色粘質土主体。細粒砂を少量含む。締り有り、粘性やや強い。
　d　暗褐色粘質土主体。砂利を微量含む。締り有り、粘性やや強い。
3　暗褐色土（10YR3/3）暗褐色砂質土層。締り有り、粘性やや弱い。
4　褐色土（10YR4/3）暗黄褐色砂質土層。
　a　暗黄褐色砂質土主体。鉄分粒を少量含む。締り有り、粘性やや弱い。
　b　暗黄褐色砂質土主体。締り有り、粘性やや弱い。
5　褐灰色土（10YR3/4）砂質土。締り有り、粘性やや弱い。
6　暗褐色土（10YR3/4）暗褐色粘質土層。締り有り、粘性強い。
7　As-B 軽石層。締り弱い、粘性弱い。
8　黒褐色土（10YR3/2）黒褐色粘質土層。締り有り、粘性強い。
9　暗褐色土（10YR3/4）暗褐色粘質土主体。総社砂層ブロックを少量含む。締り有り、粘性強い。
10　暗褐色土（10YR3/3）暗褐色粘質土に細粒砂が多量混じる。締り有り、粘性有り。
11　暗褐色土（10YR3/3）細粒砂主体。締りやや弱い、粘性弱い。
12　暗褐色土（10YR3/3）暗褐色粘質土主体。
　a　鉄分粒を少量含む。締り有り、粘性強い。
　b　細粒砂を微量含む。締り有り、粘性強い。
　c　暗褐色粘質土主体。締り有り、粘性強い。
13　暗褐色土（10YR3/3）暗褐色粘質土に砂利が多量混じる。
14　暗褐色土（10YR3/4）暗褐色粘質土主体。砂利を微量含む。締り有り、粘性強い。
15　暗褐色土（10YR3/4）暗褐色粘質土主体。砂利を少量含む。締り有り、粘性強い。
16　暗褐色土（10YR3/3）細粒砂主体。
　a　黄白色粘質土粒を微量含む。締り有り、粘性やや弱い。
　b　細粒砂主体。締り有り、粘性やや弱い。
17　暗褐色土（10YR3/3）暗褐色砂質土層。
18　暗褐色土（10YR3/4）暗褐色粘質土層。
　a　細粒砂を少量含む。締り有り、粘性有り。
　b　暗褐色砂質土層。締り有り、粘性有り。
　c　黄白色粘質土粒を微量含む。締り有り、粘性有り。
19　暗褐色土（10YR3/4）暗褐色粘質土主体。黄白色粘質土粒を少量含む。締り有り、粘性強い。
20　暗褐色土（10YR3/3）暗褐色砂質土層。締り有り、粘性やや弱い。
21　基本土層Ⅸａ層土の崩落土層。
22　基本土層Ⅸａ・Ⅸｂ層土の崩落土層。
23　基本土層Ⅸｂ層土の崩落土層。
24　暗褐色土（10YR3/3）暗褐色粘質土主体。砂利が微量混じる。締り有り、粘性やや強い。
25　暗褐色土（10YR3/4）暗褐色粘質土主体。砂利が多量混じる。締り有り、粘性やや強い。
26　黒褐色土（10YR3/2）黒褐色粘質土主体。砂利を少量含む。締り有り、粘性やや強い。

W－2



W－２号溝跡・D－１号土坑　ＳＰＡ

1　黒褐色土（10YR3/2）炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。D－１覆土
2　褐灰色土（10YR4/1）砂質土。鉄分粒を含む。締まりやや強い、粘性有り。D－１覆土
3　暗褐色土（10YR3/3）炭化物・細粒砂を少量含む。締まり有り、粘性有り。D－１覆土
4　暗褐色土（10YR3/3）細粒砂を含む。締まりやや弱い、粘性弱い。D－１覆土
5　暗褐色土（10YR3/3）炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。W－２覆土
6　暗褐色土（10YR3/3）砂利を含む。締まり弱い、粘性弱い。W－２覆土
7　暗褐色土（10YR3/4）炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。W－２覆土
8　黒褐色土（10YR3/2）細粒砂を含む。締まり弱い、粘性弱い。W－２覆土
9　暗褐色土（10YR3/4）細粒砂を含む。締まり弱い、粘性弱い。W－２覆土
10　暗褐色土（10YR3/4）砂利を含む。締まり弱い、粘性弱い。W－２覆土
11　暗褐色土（10YR3/3）細粒砂を含む。締まり弱い、粘性弱い。W－２覆土
12　黒褐色土（10YR3/2）砂利を含む。締まり弱い、粘性弱い。W－２覆土

Fig.17　W－１・２号溝跡

W－2～6、畠跡

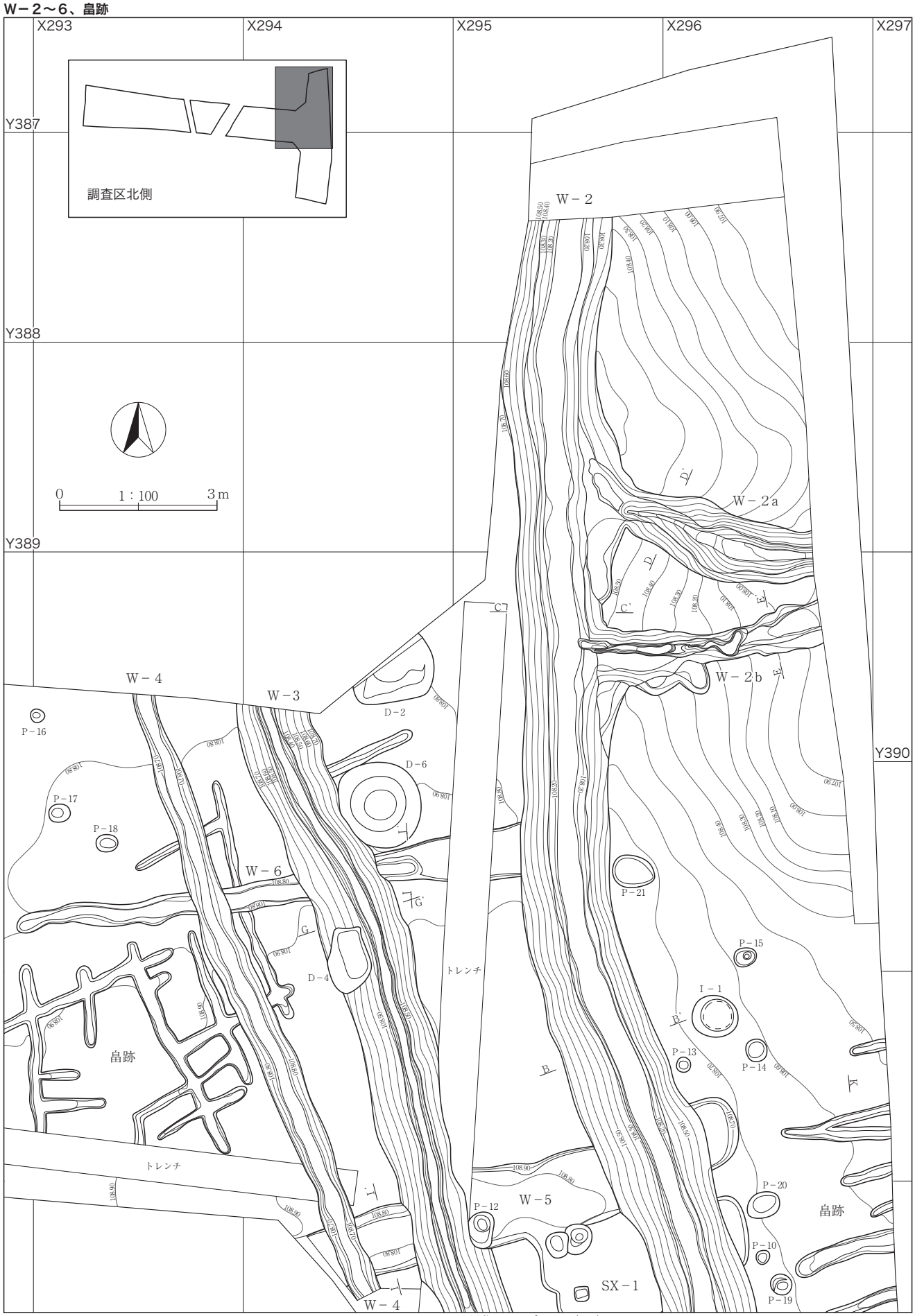


Fig.18　W－1～6号溝跡、畠跡（1）

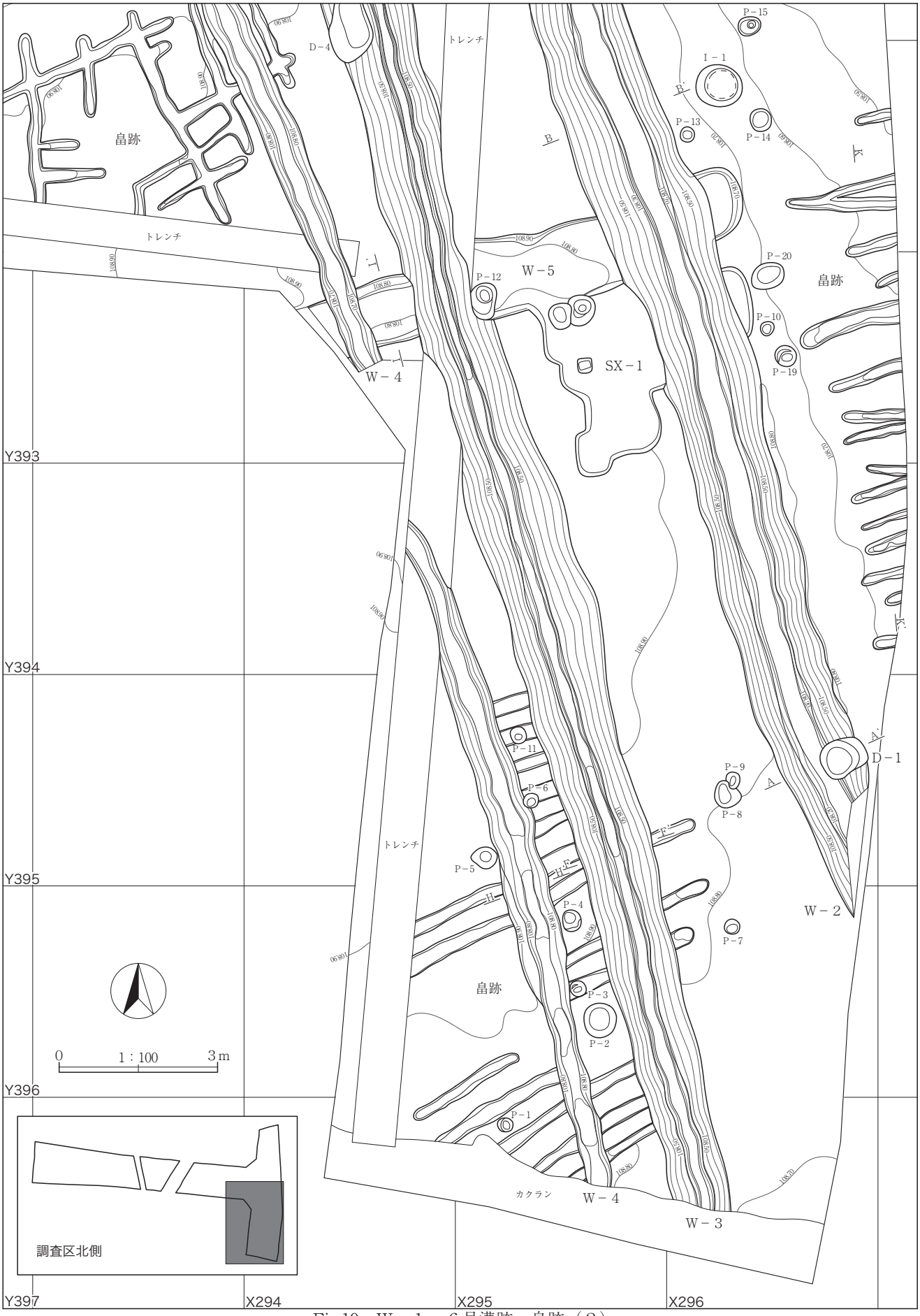
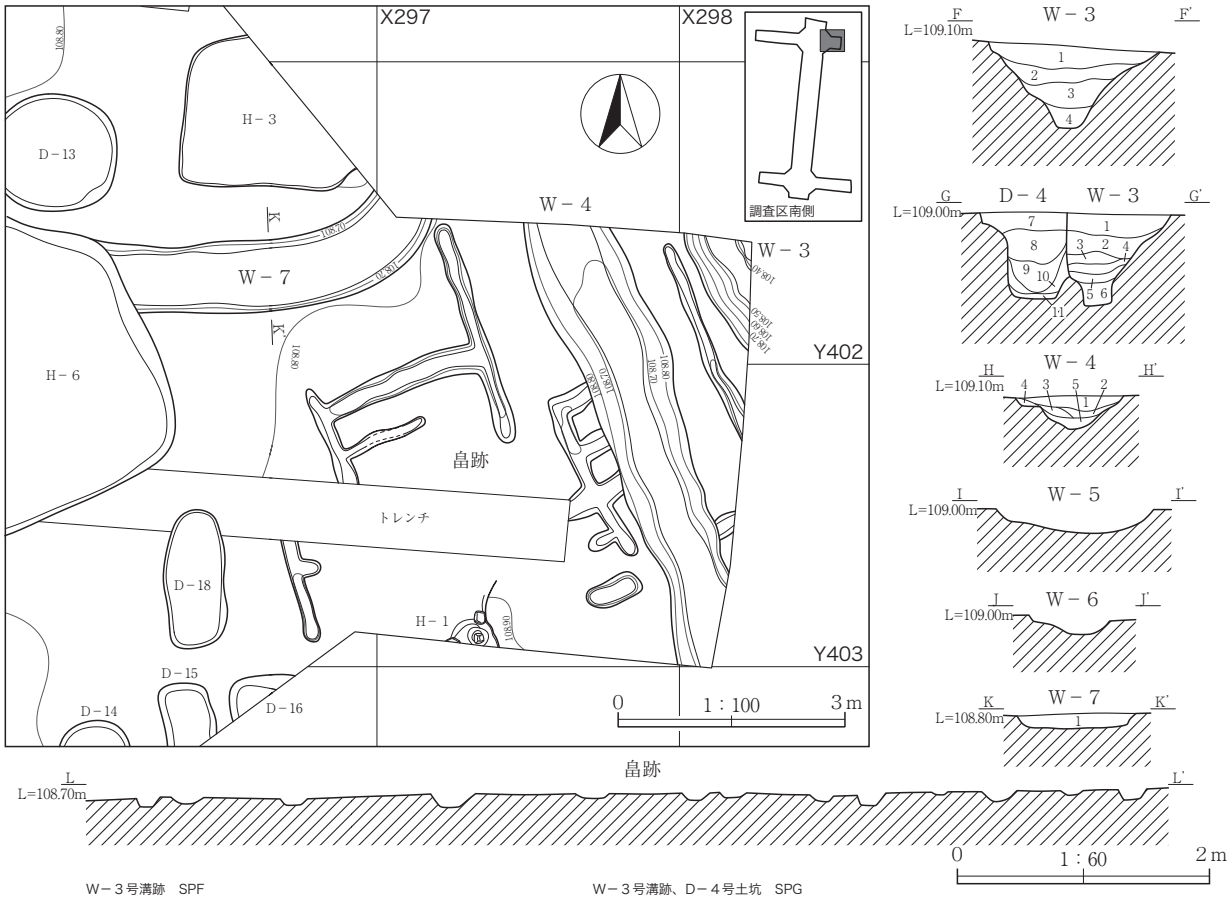


Fig.19　W－１～６号溝跡、畠跡（２）



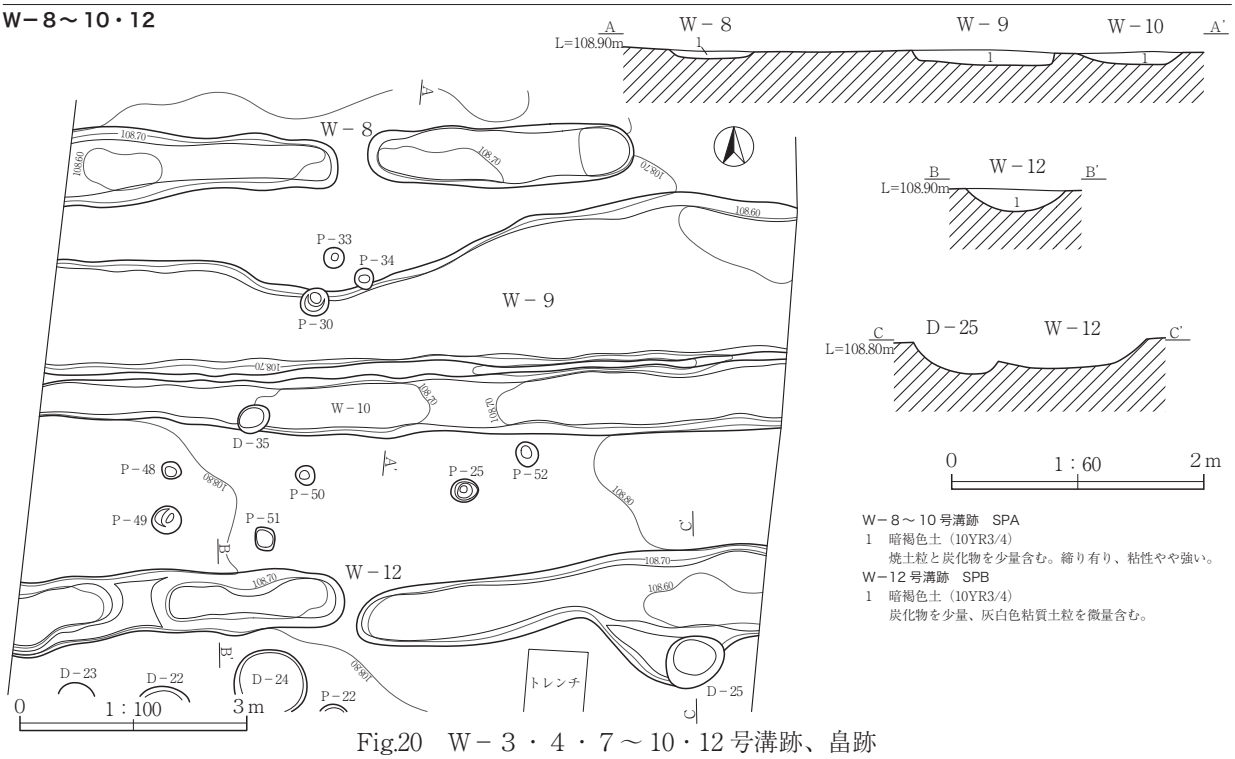
W－３号溝跡　SPF
1　暗褐色土（10YR3/3）　砂質土。締まり有り、粘性有り。
2　褐灰色土（10YR4/1）　砂質土。鉄分粒を含む。締まりやや強い、粘性有り。
3　褐灰色土（10YR4/1）　やや砂質土。締まりやや強い、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/3）　灰白色粘質土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。

W－４号溝跡　SPH
1　暗褐色土（10YR3/4）　砂質土。炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/4）　砂質土。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/3）　砂質土。炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/3）　砂質土。炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
5　暗褐色土（10YR3/3）　砂質土。締まり有り、粘性有り。

W－７号溝跡　SPL
1　暗褐色土（10YR3/3）　炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。

W－３号溝跡、D－４号土坑　SPG
1　黒褐色土（10YR3/2）　白色粘質土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
2　黒褐色土（10YR3/2）　白色粘質土粒を多量、灰を少量含む。締まり有り、粘性有り。
3　黒褐色土（10YR3/2）　白色粘質土粒、灰を中量含む。締まり有り、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/3）　砂質土主体。白色粘質土ブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
5　暗褐色土（10YR3/3）　砂質土。締まり有り、粘性有り。
6　褐灰色土（10YR4/1）　砂質土。鉄分粒を含む。締まりやや強い、粘性有り。
7　暗褐色土（10YR3/3）　鉄分粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
8　暗褐色土（10YR3/3）　砂質土。鉄分粒を中量含む。締まり有り、粘性有り。
9　暗褐色土（10YR3/3）　砂質土主体。白色粘質土ブロックを微量含む。締まり有り、粘性有り。
10　暗褐色土（10YR3/3）　灰白色粘質土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
11　褐灰色土（10YR4/1）　灰白色粘質土ブロック主体。締まり有り、粘性やや強い。

W－８～10・12



W－８～10号溝跡　SPA
1　暗褐色土（10YR3/4）
　焼土粒と炭化物を少量含む。締り有り、粘性やや強い。

W－12号溝跡　SPB
1　暗褐色土（10YR3/4）
　炭化物を少量、灰白色粘質土粒を微量含む。

Fig.20　W－３・４・７～10・12号溝跡、畠跡

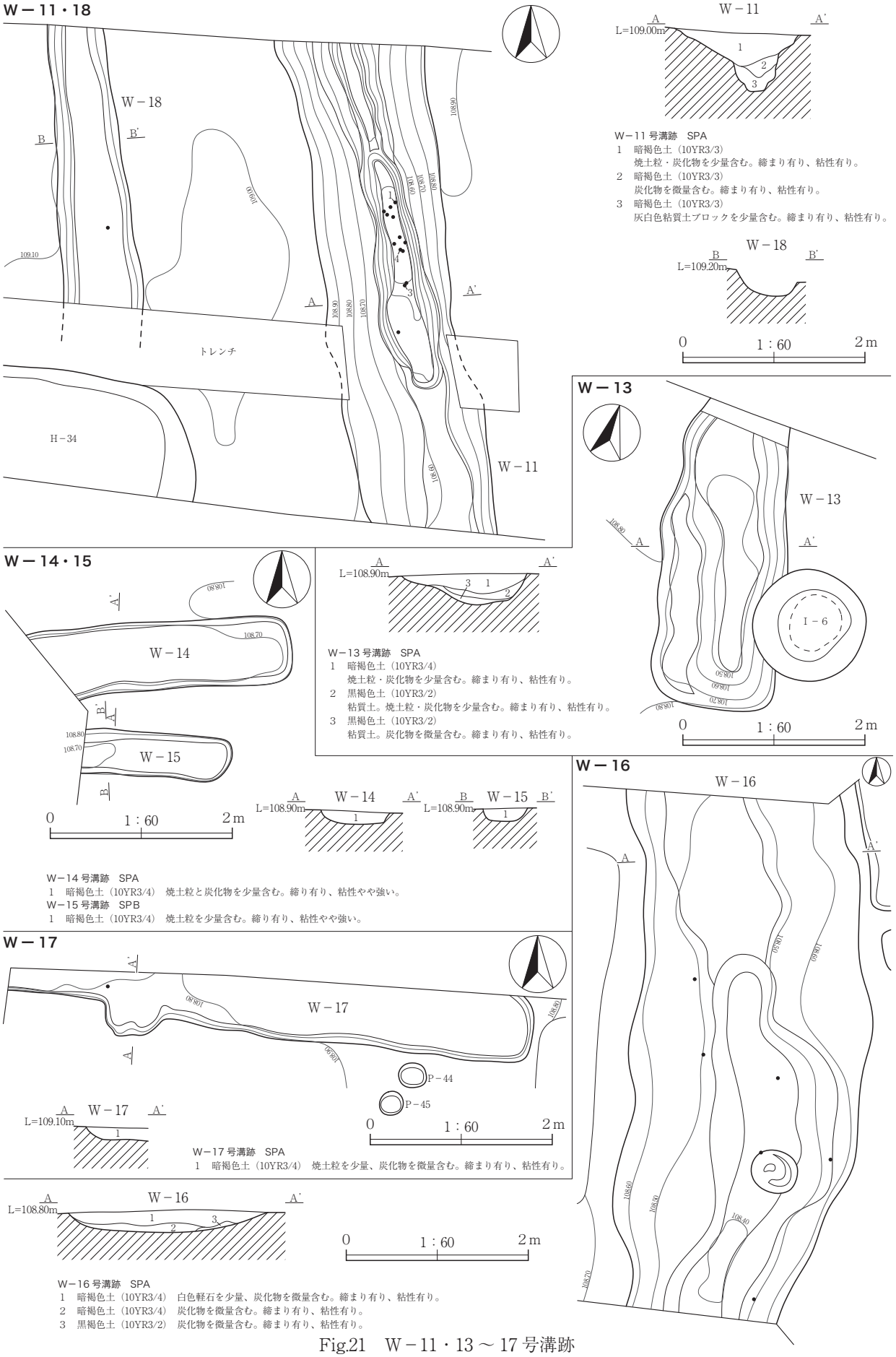
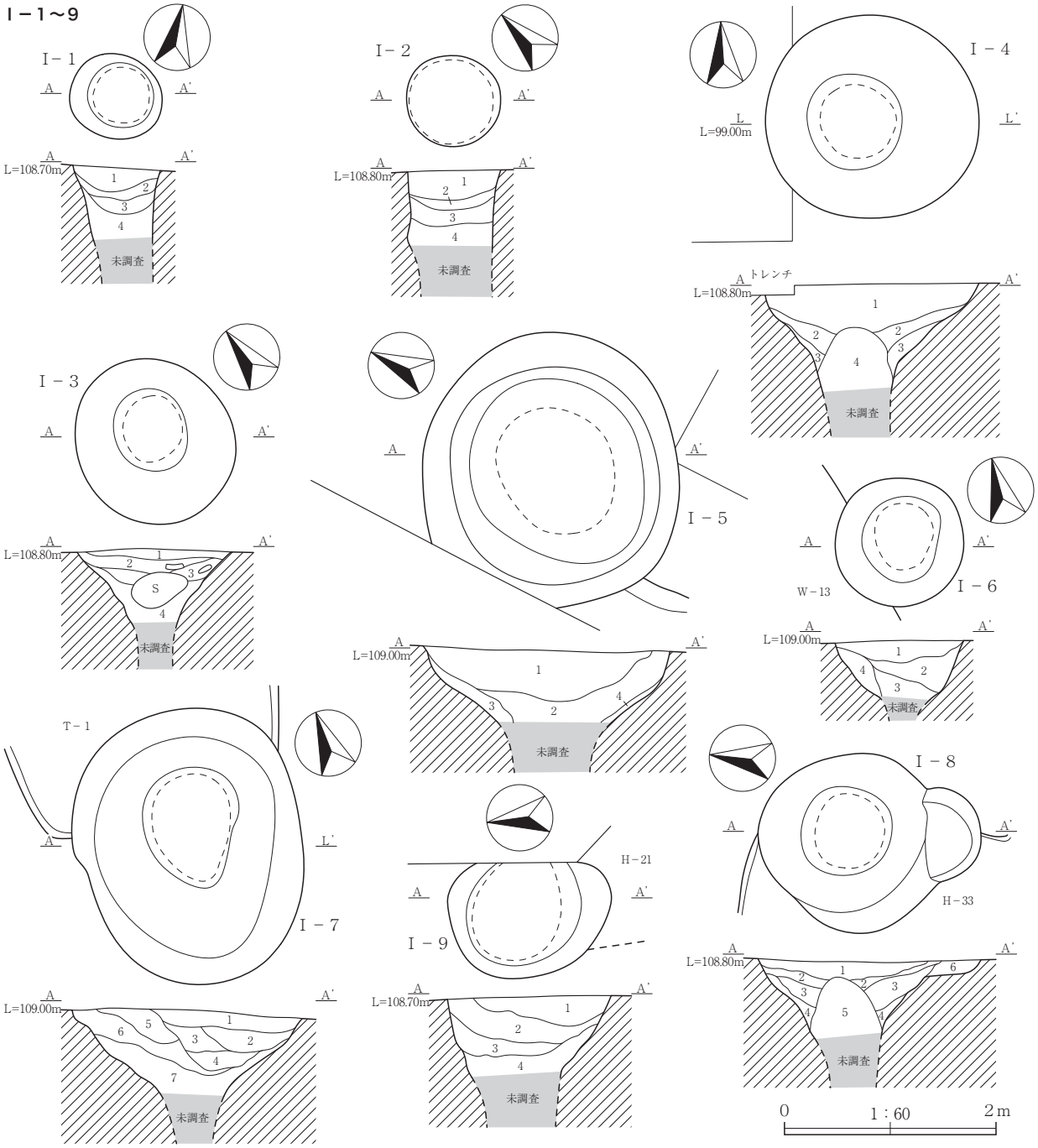


Fig.21　W－11・13～17 号溝跡



Ⅰ－1号井戸跡　ＳＰＡ
1　暗褐色土（10YR3/3）　炭化物を少量、白色軽石を微量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/4）　炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/4）　炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/3）　炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。

Ⅰ－2号井戸跡　ＳＰＡ
1　暗褐色土（10YR3/4）　砂質土。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/4）　砂質土。灰白色粘質土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/4）　砂質土。炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/4）　砂質土。灰白色粘質土粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。

Ⅰ－3号井戸跡　ＳＰＡ
1　黒褐色土（10YR3/2）　砂質土。炭化物を多量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/4）　砂質土。焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/4）　砂質土。焼土粒・炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/4）　砂質土。締まり有り、粘性有り。

Ⅰ－4号井戸跡　ＳＰＡ
1　暗褐色土（10YR3/4）　砂質土。炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/4）　砂質土。炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/4）　砂質土。締まり有り、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/3）　砂質土。締まり有り、粘性有り。

Ⅰ－5号井戸跡　ＳＰＡ
1　暗褐色土（10YR3/3）　砂質土。焼土粒・炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/3）　砂質土。焼土粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/4）　粘質土。褐色粘質土ブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/4）　粘質土。褐色粘質土ブロックを多量含む。締まり有り、粘性有り。

Ⅰ－6号井戸跡　ＳＰＡ
1　暗褐色土（10YR3/4）　砂質土。白色軽石を少量、焼土粒・炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/4）　砂質土。炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/4）　砂質土。炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/4）　砂質土。締まり有り、粘性有り。

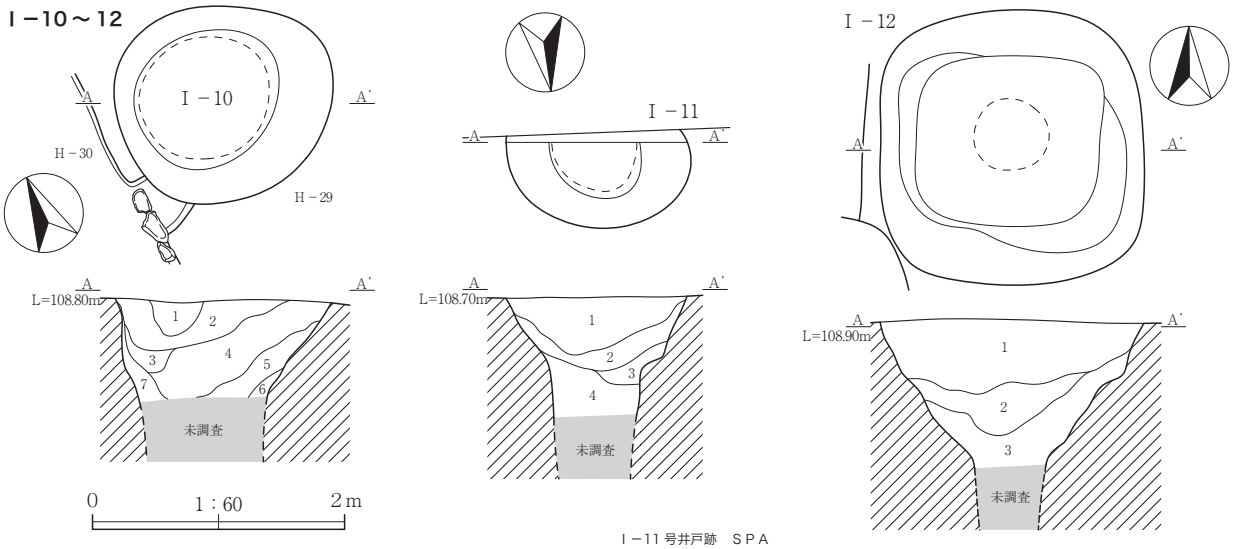
Ⅰ－7号井戸跡　ＳＰＡ
1　暗褐色土（10YR3/4）　焼土粒・炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/4）　炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/4）　炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/4）　砂質土。総社砂層粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
5　暗褐色土（10YR3/4）　鉄分粒を多量含む。締り有り、粘性有り。
6　褐灰色土（10YR4/1）　総社砂層土主体。締まり有り、粘性有り。
7　暗褐色土（10YR3/3）　砂質土。締まり有り、粘性有り。

Ⅰ－8号井戸跡　ＳＰＡ
1　暗褐色土（10YR3/4）　砂質土。焼土粒・炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/4）　砂質土。炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/3）　砂質土。炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/3）　砂質土。炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
5　暗褐色土（10YR3/3）　砂質土。締まり弱い、粘性有り。
6　暗褐色土（10YR3/4）　砂質土。焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。

Ⅰ－9号井戸跡　ＳＰＡ
1　黒褐色土（10YR3/2）　砂質土。As-B 混土。締まりやや弱い、粘性やや弱い。
2　暗褐色土（10YR3/4）　砂質土。褐色粘質土ブロックを含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/4）　砂質土。褐色粘質土粒を含む。締まり有り、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/4）　砂質土。締まり有り、粘性有り。

Fig.22　Ⅰ－1～9号井戸跡

Ｉ－10～12

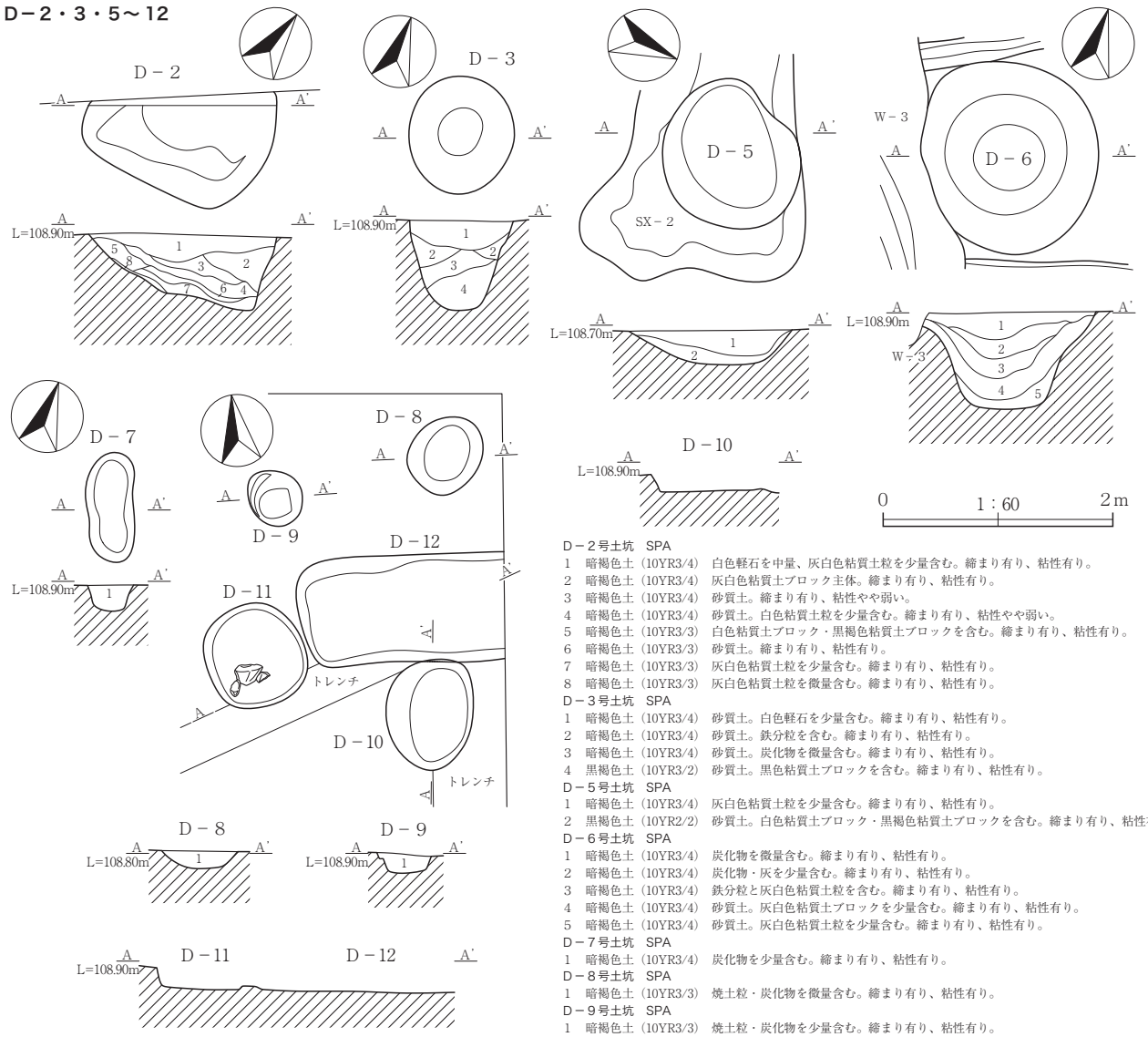


Ｉ－10号井戸跡　ＳＰＡ
1　暗褐色土（10YR3/4）　耕作土。
2　暗褐色土（10YR3/4）　砂質土。黄褐色粘質土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/4）　砂質土。黄褐色粘質土粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/4）　黄褐色粘質土ブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
5　暗褐色土（10YR3/3）　黄褐色粘質土ブロックを多量含む。締まり有り、粘性有り。
6　黒褐色土（10YR3/2）　砂質土。締まり有り、粘性有り。
7　暗褐色土（10YR3/3）　粘質土。黄褐色粘質土粒を少量含む。締まり有り、粘性やや強い。

Ｉ－11号井戸跡　ＳＰＡ
1　暗褐色土（10YR3/4）　砂質土。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/4）　黄褐色粘質土ブロックを多量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/4）　黄褐色粘質土ブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/4）　砂質土。黒色粘質土ブロックを少量含む。締まり有り、粘性やや強い。

Ｉ－12号井戸跡　ＳＰＡ
1　暗褐色土（10YR3/4）　白色軽石・焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/4）　白色軽石・焼土粒・炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/4）　鉄分粒を少量、焼土粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。

Ｄ－２・３・５～12



Ｄ－２号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/4）　白色軽石を中量、灰白色粘質土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/4）　灰白色粘質土ブロック主体。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/4）　砂質土。締まり有り、粘性やや弱い。
4　暗褐色土（10YR3/4）　砂質土。白色粘質土粒を少量含む。締まり有り、粘性やや弱い。
5　暗褐色土（10YR3/3）　白色粘質土ブロック・黒褐色粘質土ブロックを含む。締まり有り、粘性有り。
6　暗褐色土（10YR3/3）　砂質土。締まり有り、粘性有り。
7　暗褐色土（10YR3/3）　灰白色粘質土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
8　暗褐色土（10YR3/3）　灰白色粘質土粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。

Ｄ－３号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/4）　砂質土。白色軽石を少量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/4）　砂質土。鉄分粒を含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/4）　砂質土。炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
4　黒褐色土（10YR3/2）　砂質土。黒色粘質土ブロックを含む。締まり有り、粘性有り。

Ｄ－５号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/4）　灰白色粘質土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
2　黒褐色土（10YR2/2）　砂質土。白色粘質土ブロック・黒褐色粘質土ブロックを含む。締まり有り、粘性有り。

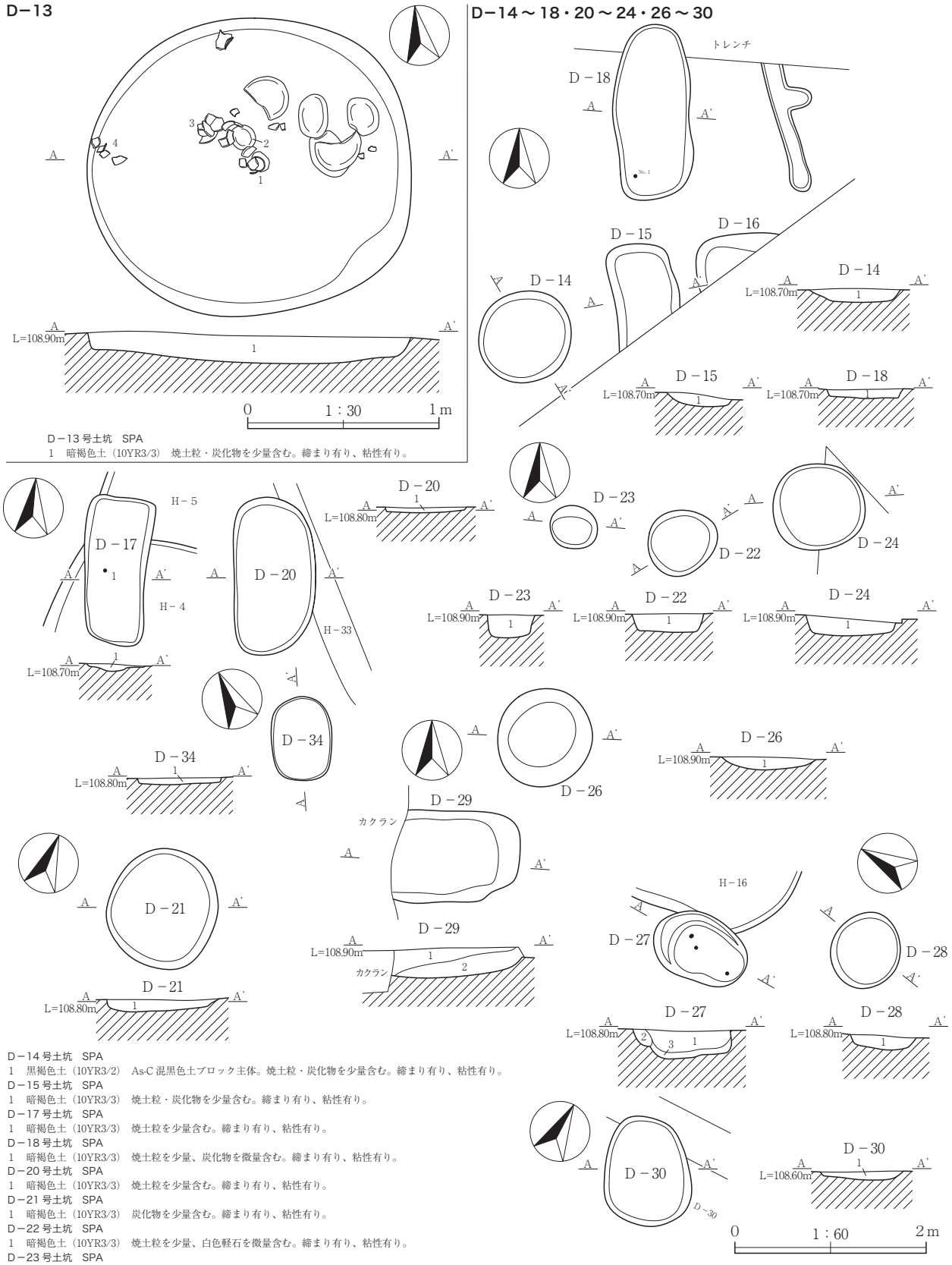
Ｄ－６号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/4）　炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/4）　炭化物・灰を少量含む。締まり有り、粘性有り。
3　暗褐色土（10YR3/4）　鉄分粒と灰白色粘質土粒を含む。締まり有り、粘性有り。
4　暗褐色土（10YR3/4）　砂質土。灰白色粘質土ブロックを少量含む。締まり有り、粘性有り。
5　暗褐色土（10YR3/4）　砂質土。灰白色粘質土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。

Ｄ－７号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/4）　炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。

Ｄ－８号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒・炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。

Ｄ－９号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。

Fig.23　Ｉ－10～12号井戸跡、Ｄ－２・３・５～12号土坑



D－13 号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。

D－14 号土坑　SPA
1　黒褐色土（10YR3/2）　As-C 混黒色土ブロック主体。焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。

D－15 号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。

D－17 号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。

D－18 号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒を少量、炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。

D－20 号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。

D－21 号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）　炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。

D－22 号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒を少量、白色軽石を微量含む。締まり有り、粘性有り。

D－23 号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒を少量、白色軽石を微量含む。締まり有り、粘性有り。

D－24 号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒を少量、白色軽石を微量含む。締まり有り、粘性有り。

D－26 号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）　炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。

D－27 号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒を少量、炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/4）　鉄分粒を多量含む。締まり有り、粘性やや強い。
3　暗褐色土（10YR3/3）　炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。

D－28 号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。

D－29 号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒・炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。

D－30 号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。

D－34 号土坑　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。

Fig.24　D－13・14～18・20～24・26～30・34 号土坑

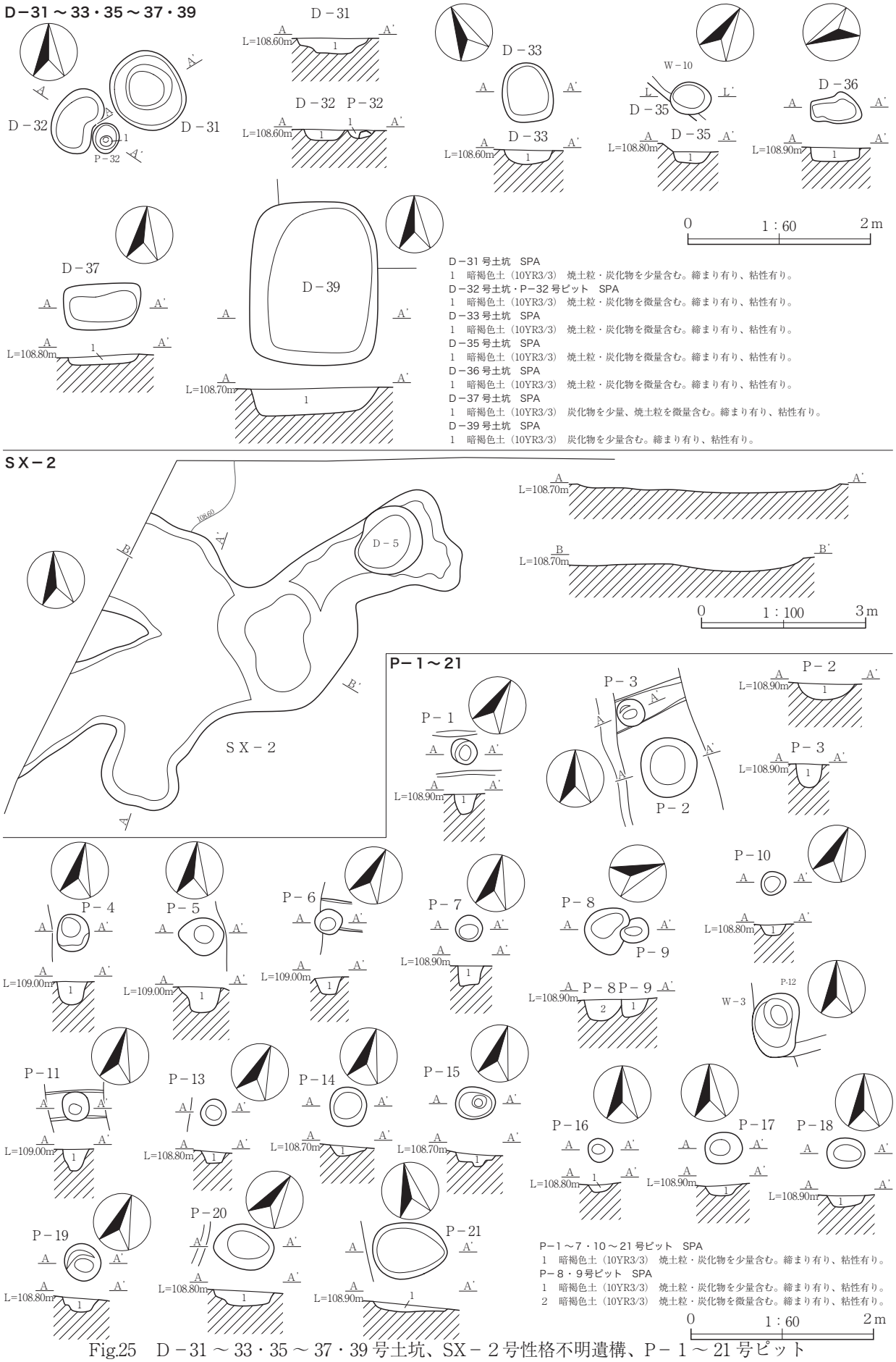
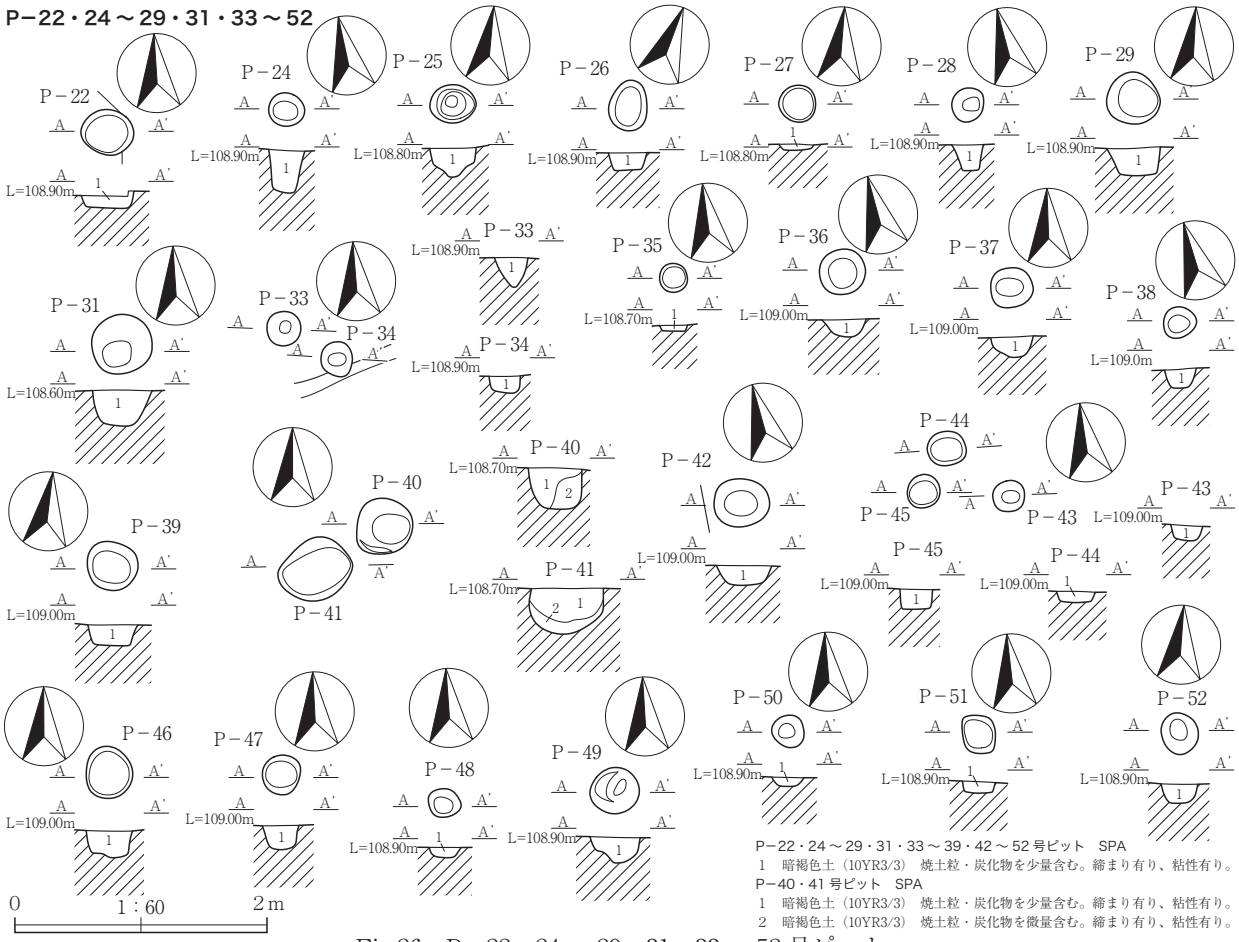


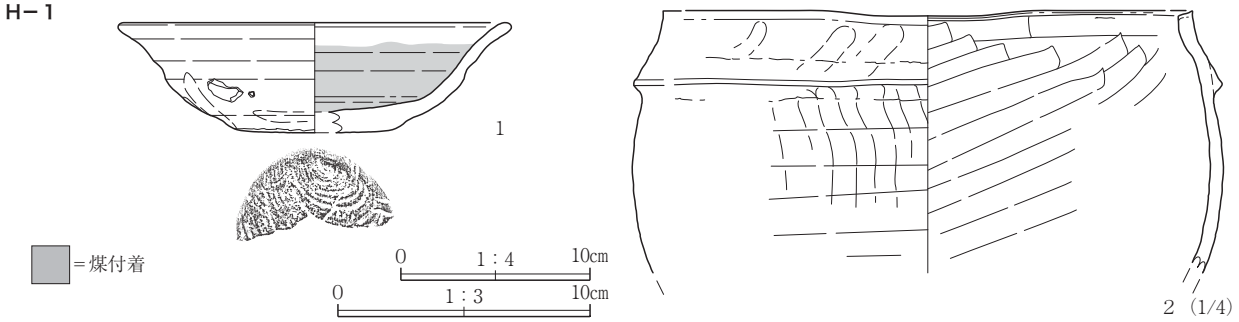
Fig.25　D－31 ～ 33・35 ～ 37・39 号土坑、SX－２号性格不明遺構、P－１～ 21 号ピット



P−22・24～29・31・33～39・42～52 号ピット　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
P−40・41 号ピット　SPA
1　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
2　暗褐色土（10YR3/3）　焼土粒・炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。

Fig.26　P−22・24～29・31・33～52 号ピット

H−1



H−2

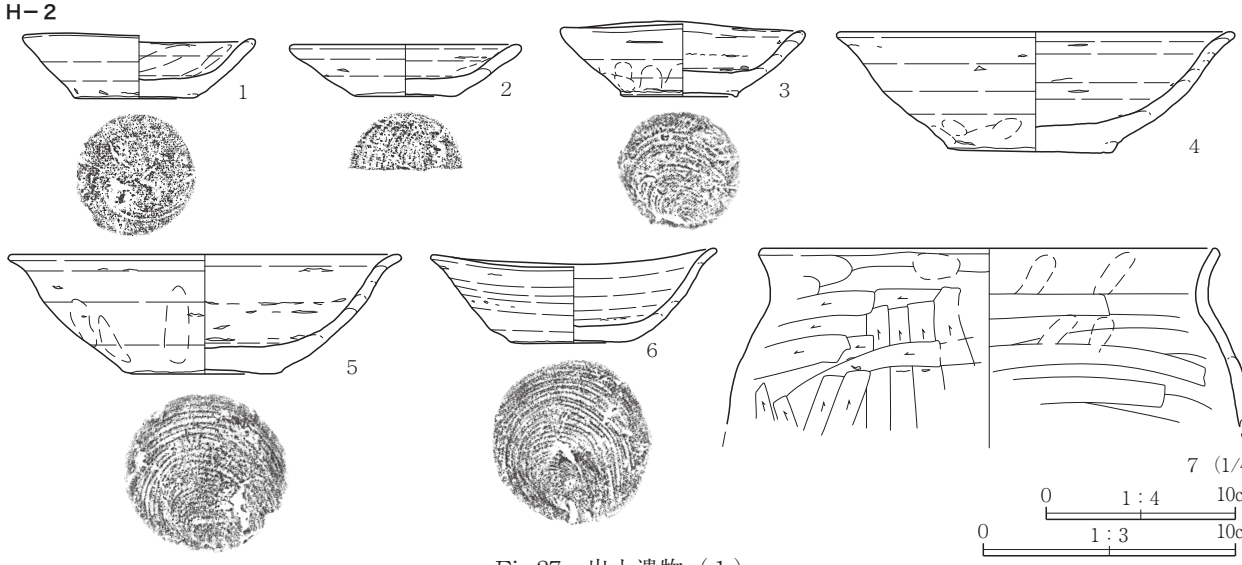


Fig.27　出土遺物（1）

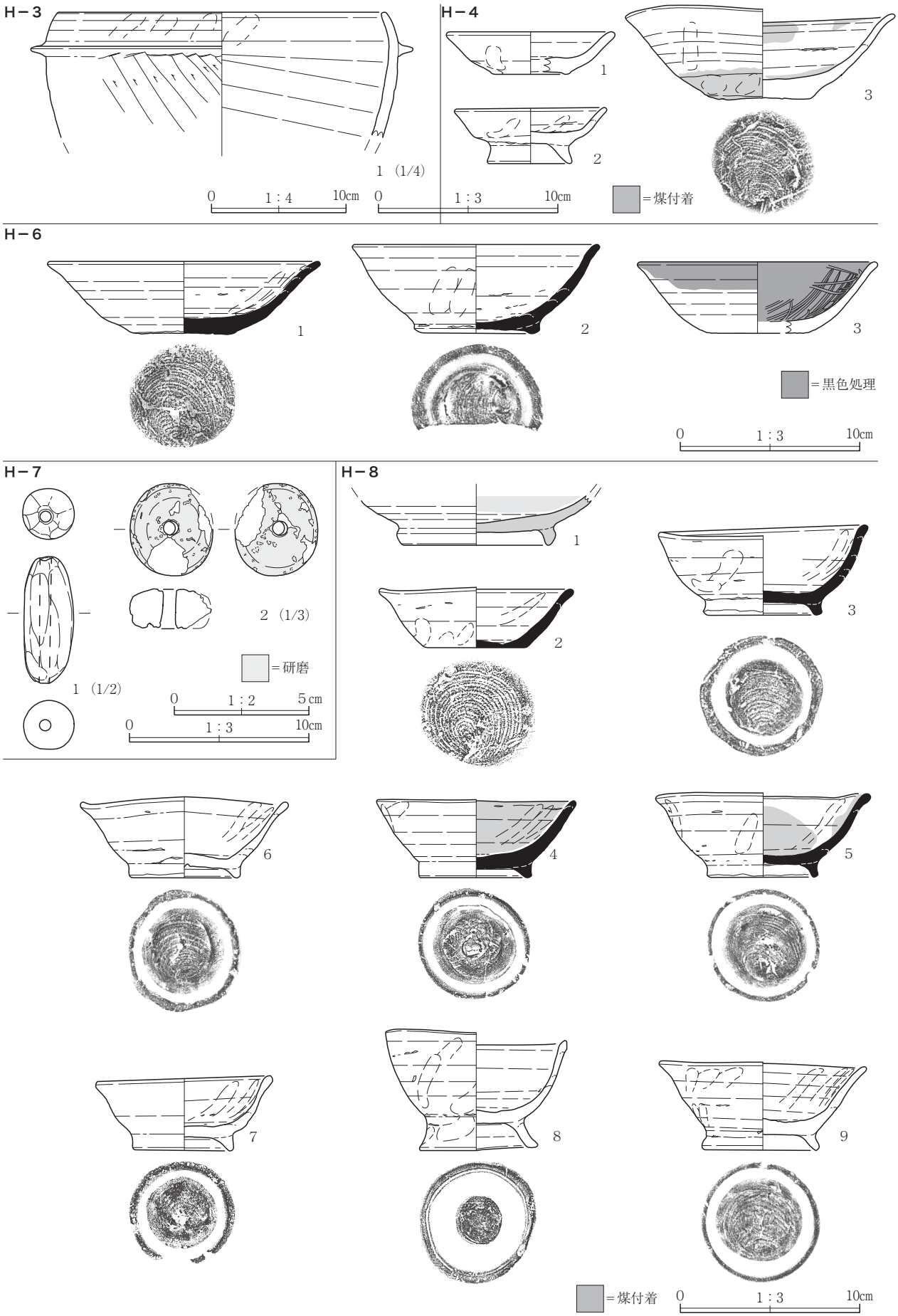

H－3
1 (1/4)
0 1：4 10cm
H－4
1
2
3
0 1：3 10cm
＝煤付着
H－6
1
2
3
＝黒色処理
0 1：3 10cm
H－7
1 (1/2)
2 (1/3)
＝研磨
0 1：2 5cm
0 1：3 10cm
H－8
1
2
3
4
5
6
7
8
9
＝煤付着
0 1：3 10cm

Fig.28　出土遺物（2）

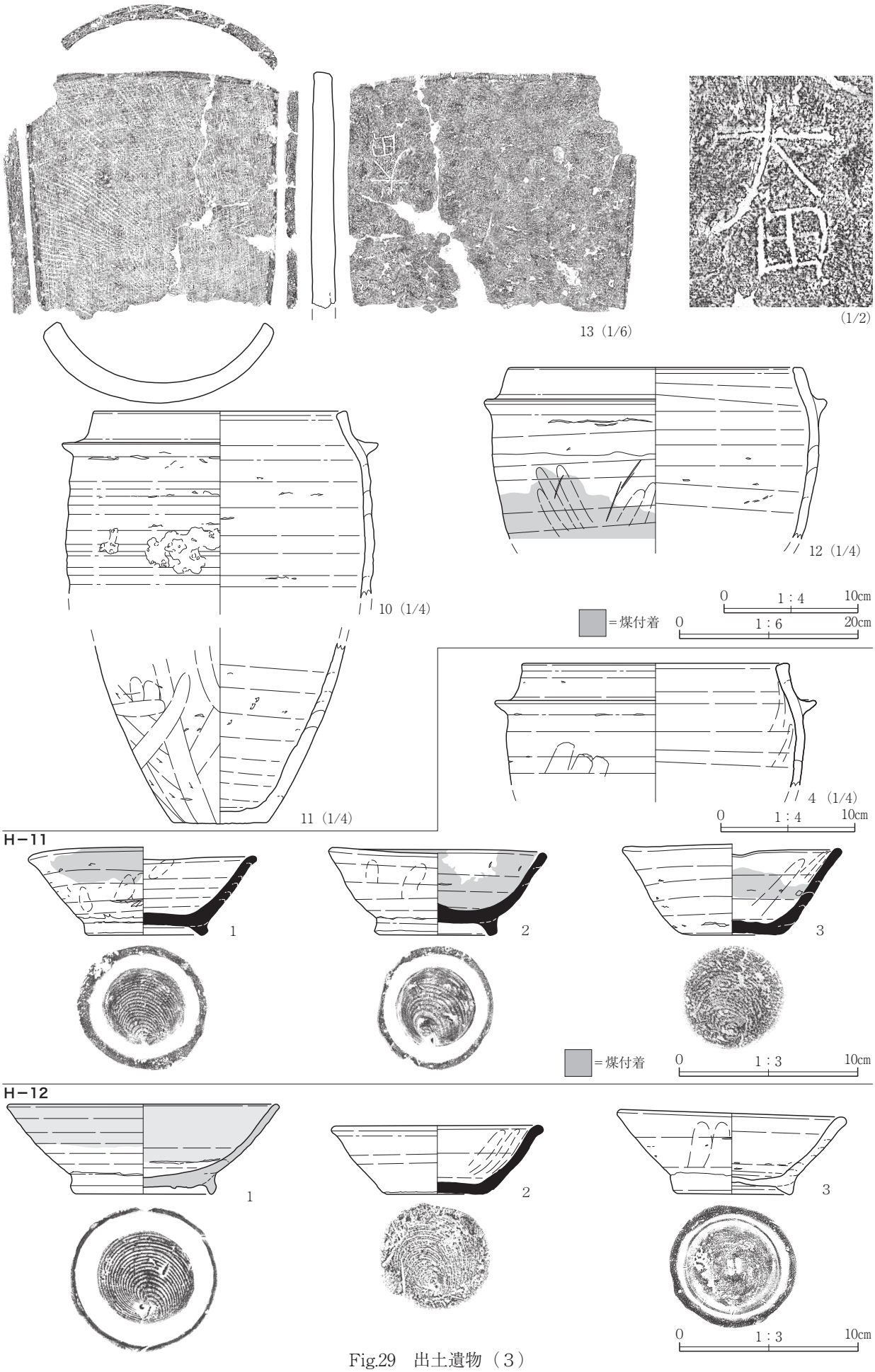

13（1/6）
（1/2）
10（1/4）
12（1/4）
11（1/4）
4（1/4）
0 1：4 10cm
=煤付着
0 1：6 20cm
H−11
1
2
3
=煤付着
0 1：3 10cm
H−12
1
2
3
0 1：3 10cm

Fig.29　出土遺物（３）

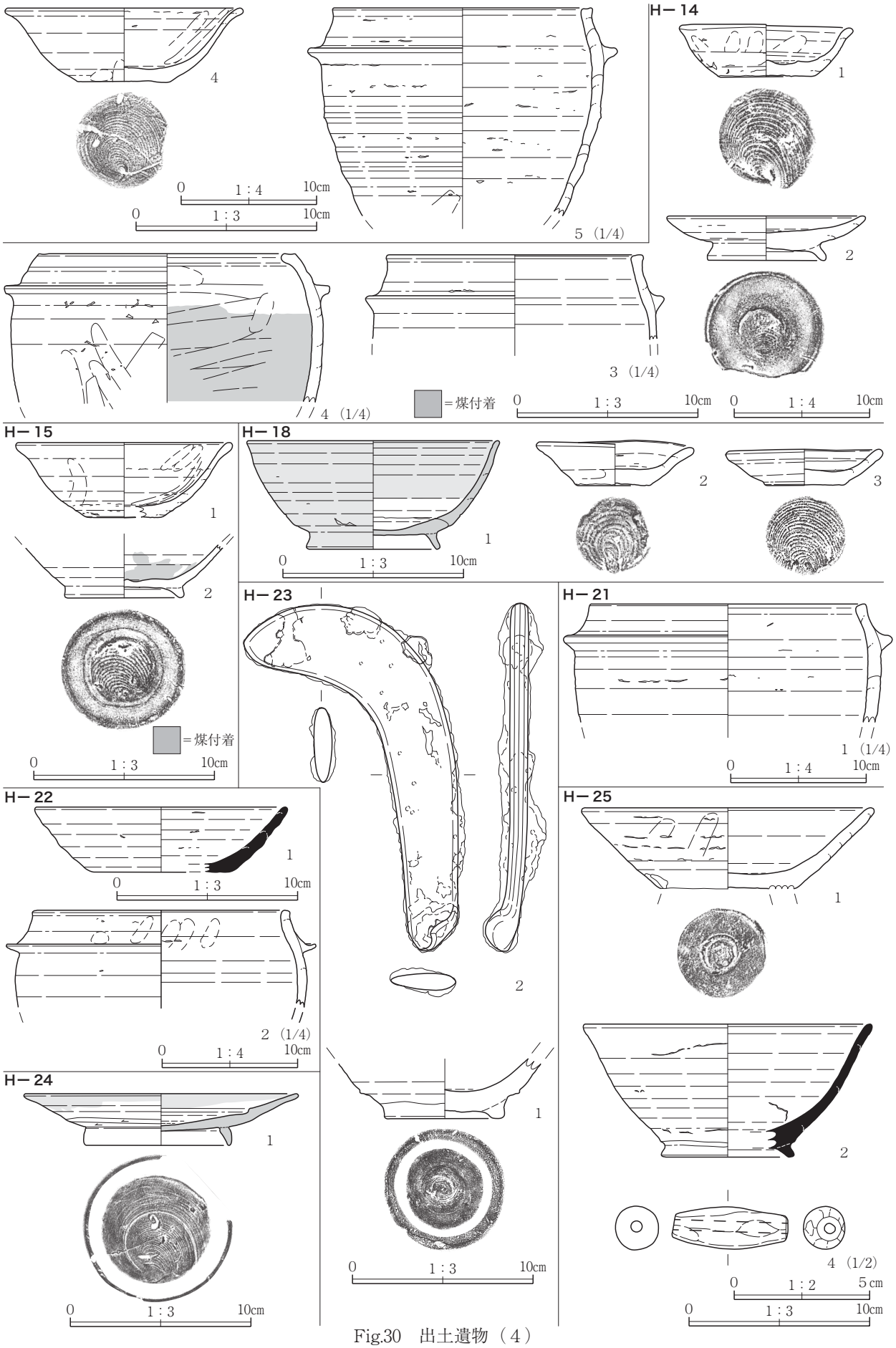

H－14
H－15
H－18
H－23
H－21
H－22
H－25
H－24
=煤付着
0 1：4 10cm
0 1：3 10cm
0 1：2 5cm
5（1/4）
4（1/4）
3（1/4）
1（1/4）
2（1/4）
4（1/2）

Fig.30　出土遺物（4）

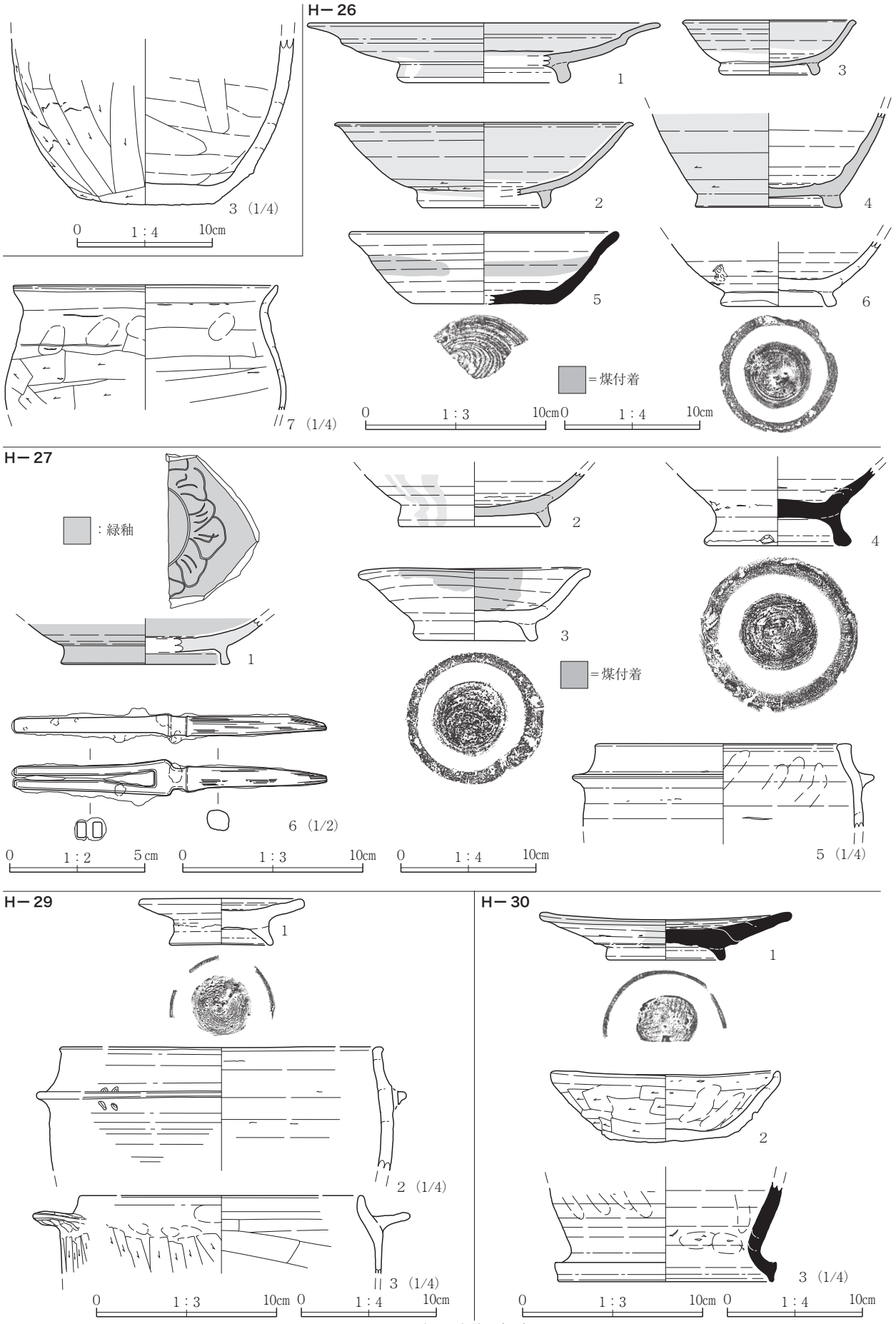

H－26
3（1/4）
0 1：4 10cm
7（1/4）
1
2
3
4
5
6
＝煤付着
0 1：3 10cm
0 1：4 10cm
H－27
：緑釉
1
2
3
4
＝煤付着
6（1/2）
5（1/4）
0 1：2 5cm
0 1：3 10cm
0 1：4 10cm
H－29
1
2（1/4）
3（1/4）
0 1：3 10cm
0 1：4 10cm
H－30
1
2
3（1/4）
0 1：3 10cm
0 1：4 10cm

Fig.31　出土遺物（５）

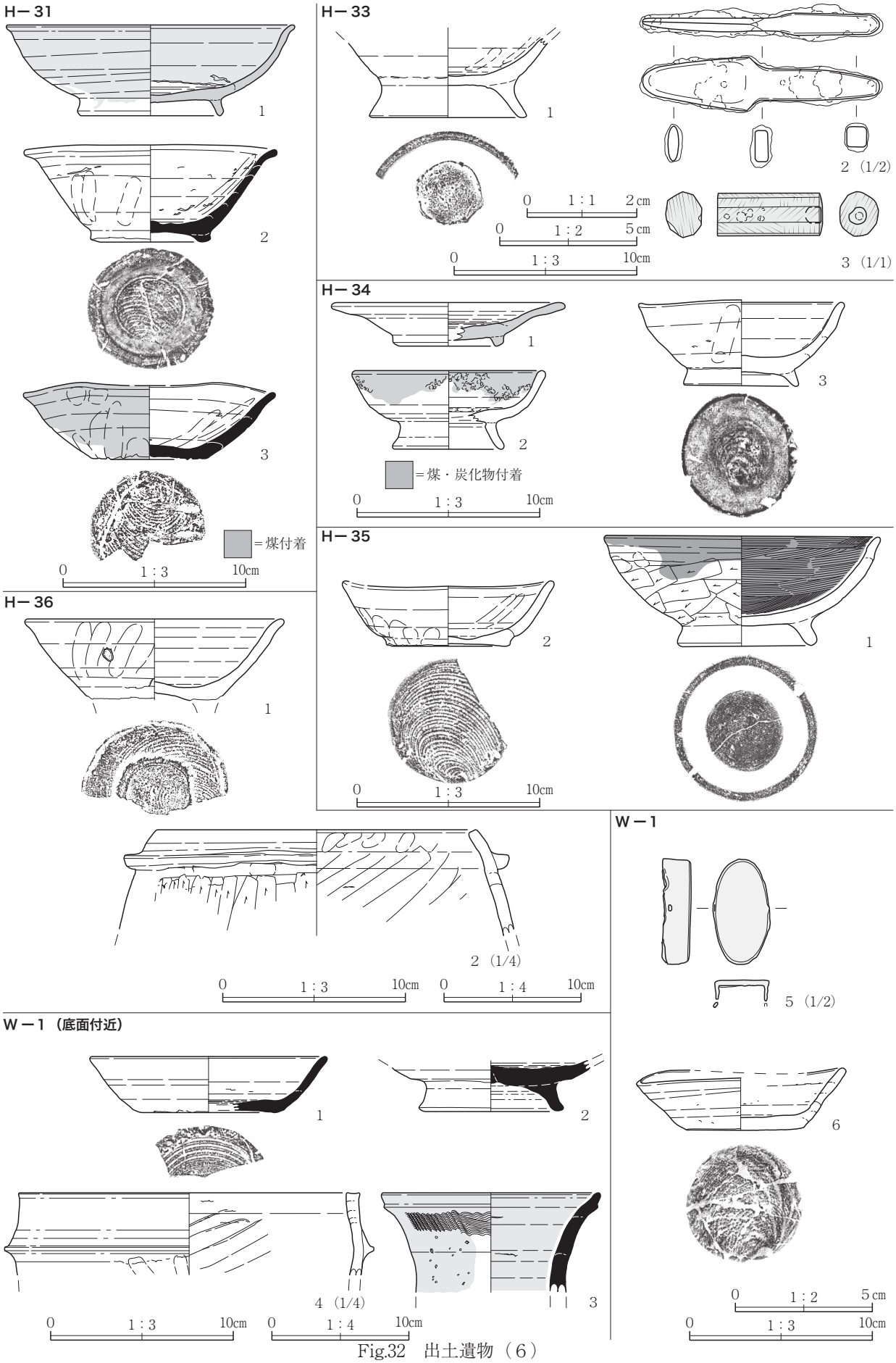

H－31
1
2
3
=煤付着
0 1：3 10cm
H－33
1
2（1/2）
0 1：1 2cm
0 1：2 5cm
0 1：3 10cm
3（1/1）
H－34
1
2
3
=煤・炭化物付着
0 1：3 10cm
H－35
2
1
0 1：3 10cm
H－36
1
2（1/4）
0 1：3 10cm
0 1：4 10cm
W－1
5（1/2）
W－1（底面付近）
1
2
6
4（1/4）
3
0 1：3 10cm
0 1：4 10cm
0 1：2 5cm
0 1：3 10cm

Fig.32　出土遺物（6）

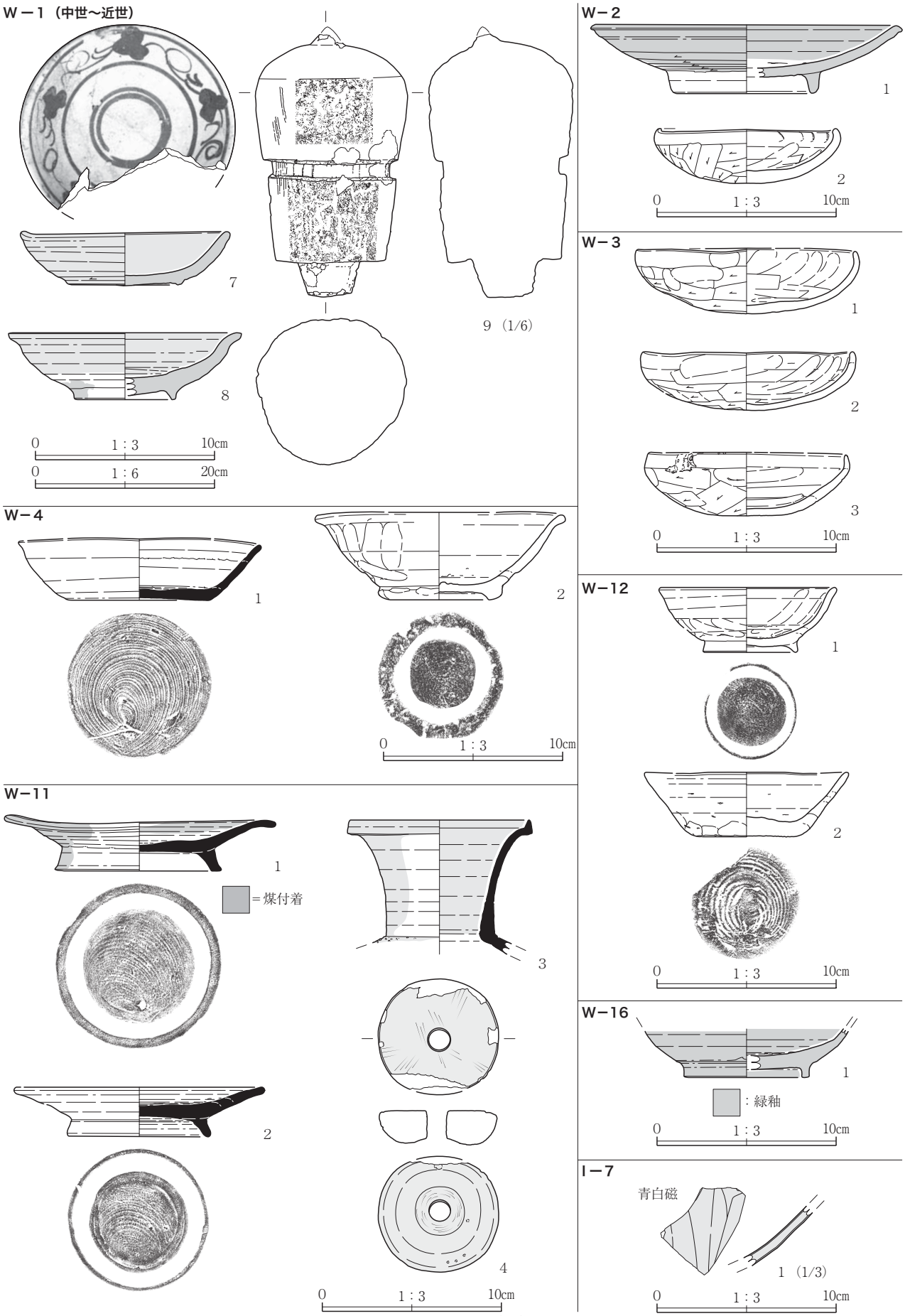

W－1（中世～近世）
7
8
9（1/6）
0 1：3 10cm
0 1：6 20cm
W－2
1
2
0 1：3 10cm
W－3
1
2
3
0 1：3 10cm
W－4
1
2
0 1：3 10cm
W－12
1
2
0 1：3 10cm
W－11
1
2
3
4
＝煤付着
0 1：3 10cm
W－16
1
：緑釉
0 1：3 10cm
I－7
青白磁
1（1/3）
0 1：3 10cm

Fig.33　出土遺物（7）

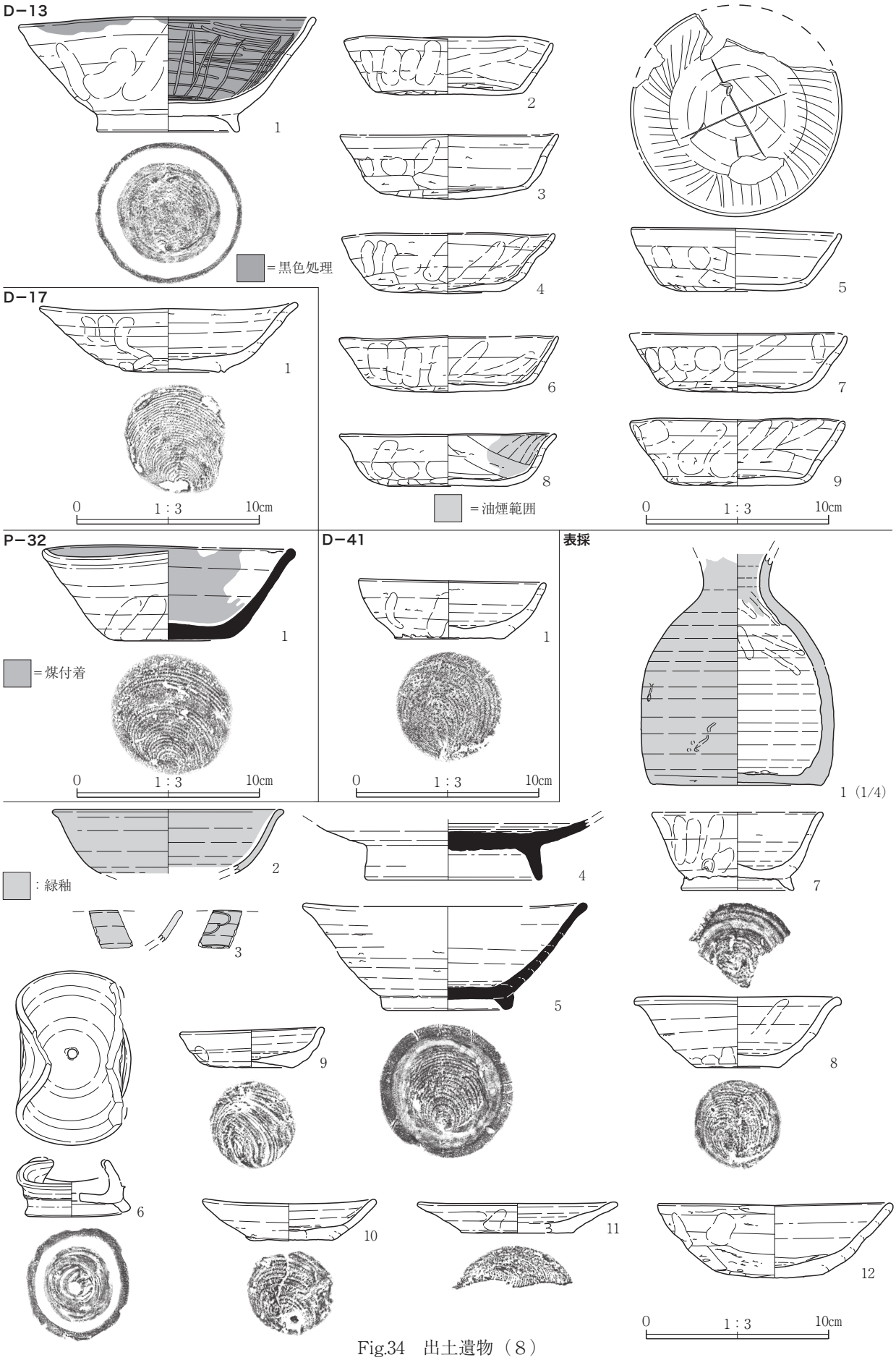

D−13
1
2
3
4
5
6
7
8
9
＝黒色処理
＝油煙範囲
D−17
1
0
1：3
10cm
P−32
1
＝煤付着
D−41
1
表採
1（1/4）
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
：緑釉

Fig.34　出土遺物（8）

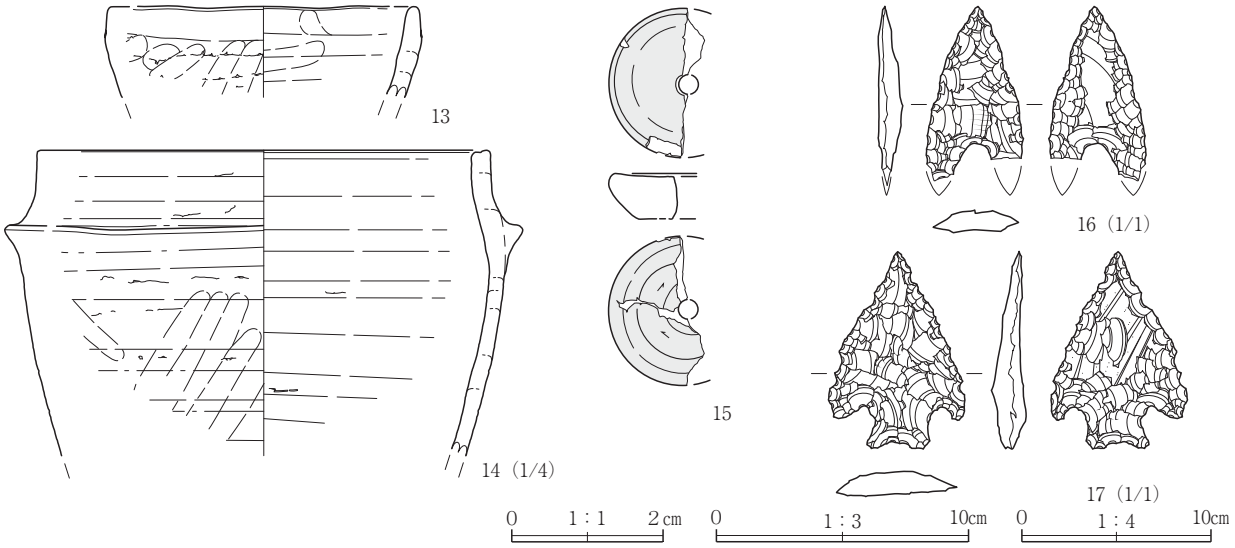


Fig.35　出土遺物（９）

Tab. 3　出土遺物観察表

Ｈ－１

No	出土位置	種別、器種	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	カマド前面	須恵器　坏	〔15.6〕	〔6.0〕	4.2	白・黒・茶色粒	酸化焔	にぶい黄橙	外面ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。煤付着。	1/4 残存。酸化焔焼成。 内面煤付着。
2	カマド前面	羽釜	〔28.0〕	欠損	(13.9)	白・灰色粗粒、 黒雲母	還元焔	橙 灰褐	外面回転ナデ、鍔は緩やかに突出し、鍔断面は三角形状を呈する。 内面回転ナデ後、丁寧なヘラナデ。	口縁～胴部中位片。 鍔部径〔31.6〕cm。

Ｈ－２

No	出土位置	種別、器種	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面	須恵器　小皿	9.2	4.6	2.5	灰・黒・茶色粒	酸化焔	浅黄橙	外面ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	口縁部一部欠損。酸化焔焼成。
2	床面	須恵器　小皿	〔9.2〕	〔4.6〕	2.3	白・黒・茶色粒、 ～２㎜大の小石	酸化焔	浅黄橙	外面ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	1/3 残存。酸化焔焼成。
3	カマド前床面	須恵器　小皿	〔9.6〕	4.5	2.8	白・黒・茶色粒、 ～２㎜大の小石	酸化焔	浅黄橙 褐灰	外面ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	3/4 残存。酸化焔焼成。
4	カマド	須恵器　坏	〔15.8〕	6.5	4.8	黒・茶色粒、灰 色粗粒	酸化焔	浅黄橙	外面ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	1/2 残存。酸化焔焼成。
5	床面	須恵器　坏	〔15.6〕	6.3	4.9	白・灰色粒、黒 雲母	酸化焔	灰黄褐	外面ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	2/3 残存。酸化焔焼成。
6	カマド	須恵器　坏	15.0	6.5	5.0	白・黒・茶色粒、 黒雲母。	酸化焔	浅黄橙 橙	外面ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	3/4 残存。酸化焔焼成。 歪み有り。
7	カマド	土師器　甕	〔24.4〕	欠損	(10.0)	白・黒色粒	良好	灰黄褐 にぶい黄橙	外面口縁部ヨコナデ、以下胴上部丁寧な縦及び横位ヘラナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	口縁～胴上部片。

Ｈ－３

No	出土位置	種別、器種	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面	羽釜	〔24.0〕	欠損	(9.4)	白・黒・茶色粒、 チャート粗粒	良好	橙	外面回転ナデ、鍔部は上面平坦、鍔部断面は鋭角の三角形状を呈する。以下胴上部斜位ヘラケズリ。 内面回転ナデ後、胴部ヘラナデ。	口縁～胴部上位片。 鍔部径〔28.4〕cm。

Ｈ－４

No	出土位置	種別、器種	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面	須恵器　小皿	〔9.4〕	〔4.6〕	2.45	白・黒・茶色粒	酸化焔	灰黄	外面ヨコナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	1/3 残存。酸化焔焼成。
2	床面	須恵器　小埦	8.5	4.7	3.1	白・灰・茶色粒	酸化焔	にぶい黄橙	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	一部欠損。酸化焔焼成。
3	カマド	須恵器　坏	15.1	5.8	5.2	白・黒・茶色粒	酸化焔	淡黄 黒褐	外面ロクロナデ。底部回転糸切り。体部下位～底部煤付着。 内面ロクロナデ。底部煤付着。	4/5 残存。酸化焔焼成。 歪み有り。

Ｈ－６

No	出土位置	種別、器種	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	須恵器　坏	〔15.2〕	5.9	4.1	白・黒色粒、茶 色粗粒、黒雲母	やや酸化焔	灰黄 淡黄橙	外面ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	2/3 残存。
2	覆土	須恵器　埦	〔13.5〕	6.7	5.9	白・黒色粒、輝 石、11 ㎜大の小 石、石英粗粒	普通	褐灰	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	2/5 残存。
3	覆土	須恵器　坏	〔13.4〕	〔5.8〕	4.0	黒・茶色粒、 黒雲母	酸化焔	にぶい黄橙 黒	外面ヨコナデ。底部回転糸切り（剝落有り）。 内面ロクロナデ後、多方向のミガキ調整後、黒色処理。	1/4 残存。 内面黒色処理。

Ｈ－７

No	出土位置	種別、器種	長さ (mm)	最大径 (mm)	孔径 (mm)	胎土	焼成	色調	重量（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	土製品　土錘	4.7	1.9	0.4	白・黒・茶色粒	良好	明赤褐	17.0	手捏ね。丁寧なユビナデにより全体に滑らか。	完存。
No	出土位置	種別、器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	材質	孔径	色調	重量（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
2	覆土	石製品　石錘	5.1	(4.6)	2.2	軽石	7.6	－	25.2	全面研磨。表面は円孔を頂点に丸味を持たせ、裏面はほぼ平坦に研磨加工が施されている。側面も丸味を持たせて丁寧に作出している。	4/5 残存。

Ｈ－８

No	出土位置	種別、器種	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面	灰釉陶器　埦	欠損	〔8.0〕	(2.7)	粘土質、 黒色細粒	堅緻	灰白	外面ロクロナデ。底部（回転糸切り後）回転ヘラケズリ後、高台貼付け。三日月高台。 内面ロクロナデ。灰釉施釉。	体部下位～底部片。 灰釉施釉。大原２号窯式。
2	床面	須恵器　坏	10.8	5.8	3.3	灰・黒色粒、 黒雲母	堅緻	灰白 にぶい黄橙	外面ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	口縁部一部欠損。
3	床面	須恵器　埦	11.7	6.6	(5.1)	灰・黒色粒、黒 雲母、白色鉱物 粗粒。	堅緻	褐灰	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	3/4 残存。
4	カマド	須恵器　埦	11.1	6.3	4.4	灰・黒色粒、 黒雲母、 ～５㎜大の小石	堅緻	灰白	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。煤付着。	完存。 内面煤付着。

No	出土位置	種別、器種	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
5	覆土	須恵器　埦	12.0	6.1	4.6	白・黒・茶色粒、黒雲母、チャート粗粒	堅緻	褐灰 にぶい黄橙	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。煤付着。	完存。 内面煤付着。 歪み有り。
6	カマド脇	須恵器　埦	〔11.6〕	6.1	4.4	白・灰・茶色粒、黒雲母、チャート粗粒	酸化焔	にぶい黄橙	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	3/4 残存。酸化焔焼成。
7	カマド	須恵器　埦	9.8	5.5	4.2	黒雲母、白色鉱物粒、～４mm大の小石	酸化焔	明赤褐	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	3/4 残存。酸化焔焼成。
8	床面	須恵器　埦	10.0	6.4	6.7	灰・黒色粒	酸化焔	浅黄橙	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	完存。酸化焔焼成。 歪み有り。
9	床面	須恵器　埦	11.5	6.5	4.9	白・灰・茶色粒、黒雲母、～５mm大の小石	酸化焔	橙	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	ほぼ完存。酸化焔焼成。
10	カマド脇	羽釜	〔19.0〕	欠損	(14.0)	白・黒色粒、チャート粗粒	酸化焔	にぶい赤褐 にぶい橙	外面回転ナデ。、鍔上部はほぼ平坦で、鍔部断面は鋭角の三角形状を呈する。以下胴部回転ナデ。胴部中位にカマド構築土付着。 内面回転ナデ。	口縁～胴上部片。 鍔部径〔23.6〕cm。 カマド構築土付着。
11	カマド脇	羽釜	欠損	〔7.0〕	(13.5)	白・黒・茶色粒チャート粗粒	酸化焔	にぶい黄橙 にぶい橙	外面回転ナデ後、縦位及び斜位ヘラケズリ後、ユビナデ。底部ヘラケズリ。 内面回転ナデ。	胴部中位～底部片。
12	カマド脇	羽釜	〔22.0〕	欠損	(12.8)	白・灰色粗粒、チャート粗粒	堅緻	灰白 灰黄	外面回転ナデ、鍔上部はほぼ平坦で、鍔部先端は約３mm の幅を有して断面形状は台形様を呈する。 内面回転ナデ。	口縁～胴部中位片。 鍔部径〔25.6〕cm。 外面煤付着。
No	出土位置	種別、器種	長さ (mm)	幅 (mm)	高さ (mm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
13	カマド	瓦　平瓦	(28.1)	(26.0)	8.9	赤色粗粒、石英粗粒	酸化焔	褐灰 橙	凹面布目痕。 凸面ヘラナデ。筆書きによる「大田」文字が刻まれている。 上端部と左右側面はヘラケズリ及び面取り。	2/3 残存。 厚さ 2.5cm。

H－11

No	出土位置	種別、器種	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面	須恵器　埦	12.7	6.6	4.85	白・灰色粗粒	堅緻	灰白	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。煤付着。 内面ロクロナデ。	ほぼ完存。 煤付着。
2	床面	須恵器　埦	12.1	6.8	4.9	黒色粒、～７mm大の小石	堅緻	灰白 灰	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。付着物有り。	完存。 内面付着物有り。
3	床面	須恵器　坏	12.1	5.6	5.0	白色粒、黒雲母	堅緻	灰黄 灰白	外面ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。煤付着。	完存。 内面煤付着。
4	カマド	羽釜	〔20.2〕	欠損	(9.5)	白色粒、チャート粗粒	酸化焔	灰黄褐 浅橙	外面回転ナデ。鍔上部は僅かに凹みを持ち、鍔部断面は二等辺三角形状から台形様への変化が見られる。以下胴部ロクロナデ後斜位ヘラナデ。 内面回転ナデ。	口縁～胴部上位片。 鍔部径〔24.0〕cm。

H－12

No	出土位置	種別、器種	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面	灰釉陶器　埦	〔15.3〕	7.8	5.0	白・黒色粒、小礫、石英粗粒	堅緻	灰白　明オリーブ灰	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。三日月高台。体部上半灰釉施釉。 内面ロクロナデ。体部灰釉施釉、口縁付近涙痕顕著。底部重ね焼き痕。	3/4 残存。三日月高台。 灰釉施釉。大原２号窯式。
2	床面	須恵器　坏	11.8	5.7	3.9	白・黒・茶色粒、黒雲母、石英	堅緻	にぶい黄橙 褐灰	外面ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	5/6 残存。
3	床面	須恵器　埦	12.8	6.5	4.7	白・黒色粒、灰色粗粒	酸化焔	にぶい橙 褐灰	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	3/4 残存。酸化焔焼成。
4	床面	須恵器　坏	〔13.2〕	5.2	4.1	白・黒色粒、黒雲母	酸化焔	橙 褐灰	外面ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	1/2 残存。酸化焔焼成。
5	床面	羽釜	〔19.2〕	欠損	(15.5)	白・黒色粒、灰色粗粒	酸化焔	赤黒 褐灰	外面回転ナデ、鍔上部はほぼ平坦で、鍔部先端は丸味を有して丁寧に作出。 内面回転ナデ。	口縁～胴中位片。 鍔部径〔23.4〕cm。

H－14

No	出土位置	種別、器種	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面	須恵器　坏	9.5	5.3	2.9	黒雲母、白色鉱物粗粒	酸化焔	橙	外面ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	完存。酸化焔焼成。
2	床面	須恵器　皿	〔11.0〕	6.5	2.5	白・茶色粒、雲母、黒雲母	酸化焔	橙	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	3/4 残存。酸化焔焼成。
3	床面	羽釜	〔19.0〕	欠損	(6.3)	白・黒・茶色粒	酸化焔	灰	外面回転ナデ、鍔上部はほぼ平坦で、鍔部断面は先端が丸味を持つ三角形状を呈し丁寧に作出している。 内面回転ナデ。	口縁～胴部上位片。 鍔部径〔22.0〕cm。
4	床面	羽釜	〔22.0〕	欠損	(11.0)	黒色細粒	酸化焔	にぶい黄橙 灰黄褐	外面回転ナデ、鍔上部は平坦で、鍔部断面は先端に４mm の幅を有する台形様を呈する。胴部ロクロナデ後、斜位ヘラナデ及びユビナデ。 内面回転ナデ。付着物有り。	口縁～胴部中位片。 鍔部径〔27.4〕cm。

H－15

No	出土位置	種別、器種	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面	須恵器　坏	〔12.0〕	〔4.1〕	4.1	白・茶色粒、雲母、黒雲母	酸化焔	橙	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	3/4 残存。酸化焔焼成。
2	床面	須恵器　埦	欠損	6.5	(2.95)	白・茶色粒、黒雲母、白色鉱物粗粒	酸化焔	灰白 にぶい黄橙	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。煤付着。	体部下位～底部残存。酸化焔焼成。 内面煤付着。

H－18

No	出土位置	種別、器種	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	カマド	灰釉陶器　埦	〔14.0〕	〔7.2〕	6.0	粘土質、黒色粒、白色鉱物粒	堅緻	灰白	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、回転ヘラケズリ調整後、高台貼付け。全面灰釉施釉。 内面ロクロナデ。口縁～体部上半灰釉施釉。	2/5 残存。 灰釉施釉。大原２号窯式。
2	カマド	須恵器　小皿	8.6	4.1	2.4	白・黒・茶色粒、黒雲母	酸化焔	にぶい橙	外面ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	完存。酸化焔焼成。
3	床面	須恵器　小皿	8.5	4.4	2.05	白・黒・茶色粒、黒雲母	酸化焔	浅黄	外面ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	完存。酸化焔焼成。

H－21

No	出土位置	種別、器種	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面	羽釜	〔20.0〕	欠損	(8.9)	白・黒・茶色粒、黒雲母、チャート粗粒	酸化焔	にぶい褐	外面回転ナデ、鍔上部はほぼ平坦で、鍔部断面は先端が丸味を持つ三角形状を呈し丁寧に作出している。 内面回転ナデ。	口縁～胴上部片。

H－22

No	出土位置	種別、器種	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面	須恵器　坏	〔14.0〕	〔7.6〕	3.65	白・黒色粒、黒雲母、茶色粗粒	堅緻	黒褐	外面ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	1/6 残存。
2	床面	羽釜	〔19.0〕	欠損	(7.3)	白・黒・茶色粒、黒雲母	酸化焔	にぶい褐	外面回転ナデ、鍔上部は凹状を呈し、鍔は厚さ３mm と薄く作出し突出している。 内面回転ナデ。	口縁～胴上部片。 鍔部径〔23.0〕cm。

H－23

No	出土位置	種別、器種	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面	須恵器　埦	欠損	6.6	(3.35)	黒・茶色粗粒	酸化焔	浅黄橙	外面ロクロナデ。。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	体部下位～底部残存。酸化焔焼成。
No	出土位置	種別、器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	材質	焼成	色調	重量（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
2	覆土	鉄製品　鎌	19.1	12.2	1.2	鉄	－	－	197.9	曲刃鎌、茎付。基部が長く、基部先端に僅かな捻り返しが認められる。	完存。

H－24

No	出土位置	種別、器種	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面	灰釉陶器　段皿	〔15.2〕	7.9	2.9	粘土質、 白・黒色粒少量	堅緻	灰白	外面ロクロナデ、底部回転糸切り後、体部下位～底部回転ヘラケズリ調整後、高台貼付け。口縁～体部中位灰釉施釉。 内面ロクロナデ。体部中位に高さ２mm の段を有する。口縁～体部中位灰釉施釉。	3/5 残存。 灰釉施釉。光ヶ丘１号窯式。

H－25

No	出土位置	種別、器種	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	カマド１	須恵器　埦	〔16.2〕	欠損	(4.4)	白・黒・茶色粒、 黒雲母	酸化焔	にぶい黄橙 灰白	外面ロクロナデ。。底部回転糸切り後、高台貼付け後、高台内ユビナデ調整。 内面ロクロナデ。	坏部 2/3 残存、底部高台欠損。 酸化焔焼成。
2	床面	須恵器　埦	〔16.0〕	〔7.2〕	7.15	白・黒色粒、 白色鉱物粗粒	堅緻	黄灰	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	1/4 残存。
3	カマド２ 煙道部	土師器　甕	欠損	10.3	(12.4)	石英、黒雲母、 チャート粗粒、 20 ㎜大の小石	酸化焔	灰褐 にぶい橙	外面縦位ヘラケズリ、胴下端部横位ヘラケズリ。底部ヘラケズリ。 内面ヘラナデ。	胴部中位～底部残存。

No	出土位置	種別、器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	胎土	焼成	色調	重量（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
4	カマド２ 前面	土製品　土錘	4.3	1.6	1.5	白・黒色細粒、 輝石	酸化焔	にぶい黄褐 黒	11.0	手捏ね。丁寧なユビナデ整形が施されている。 上端部は最大径 0.9cm で孔は正円形を呈する。下端部は最大径 1.0cm で孔は歪変形している。	完存。 孔径３mm。

H－26

No	出土位置	種別、器種	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面	灰釉陶器　段皿	〔19.6〕	〔9.6〕	3.3	粘土質、黒色粒	堅緻	オリーブ灰 灰白	外面ロクロナデ、体部中位に内面形状に伴う段を有する。底部（回転糸切り後）高台貼付け。三日月高台。灰釉施釉。 内面ロクロナデ。体部中位に明確な段を有する。灰釉施釉。	1/4 残存。灰釉施釉。 三日月高台。黒笹 14 号窯式
2	床面	灰釉陶器　埦	〔16.6〕	〔6.8〕	4.75	粘土質、黒色粒	堅緻	灰白 灰オリーブ	外面ロクロナデ。底部（回転糸切り後）体部下位～底部回転ヘラケズリ調整後、高台貼付け。三日月高台。体部灰釉施釉。 内面ロクロナデ。体部灰釉施釉。	1/5 残存。灰釉施釉。 三日月高台。光ヶ丘１号窯式。
3	床面	灰釉陶器　小埦	〔9.6〕	5.3 5.6	3.0	粘土質、黒色粒	堅緻	灰白	外面ロクロナデ。底部（回転糸切り後）高台貼付け後、高台内ユビナデ。体部灰釉施釉。 内面ロクロナデ。灰釉施釉。	2/5 残存。灰釉施釉。 三日月高台。光ヶ丘１号窯式。
4	床面	灰釉陶器　瓶	欠損	8.1	(5.4)	白・黒色粒	堅緻	灰白 オリーブ黄	外面ロクロナデ、胴部下位回転ヘラケズリ。底部回転糸切り後、高台貼付け。扁平高台。胴部～底部灰釉施釉。 内面ロクロナデ。	胴部下位～底部残存。 灰釉施釉。
5	床面	須恵器　坏	〔15.0〕	〔7.6〕	3.8	黒色粒、 灰色粗粒	堅緻	灰白	外面ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	1/4 残存。 煤付着。
6	床下土坑	須恵器　埦	欠損	6.4	(3.7)	黒色粒、 灰・茶色粗粒	やや酸化焔	灰黄	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	体部下位～底部残存。酸化焔焼成。 外面カマド構築土付着か。
7	カマド	土師器　甕	〔19.6〕	欠損	(9.2)	白・黒・茶色細粒、輝石	良好	橙	外面口縁部ヨコナデ、口辺は「コ」の字状を呈し、以下胴上部横位及び斜位ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	口縁～胴部上位片。

H－27

No	出土位置	種別、器種	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面	緑釉陶器　皿 除刻花文皿	欠損	〔9.4〕	(2.6)	粘土質	堅緻	明緑灰	外面ロクロナデ。底部（回転糸切り後）高台貼付け後、高台内ヘラケズリ調整。緑釉施釉。 内面ロクロナデ。見込みに除刻の花文。緑釉施釉。	体部下位～底部片。 内外面に施釉。
2	床面	灰釉陶器　埦	欠損	8.3	(3.1)	粘土質、黒色粒、白色鉱物粒	堅緻	灰白 明オリーブ灰	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け後、高台内ユビナデ。灰釉施釉、涙痕状。 内面ロクロナデ。	体部下位～底部残存。 灰釉施釉。大原２号窯式。
3	床面	須恵器　埦	12.9	6.9	4.0	石英、黒雲母、 チャート粗粒	酸化焔	にぶい黄橙 灰白	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。口縁部煤付着。 内面ロクロナデ。煤付着。	3/4 残存。酸化焔焼成。 煤付着。
4	床面	須恵器　埦	欠損	8.0	(4.4)	灰・黒色粒、 輝石	堅緻	灰 灰白	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	胴部下位～底部残存。
5	覆土	羽釜	〔19.0〕	欠損	(6.2)	白・黒・茶色粒、 黒雲母	酸化焔	灰黄褐	外面回転ナデ、鍔上部は平坦で、鍔部断面は先端に丸味を持たせた三角形状を呈し、丁寧に作出している。 内面回転ナデ。	口縁～胴部上位片。 鍔部径〔22.6〕cm。

No	出土位置	種別、器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	材質	焼成	色調	重量（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
6	床面	鉄製品 二又状鉄製品	11.7	1.5	0.85	鉄	－	－	17.9	断面角状のものが二又に分かれる。中央部は括れ、基部（柄）には銹化した木質が残存する。	完存。

H－29

No	出土位置	種別、器種	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	カマド前面	須恵器　皿	8.9	5.7	2.6	白・黒・茶色粒、 黒雲母	酸化焔	橙	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	口縁及び底部一部欠損。
2	カマド	羽釜	〔24.0〕	欠損	(9.3)	チャート粗粒、 輝石	酸化焔	橙	外面回転ナデ、鍔上面はほぼ平坦で、鍔部は先端に４mm の幅を持たせて丁寧に作出。鍔基部に孔径４mm の２孔が穿たれている。 内面回転ナデ。	口縁～胴上部片。 鍔部径〔27.8〕cm。 鍔基部に２孔を有する。
3	カマド	土甕	〔21.0〕	欠損	(5.9)	白・黒色粒、 黒雲母	良好	灰赤 にぶい赤褐	外面口縁部ヨコナデ、口縁と胴部の境に最長 2.9cm 突出する取っ手を有し、以下胴上部縦位ヘラケズリ。鍔部（取っ手か）手捏ね。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	口縁～胴上部片。 鍔付。

H－30

No	出土位置	種別、器種	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面	須恵器　皿	〔14.0〕	〔6.4〕	2.5	白色粒、 黒色粗粒	堅緻	褐灰	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。自然釉付着。 内面ロクロナデ。自然釉付着。	2/5 残存。 自然釉付着。
2	床面	土師器　坏	12.6	6.6	4.0	黒・赤色粒、 黒雲母	良好	にぶい橙 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、体部横位ヘラケズリ。底部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	完存。
3	床面	須恵器　甑	欠損	〔16.0〕	(7.4)	白・黒色粒、 灰色粗粒	堅緻	褐灰	外面ロクロナデ、底縁部は底縁帯の両端をやや鋭角に突出させ、腰部は緩やかに内湾して丸味を有する。 内面ロクロナデ。	底縁～胴下部片。

H－31

No	出土位置	種別、器種	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	灰釉陶器　埦	〔15.8〕	〔7.8〕	5.0	粘土質、 白・黒色粒少量	堅緻	灰白 にぶい黄橙	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。体部灰釉施釉。 内面ロクロナデ。底部重ね焼き痕。体部灰釉施釉。底部磨耗により滑らか。	1/3 残存。 灰釉施釉。大原２号窯式。
2	カマド	須恵器　埦	〔13.9〕	6.6	5.3	白・茶色粒、 黒雲母、 灰色粗粒	やや酸化焔	褐灰	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	3/5 残存。
3	カマド	須恵器　坏	〔13.8〕	6.2	4.2	白・黒色粒	堅緻	黄灰	外面ロクロナデ。。底部回転糸切り。煤付着。 内面ロクロナデ。	1/4 残存。 歪み有り。

H－33

No	出土位置	種別、器種	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面	須恵器　埦	欠損	〔8.3〕	(4.2)	黒・茶色粒、 白色鉱物粒、 輝石	酸化焔	にぶい黄橙	外面ロクロナデ。。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	体部下位～底部片。

No	出土位置	種別、器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	材質	焼成	色調	重量（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
2	床面	鉄製品　鉄鏃か	8.9	2.1	0.85	鉄	－	－	23.2	刃部断面形状は両凸刃か。刃区は明確で、茎は長さ 4.5cm、幅 1.3cm、厚さ 0.8cm を計る。	完存か。
3	床面	石製品　管玉	1.86	0.78	0.74	滑石質結晶片岩	－	－	2.2	８角柱を呈し、上下端面及び側面８研磨面には斜位擦痕顕著。 上端面から直径３㎜の孔が深さ３㎜まで穿たれている。	完存。未成品か。 孔径３㎜、孔深３㎜。

H－34

No	出土位置	種別、器種	口径（mm）	底径（mm）	高さ（mm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面	灰釉陶器　皿	〔12.8〕	〔5.8〕	2.4	粘土質、 白・黒色粒少量	堅緻	灰白	外面ロクロナデ。。底部回転糸切り後、高台貼付け後、高台内回転ヘラケズリ調整。口縁部灰釉施釉。 内面ロクロナデ。口縁部灰釉施釉。	1/4 残存。 灰釉施釉。光ヶ丘１号窯式。
2	床面	須恵器　埦	〔10.6〕	6.0	4.3	白・茶色粒、 黒雲母、水晶	酸化焔	橙	外面ロクロナデ。。底部回転糸切り後、高台貼付け。煤・炭化物付着。 内面ロクロナデ。煤・炭化物付着。	3/4 残存。 煤・炭化物付着。
3	覆土	須恵器　埦	〔11.3〕	6.2	4.6	茶・灰色粗粒	酸化焔	にぶい橙	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	3/4 残存。

H－35

No	出土位置	種別、器種	口径（mm）	底径（mm）	高さ（mm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
6	覆土	須恵器　埦	15.0	7.3	6.1	白・黒色粒、 黒雲母	酸化焔	浅黄橙 黒	外面ロクロナデ後、体部横位ヘラケズリ。底部回転糸切り後、高台貼付け後、高台内ユビナデ調整。 内面ロクロナデ後、ハケナデ調整後、黒色処理。	口縁部一部欠損。 内面黒色処理。
7	覆土	須恵器　坏	〔11.6〕	6.8	3.7	灰色粒、 白色鉱物粒	堅緻	褐灰	外面ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	3/5 残存。 歪み有り。

H－36

No	出土位置	種別、器種	口径（mm）	底径（mm）	高さ（mm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面	須恵器　埦	〔14.2〕	欠損	（4.8）	白・黒色粒、 黒雲母、 ９㎜大の小石	酸化焔	橙	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	坏部 1/3 残存、底部高台。
2	床面	羽釜	〔23.2〕	欠損	（8.5）	白・灰・茶色粒、 黒雲母	やや酸化焔	灰黄褐 灰白	外面回転ナデ、鍔上部はやや平坦で、鍔部は粘土紐状に丸味を持ち歪んで貼付されている。以下胴部上位縦位ヘラケズリ調整。 内面回転ナデ後、斜位ヘラナデ調整。	口縁～胴部上位片。 鍔部径〔27.8〕cm。

W－1

No	出土位置	種別、器種	口径（mm）	底径（mm）	高さ（mm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土 （底面付近）	須恵器　坏	〔13.0〕	〔7.6〕	3.5	白・黒色粒、灰色粗粒	堅緻	黄灰	外面ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	1/5 残存。
2	覆土 （底面付近）	須恵器　埦	欠損	7.8	（2.8）	白・黒色粒、 黒雲母	やや酸化焔	浅黄 灰黄	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け後、高台内ユビナデ調整。 内面ロクロナデ。	体部下端～底部残存。
3	覆土 （底面付近）	須恵器　壺	〔12.0〕	欠損	（4.5）	白・灰・黒色粒	堅緻	灰白 灰	外面ロクロナデ。口縁下位に稜を廻らせ、以下頸部上位に 10 条一単位の櫛状工具による波状文施文。自然釉付着。 内面ロクロナデ。自然釉付着。	口縁～頸部中位片。 自然釉付着。
4	覆土 （底面付近）	羽釜	〔25.0〕	欠損	（6.1）	白・黒色粒、黒雲母、赤色粗粒	酸化焔	にぶい黄橙 黒褐	外面回転ナデ、鍔部断面は緩やかな三角形状を呈する。 内面回転ナデ後、強い斜位ヘラナデ調整。	鍔部片。 鍔部径〔27.0〕cm。

No	出土位置	種別、器種	長径	短径	幅	材質	焼成	色調	重量（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
5	覆土	銅製品　柄頭か	3.88	2.00	1.05	銅	－	明緑灰	6.6	厚さ 0.6mm の銅板から作出。側面に直径 2mm の釘孔が穿たれている。全面緑青化。	ほぼ完存。

No	出土位置	種別、器種	口径（mm）	底径（mm）	高さ（mm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
6	覆土	須恵器　坏	11.3	6.7	3.2	白・黒・茶色粒、 黒雲母	酸化焔	黄橙	外面ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	5/6 残存。 歪み有り。
7	覆土 （中世～近世堀）	陶器　皿	11.5	6.4	3.0	粘土質	堅緻	灰白 黒褐	外面ロクロナデ。底部回転削り出し高台。長石釉施釉。 内面ロクロナデ。見込み絵付け唐草、植物葉（葡萄？）文様。長石釉施釉。	3/4 残存。志野鉄釉絵皿。 連房式登窯第１小期（17 c 前）。
8	覆土 （中世～近世堀）	陶器　端反皿	〔13.0〕	〔5.4〕	3.8	粘土質、 黒色粒少量	堅緻	浅黄 にぶい褐	外面ロクロナデ後、体部下位回転ヘラケズリ調整。底部ケズリ出し高台か。。体部上半長石釉施釉。 内面ロクロナデ。全面長石釉施釉。貫入有り。	1/4 残存。瀬戸・美濃焼。 大窯１・２期（15 c 末～ 16 c 前）か。

No	出土位置	種別、器種	空輪部径（mm）	風輪部径（mm）	高さ（mm）	石材	焼成	色調	重量（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
9	覆土 （中世～近世堀）	石製品　五輪塔	16.5	14.3	19.7	安山岩	－	－	5990	空風輪。 種字：風輪「カ」・空輪「キャ」が正面に陰刻。	ほぼ完存。

W－2

No	出土位置	種別、器種	口径（mm）	底径（mm）	高さ（mm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	灰釉陶器　皿	〔17.4〕	〔8.0〕	3.9	白・黒色粒	堅緻	灰白	外面ロクロナデ後、体部下半回転ヘラケズリ調整。底部回転糸切り後、高台貼付け後、ユビナデ調整。灰釉施釉。 内面ロクロナデ。底部重ね焼き痕僅かに残存。灰釉施釉。	2/5 残存。 灰釉施釉。光ヶ丘１号窯式。
2	覆土	土師器　坏	〔10.0〕	丸底	3.15	灰・黒色粒、黒雲母、白色粗粒	良好	橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	3/4 残存。

W－3

No	出土位置	種別、器種	口径（mm）	底径（mm）	高さ（mm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	土師器　坏	11.8	丸底	3.7	黒・赤色粒、 黒雲母	良好	明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	5/6 残存。
2	覆土	土師器　坏	〔12.0〕	丸底	3.3	黒・赤色粒、黒雲母、白色粗粒	良好	橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	3/5 残存。
3	覆土	土師器　坏	11.1	丸底	3.6	白・黒・赤色粒、 黒雲母	良好	橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	5/6 残存。 歪み有り。

W－4

No	出土位置	種別、器種	口径（mm）	底径（mm）	高さ（mm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	須恵器　坏	13.5	8.0	3.5	黒色粒、 灰色粗粒	堅緻	灰	外面ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	3/4 残存。
2	覆土	須恵器　埦	〔14.0〕	6.5	4.7	白・黒・茶色粒、 輝石	酸化焔	灰黄褐 灰白	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	3/5 残存。

W－11

No	出土位置	種別、器種	口径（mm）	底径（mm）	高さ（mm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	底面付近	須恵器　皿	15.3	9.3	3.2	白・黒色粒、 黒雲母、輝石	やや酸化焔	灰白 にぶい褐	外面ロクロナデ。。底部回転糸切り後、高台貼付け。煤付着。 内面ロクロナデ。口縁部煤付着。	3/4 残存。 口縁部煤付着。
2	覆土	須恵器　皿	〔14.0〕	7.9	2.8	白・黒色粒	堅緻	著灰	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	1/2 残存。
3	底面付近	須恵器　壺	〔13.3〕	欠損	〔9.9〕	白・黒色粒、 白色鉱物粗粒	堅緻	褐灰	外面ロクロナデ。口縁帯は上端部を突出させる。自然釉付着。 内面ロクロナデ。自然釉付着。	口縁～頸部 3/4 残存。 自然釉付着。

No	出土位置	種別、器種	直径（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	石材	焼成	色調	重量（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
4	底面付近	石製品　紡錘車	6.7	2.0	1.1	角閃石安山岩	－	－	53.2	全面研磨。上面は平坦に加工され、多方向の擦痕顕著。 側面から下面は丸味を持ち、孔周辺に径 2.7cm の凹部を有する。	5/6 残存。

W－12

No	出土位置	種別、器種	口径（mm）	底径（mm）	高さ（mm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	底面付近	須恵器　埦	〔10.0〕	5.2	3.6	白・灰色粒、 黒雲母	酸化焔	にぶい黄橙 灰黄褐	外面ロクロナデ。。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	2/3 残存。
2	覆土	須恵器　坏	〔11.4〕	5.8	（4.2）	白・黒色粒、 黒雲母	酸化焔	にぶい赤褐	外面ロクロナデ。。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	2/5 残存。

W－16

No	出土位置	種別、器種	口径（mm）	底径（mm）	高さ（mm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
7	覆土	緑釉陶器　埦	欠損	〔7.0〕	（2.7）	粘土質	堅緻	オリーブ黄	外面ロクロナデ。底部回転削り出し高台。全面緑釉施釉。 内面ロクロナデ。緑釉施釉。	体部下位～底部片。 緑釉施釉。９世紀後半か。

Ｉ－7

No	出土位置	種別、器種	口径（mm）	底径（mm）	高さ（mm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	青磁　碗	欠損	欠損	（2.5）	粘土質	堅緻	明緑灰	外面に鎬蓮弁文。連弁部の盛り上がりが顕著。内外面に施釉。	体部片。 龍泉窯系Ｂ１類（13ｃ中葉～14ｃ前葉）か。

Ｄ－13

No	出土位置	種別、器種	口径（mm）	底径（mm）	高さ（mm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	底面	須恵器　埦	16.2	7.6	6.3	白・茶色粒、 黒雲母	酸化焔	橙 黒	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ後、横位及び放射状ヘラミガキ調整後、黒色処理。	3/4 残存。 内面黒色処理。
2	底面	土師器　坏	11.4	8.0	3.1	白・黒色粒、 黒雲母	酸化焔	橙	外面口縁部ヨコナデ、以下横位ヘラケズリ後ユビナデ。底部回転ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	5/6 残存。
3	底面	土師器　坏	11.9	8.3	3.55	白・黒色粒、 黒雲母	酸化焔	橙	外面口縁部ヨコナデ、以下横位ヘラケズリ及びユビナデ。底部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	1/2 残存。
4	底面	土師器　坏	11.6	7.0	3.3	白・黒・茶色粒、 黒雲母	酸化焔	橙	外面口縁部ヨコナデ、以下横位ヘラケズリ及びユビナデ。底部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	4/5 残存。
5	覆土	土師器　坏	11.5	8.0	3.5	白・黒色粒、茶色粗粒、黒雲母	酸化焔	にぶい褐	外面口縁部ヨコナデ、以下横位ヘラケズリ及びユビナデ。底部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ後、体部放射状ミガキ。底部に「十」字形の刻み。	3/4 残存。 内面底部に籾殻痕有り。
6	覆土	土師器　坏	12.1	9.0	3.2	白・黒色粒、黒雲母	酸化焔	橙 灰黄褐	外面口縁部ヨコナデ、以下横位ヘラケズリ及びユビナデ。底部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。煤付着。	口縁部一部欠損。 内面煤付着。
7	覆土	土師器　坏	12.0	7.9	3.4	黒色粒・黒雲母、輝石	酸化焔	橙	外面口縁部ヨコナデ、以下横位ヘラケズリ及びユビナデ。底部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	3/4 残存。
8	覆土	土師器　坏	〔11.9〕	〔7.0〕	2.9	白・黒色粒、 黒雲母	酸化焔	にぶい橙	外面口縁部ヨコナデ、以下横位ヘラケズリ及びユビナデ。底部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。煤付着。	1/2 残存。 内面煤付着。
9	覆土	土師器　坏	〔11.8〕	7.7	3.75	白・黒色粒、 黒雲母、輝石	酸化焔	にぶい橙	外面口縁部ヨコナデ、以下横位ヘラケズリ及びユビナデ。底部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	2/3 残存。

Ｄ－17

No	出土位置	種別、器種	口径（mm）	底径（mm）	高さ（mm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	須恵器　坏	14.1	4.8	3.85	白・黒・茶色粒、 黒雲母	やや酸化焔	褐灰	外面ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	3/4 残存。 歪み有り。

Ｄ－41

No	出土位置	種別、器種	口径（mm）	底径（mm）	高さ（mm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	須恵器　坏	8.2	6.0	3.3	白・黒・茶色粒、 黒雲母	酸化焔	淡黄	外面ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	口縁部一部欠損。

Ｐ－32

No	出土位置	種別、器種	口径（mm）	底径（mm）	高さ（mm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	須恵器　坏	13.8	6.8	5.1	白・黒色粒、 ～３mm大の小石	堅緻	灰	外面ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	完存。 内面下半部付着物？歪み有り。

表採

No	出土位置	種別、器種	口径（mm）	底径（mm）	高さ（mm）	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	北側調査区	灰釉陶器　小瓶	欠損	12.6	（17.3）	粘土質、 黒色粒、 白色鉱物粗粒	堅緻	灰白　明オリーブ灰	外面ロクロナデ、胴部下端回転ヘラケズリ調整。底部（回転糸切り後）ヘラケズリ及びユビナデ調整。全面灰釉施釉。 内面ロクロナデ。頸部灰釉涙痕。	頸部～底部3/5 残存。 灰釉施釉。
2	南側調査区	緑釉陶器　埦	〔12.7〕	欠損	（3.2）	粘土質	堅緻	緑 灰白	外面ロクロナデ。口縁部外反。緑釉施釉。 内面ロクロナデ。緑釉施釉。	口縁～体部下位片。 緑釉施釉。
3	南側調査区	緑釉陶器　埦か	不明	欠損	（2.1）	粘土質、 黒色細粒	堅緻	オリーブ灰	外面ロクロナデ。体部上位に僅かな稜を持ち屈曲する。緑釉施釉。 内面ロクロナデ。外面の屈曲に伴う凹みを持ち、口縁と凹みの間に篦状工具による刻み文（花？）有り。緑釉施釉。	口縁部片。 緑釉施釉。
4	南側調査区	須恵器　埦か	欠損	9.4	（3.3）	灰色粗粒、～４mm大の小石	堅緻	灰 灰白	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	体部下端～底部残存。
5	北側調査区	須恵器　埦	〔15.5〕	7.1	5.9	白・黒・茶色粒、 黒雲母、輝石	やや軟質	にぶい黄橙 黒褐	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼付け。 内面ロクロナデ。	2/3 残存。
6	南側調査区	須恵器　耳皿	9.1	5.9～6.2	3.2	白・黒色粒、灰・茶色粗粒、輝石	堅緻	褐灰	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。皿状に成形後、耳皿整形。 内面ロクロナデ。整形後底部中央に直径６mm の孔が穿たれている。	口縁（耳）部一部欠損。 底部中央に穿孔有り。
7	北側調査区	須恵器　埦	〔9.4〕	〔5.5〕	4.4	白・黒・茶色粒、 黒雲母、石英	酸化焔	橙	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、高台貼付け。 内面ロクロナデ。	1/3 残存。
8	北側調査区	須恵器　坏	〔11.4〕	4.7	3.9	黒・茶色粒、 輝石	酸化焔	にぶい黄橙	外面ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	1/2 残存。
9	北側調査区	須恵器　小皿	8.0	4.9	2.3	黒・茶色粗粒、 黒雲母	酸化焔	にぶい橙	外面ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	4/5 残存。 歪み有り。
10	北側調査区	須恵器　小皿	9.5	4.7	2.3	黒色粒、黒雲母、茶色粗粒	酸化焔	灰白	外面ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	3/4 残存。
11	南側調査区	須恵器　小皿	〔11.0〕	〔6.0〕	1.7	白・赤色粒、 黒雲母	酸化焔	橙	外面ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	1/3 残存。
12	南側調査区	土師器　坏	12.8	6.5	4.1	白・黒・赤色粒、 黒雲母	良好	明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下横位ヘラケズリ及びユビナデ。底部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下回転ヘラケズリ及びユビナデ。	3/5 残存。
13	南側調査区	土師器　鉢か	〔16.0〕	欠損	（5.0）	灰・黒色粒、 黒雲母	酸化焔	灰黄褐 灰白	外面口縁部ヨコナデ、以下ユビナデ。輪積み痕顕著。 内面口縁部ヨコナデ、以下ユビナデ。	口縁～胴部上位片。
14	南側調査区	羽釜	〔24.0〕	欠損	（16.1）	白・黒色粒、黒雲母、チャート	酸化焔	橙	外面回転ナデ。口唇部が僅かに凹む平坦口縁。鍔部断面形状は先端がやや鈍角の三角形状を呈する。 内面回転ナデ。	口縁～体部中位片。 鍔部径〔28.3〕cm。

No	出土位置	種別、器種	直径（mm）	短径（mm）	厚さ（mm）	胎土	焼成	色調	重量（ｇ）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
15	南側調査区	土製品　紡錘車	5.8	3.8	1.8	白・黒色粒、 茶色粗粒	酸化焔	暗赤灰	32.9	手捏ね及びヘラケズリ及びユビナデ。上端面は僅かに凹を有するユビナデ調整。側面下位にはヨコナデによる僅かな段を有し、下端の平坦面は回転ヘラケズリ調整か。全面滑らか。	1/2 残存。 孔径８mm。

No	出土位置	種別、器種	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	材質	焼成	色調	重量（ｇ）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
16	南側調査区	石器　石鏃 凹基無茎鏃	（2.3）	（1.2）	0.3	黒曜石	－	－	0.7	表面は中央に素材剥片段階の剥離面を僅かに残し、全面加工が施されている。裏面は素材段階の剥離面を広く残し、主に周縁に連続する剥離加工を施し、やや細身で薄型の鏃を作出している。凹基部の作出も丁寧である。	左脚部先端及び、右脚部欠損。
17	南側調査区	石器　石鏃 凹基有茎鏃	2.6	1.8	0.4	黒曜石	－	－	1.3	表面全面加工。周縁には微細な調整剥離を施し、先端が狭小する鋭利な鋸歯状を左右側縁に作出している。凹基部には中央が括れる特殊な形状の基部を作出している。裏面は素材剥片段階の剥離面を広く残し、主に周縁に連続する剥離加工及び微細な調整加工を施している。	完存。 アメリカ式石鏃か。

Ⅵ　まとめ

今回の調査で竪穴建物跡36軒、溝・堀18条、井戸12基、土坑40基、ピット52基、畠跡１面、性格不明遺構２基を検出した。ここでは調査成果を基に特徴的な遺構について考察を行い、まとめとしたい。

１．集落

本調査において検出された竪穴建物跡は36軒を数える。年代別にみると９世紀代：６軒、９世紀後半から10世紀前半：２軒、10世紀代：21軒、11世紀代：６軒、不明：１軒となり、９～11世紀にかけての集落であったことがわかった。本遺跡の南西方向に位置する元総社落合遺跡では狭い調査区の中で９軒の住居跡が確認されており、出土遺物から８～９世紀に帰属すると報告されている。北西方向に位置する元総社早道乙遺跡では７～10世紀代の住居跡17軒、天神Ⅲ遺跡では８世紀中頃～11世紀後半の住居跡が９軒確認されている。本遺跡では９世紀以前の建物跡は確認されていないが、落合地区周辺では９世紀以前の住居跡も確認されている事から、本遺跡の周辺でも当該期の集落が広がっていると考えられる。

本遺跡で検出された竪穴建物の分布は調査区南側に集中する。検出されていない調査区北側の台地部にはHr-FA洪水堆積層に被覆された畠の痕跡が確認できる。台地際やＷ－１に近接することも影響してか、集落域はここまでは至っていない。なお６世紀前半以降と想定される畠に伴う集落は確認されなかった。

２．Ｗ－１

調査区北側で確認されたＷ－１は上幅約18ｍを測る大型の溝である。覆土状況から古代にはすでに存在し、中世を経て、近世以降に人為的に埋め戻されたと考えられる。各時代で性格・特徴が変わってくるため、項目毎に検討を行ってみたい。

古代の溝

Ｗ－１の確認面は、表土除去後に黄橙色や黄褐色の砂質土（Ⅳａ層）が検出された事から、当初これを総社砂層に相当する土層と考え、この層位で遺構確認作業を行った。実際低地部分では全域においてＷ－１を検出することができた。しかし、Ｗ－１の調査を進めると溝肩部での土層観察において確認面層位の下に「C黒」（Ⅴ層）を検出した。この時点で確認層位がHr-FA洪水堆積層（Ⅳａ層）であることがわかった。溝断面土層においてはHr-FA洪水堆積層を含む土層は確認できなかった。底面は流水の浸食により軸方向に向かって数条の溝状になっている。溝内で変流していたことが窺える。調査区中央部を貫流する芦田堰は現在牛池川から取水し、染谷川方向へと流れていることから、Ｗ－１も同様に東から西へ水が流れていたと想定される。

牛池川の旧流路であったのか、人為的に開削された溝なのか判然としないが、原初は牛池川と染谷川の間の台地上を流れていた相馬ヶ原扇状地を源とする中小河川によって開析された地形であったと推測される。総社砂層（Ⅸ層）が台地部では見られず、低地部でのみ確認できることから総社砂層堆積時には谷地形であった事が言える。その後、牛池川の流水を取り込み周辺地形への浸食を繰り返し、規模を大きくしていったと考えられる。なお今回はトレンチによる部分的な調査に留まり、全体像の把握が出来ていないが調査成果からは人為的に溝を掘削したような痕跡は確認されていない。

Ｗ－１の規模は調査成果から上幅約18ｍ、深さ1.8～2.4ｍを測り、Ｎ－68°－Ｅの主軸方向を持つ。最大規模であった時期は断面土層にHr-FA洪水堆積層が確認できないことから、６世紀中頃以降であると想定

される。底面からは羽釜（Ｗ－１－４）が出土していることから10世紀頃までは底面付近まで流水していたことが窺える。覆土中位にはAs-B軽石層（７層）が確認でき、12世紀初頭にはこの高さまで砂・泥が堆積したことがわかる。As-B軽石層より上位は砂・泥を含んだ土層であるが、底面付近の土層と比較すると砂の混入量は少なく、流れていた水量も以前と比べて少なかったのではないかと考えられる。その要因として土砂の堆積によって溝底の高さが上がり牛池川から供給されていた水が新たな流路（現牛池川か）に流れ込んだため減少したのではないかと推測される。

Ｗ－１から取水する溝

相馬ヶ原扇状地の扇端部から前橋台地へと移行する地形に立地する落合地区は南東方向へ向かって標高が下がる。調査区北側の台地部において確認されたＷ－２～４も等高線に直行するように南東方向へと走行する。Ｗ－11も同じ様に南東方向に主軸を持つ溝である。これらはＷ－１から取水して本遺跡の南東方向に広がる水田地帯へ供給していた用水路であったと想定される。３条同時に使用されていたのではなく、出土遺物の年代からＷ－３（８世紀）、Ｗ－２（８～９世紀）、Ｗ－４（９世紀後半）の順で作り替えられていたと考えられる。Ｗ－３は底面に掘削時の工具痕が１列、Ｗ－２では２列確認できる。より多くの水を流すために上幅はそれほど広げず、下幅を広げたと想定される。Ｗ－２・３は幅は違えど、断面形状・深さ・掘削手法等類似する点が多いため、同時期あるいは直近の時期に移行した可能性が考えられる。Ｗ－２には水量調整の溝が分岐する（Ｗ－２ａ・ｂ）。下流へ供給過多にならないようにオーバーフローさせて水量を調整していたようである。Ｗ－１の水量が豊富であったことが窺える。Ｗ－４はＷ－２・３と比較して幅は狭く掘り込みは浅くなる。この頃には積極的に水を供給する意識がやや薄れた感じを受ける。前項で述べたように、Ｗ－１が牛池川上流部からの堆積土砂により底が浅くなり流れ込む水量が減少した事が原因と考えられる。

Ｗ－１からの取水が想定される事はすでに述べたが、低地（Ｗ－１）から台地（Ｗ－２～４）へ水を流すため高低差が生じる。どのような方法で揚水していたのだろうか。Ｗ－１に堰が存在し水の流れをコントロールしていたのか、水車のようなもので揚水していたのか。今回の調査成果からはその可能性を指摘することはできないが、Ｗ－１からＷ－２への推定取水地点は都市計画事業地内にあたるため今後発掘調査される可能性がある。今後の調査に期待したい。

蒼海城の堀

蒼海城は古代、元総社地区に存在した上野国府の地割りを利用して造られた平城であり、群馬県内の城郭史の中で初期段階に位置する城として知られている。牛池川と染谷川に挟まれた範囲を縄張りとし、両河川を東西の堀として使用している。右の図は県内の城郭研究の第一人者である山崎一氏が作図した蒼海城の縄張り図である。その内容は「蒼海城絵図」（Fig.39左図）とほぼ一致しており、作図にあたり参考にされたと考えられる。

本遺跡は蒼海城の南端部に位置する。「蒼海城絵図」では城の南側、牛池川と染谷川を繋ぐ川のようなものが描かれている場所に当たる。本遺跡のＷ－１はこの

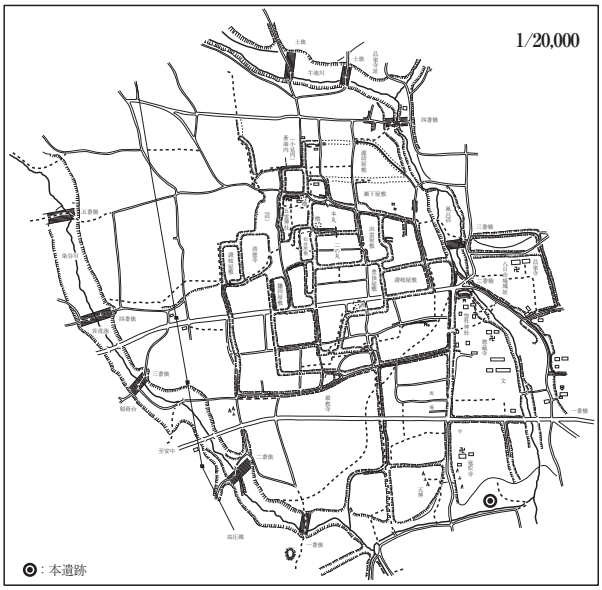


Fig.36　蒼海城縄張図（山崎1978より一部改変）

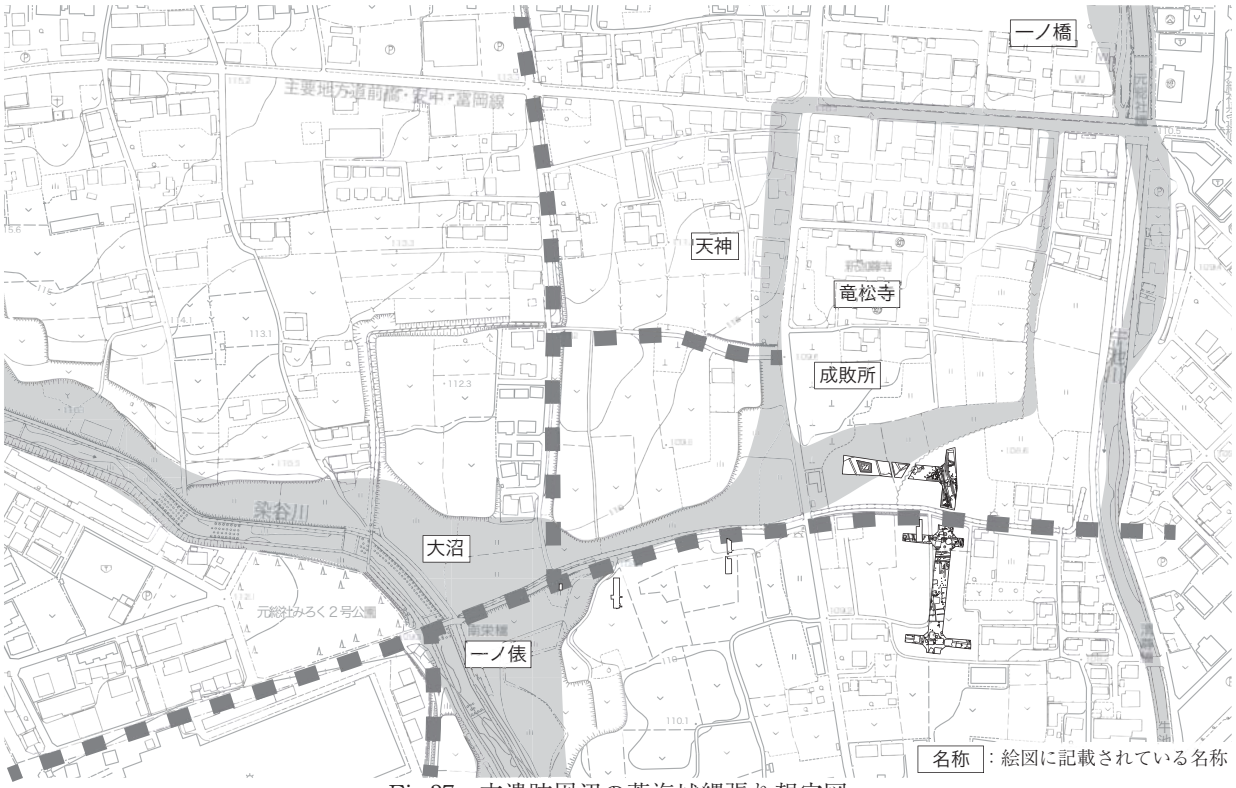


Fig.37　本遺跡周辺の蒼海城縄張り想定図

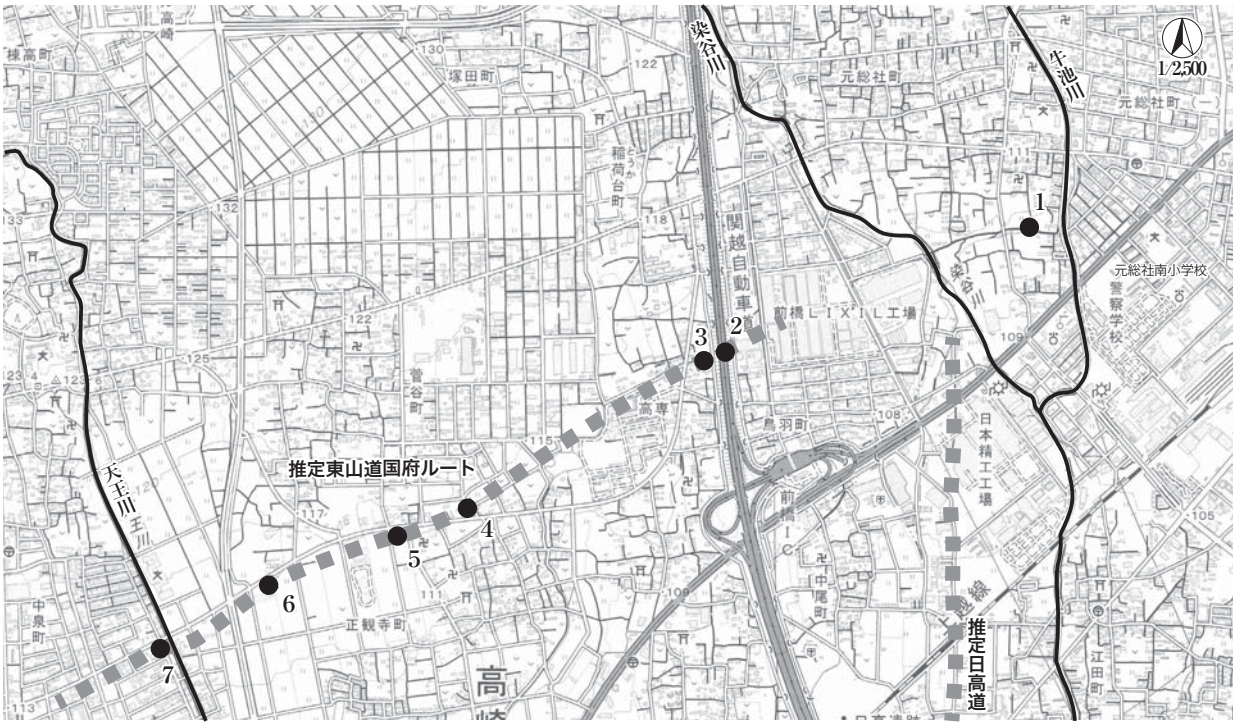
川あるいは堀に該当し、蒼海城の南側を抑える外堀の役割を担っていたと考えられる。溝の土層観察では中世頃に当たる層位（２層）が粘性の強い土層で、常時流水しておらず湿地のような状態であったと想定される。沼のような状態であると攻城側は足を取られ、進軍速度が落ち防衛側から攻撃を受けやすくなる。２層土上位からは17世紀前半と考えられる陶磁器（W－１－７）が出土している。蒼海城は慶長十五年（1610）、城主秋元長朝が総社城（前橋市総社町内）へ居城を移した時に廃城となる。軍事設備としての機能を失った堀はブロック状の土砂で埋められている事から、近世以降に人為的に埋め戻しが行われたと考えられる。その後、現在に至るまで田畑として使用されていた。

Fig.37は「蒼海城絵図」を参考に本遺跡周辺の蒼海城の堀を想定した図である。染谷川の旧流路の低地と遺跡周辺の低地部分は絵図の「大沼」にあたり、蒼海城の堀として機能していたと考えられる。堀の南側には東西方向に走行する道が描かれている。現在の芦田堰沿いの道がこれに当たると想定される。道の東方向には「釈迦尊寺」が見られる。現在の釈迦尊寺は絵図中の「竜松寺」の場所にあたる。永禄六年（1563）甲州勢（武田勢か）の兵火により「釈迦尊寺」（Fig.39左図参照）が焼失。末寺である「竜松寺」があった現在の場所に移ったという（寺伝）。道の西方向には染谷川の渡河点があり、「一ノ俵」の記載が見られる。土を入れた俵を積み上げて橋にしていたのだろう。絵図に東西道から北へ分岐する道が見られる。この道は現在も周辺の宅地よりやや低い道路となっており、古代の推定日高道のルートとも考えられている。中世においては蒼海城の中心へと向かう道の一つであったと想定される。

３．推定東山道国府ルート

落合地区に立地する本遺跡の調査成果を記すにあたり東山道について触れないわけにはいかないだろう。

上野国府推定地の南方向に位置する本遺跡周辺は推定東山道国府ルートの通過地点として以前から研究者の注目を受けていた。推定東山道国府ルートは高崎市八幡町付近から上野国府推定地である前橋市元総社町付近に向かって北東方向に走行する駅路である。推定ルートは落合地区で南から国府方向へと延びる推定日

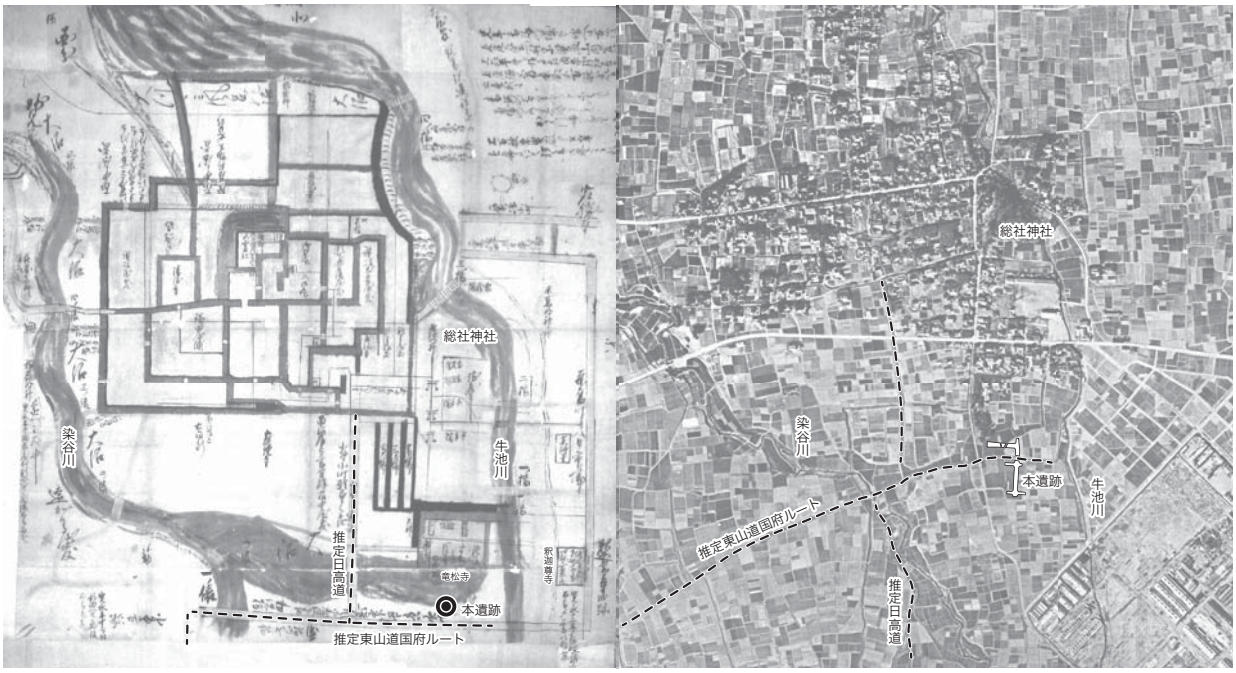


1.西部第一落合遺跡群（1）　2.鳥羽遺跡　3.上野国府等範囲内容確認調査（45トレンチ）　4.推定東山道（11トレンチ）　5.正観寺遺跡
6.菅谷石塚遺跡　7.推定東山道（2～10トレンチ）

Fig.38　推定東山道国府ルートと推定日高道の推定ラインと道路状遺構検出遺跡

高道と交差すると考えられている。落合地区～利根川までは市街地化が進んではいるが、僅かな地割痕跡を基にルートが推定されている。前橋・高崎市内での発掘調査によって10遺跡24地点[(1)]で検出されており、路面幅4m前後、両側に側溝を備える特徴である。他遺構との重複やAs-B軽石の堆積状況から9世紀後半には造られ、一部ではAs-B軽石堆積後も使用されていたと報告されている[(2)]。地籍図上の検討から県内の東山道駅路の推定を行った金坂清則氏は、国府ルートの延長線上にあたる本遺跡の調査区北側の低地部分に東山道が通ると想定された（金坂1974）。しかし、調査の結果その場所には道ではなく、溝（W－1）が走行していた。W－1の断面土層を観察しても溝中を道として使用した痕跡は無く、調査区全域を見ても該当するような道路状遺構は確認されていない。調査区南側に位置するW－8～10･12は東西方向に走行しているが調査区西･東壁において土層断面観察を行ったところ、溝間で硬化面を検出することはできなかった。これを積極的に道路状遺構に関係する側溝であると認定することは難しい。

東山道はどこを通るのだろうか。今回の調査で推定東山道が「検出されなかった」成果から中世の蒼海城絵図や航空写真に見える地割を用いて推定東山道の想定ルートを考え、併せて落合地区で交差するであろう推定日高道についても検討してみたい。平成28年度に前橋市教育委員会による上野国府等範囲内容確認調査において関越自動車道脇の45トレンチで2時期の道路状遺構が確認されている（前橋市2018）。45トレンチから染谷川に架かる南栄橋までの推定ルートは地割でも確認できることから妥当であろう。染谷川渡河点と想定される場所はW－1との合流点にあたり、増水時には氾濫原となるような低地である。染谷川右岸から左岸・W－1南岸に橋を架けていたのだろうか。染谷川左岸側に流れる芦田堰の南側に現在舗装された道路が走行している。前項にて中世末において堀（W－1）の南側に道が通っていることは「蒼海城絵図」にも描かれており、それが現道下であると想定した。これが中世以前から存在していた道、つまり東山道の名残として現代まで踏襲され使用されていたのではないだろうか。調査区北側南端から調査区南側北端までの距離は約12m、側溝含めて約6m程の道が通るには十分の幅である。絵図では牛池川渡河後も東へ延びている。航空写真からはその先の地割は追えないが、現在の元総社南小学校内を通るように直線的に走行するの



左：「蒼海城絵図」（元総社公民館展示）、右：米軍撮影　USA－R1250－109 を使用、一部改変

Fig.39　城絵図と地割からの推定ルート

ではないかと考えられる。

日高道と東山道との交点は推定ルートを直線的に結ぶと染谷川とＷ－１との氾濫原（低地）の中にあたる。そのため Fig.39 右図のような染谷川沿いを北上して東山道と合流、渡河後に分岐しているのではないかと考えられる[3]。Fig.39 左図にも同様なクランク状に道が描かれている。Ｗ－１を渡った後、再び分岐し蒼海城の中心部へと続いている[4]。南側から蒼海城へ通じる道はこれしか描かれておらず、他には見当たらない。古代の道を踏襲し、中世の頃まで重要な道として使用されていたのではないかと推測される。

以上、城絵図と航空写真から推定東山道国府ルートおよび推定日高道について検討を行ったが、根拠が薄く想像の域を出ない。本遺跡から群馬駅家推定地とされる県庁方向へ延びる地割、別ルートの可能性、群馬駅家の位置、利根川を渡った先のルート等の問題も考慮しなければならないだろう。今後の課題としたい。

４．おわりに

本遺跡の北に位置する元総社蒼海地区は平成 11 年から約 20 年間に亘って都市計画事業に伴う発掘調査が継続的に行われている。上野国府の推定地として知られるこの地域は近年の発掘調査成果の増加により各時代における土地利用の変遷が明らかになりつつある。今回の調査は都市計画事業に伴う落合地域での最初の発掘調査となった。今後も落合地区も元総社地区同様に継続して調査が行われるであろう。調査成果の蓄積により東山道国府ルートや推定日高道の解明、落合地区の集落の様相等が解明されることを期待したい。

註

１．（前橋市 2018）「Ⅳ　まとめ　３　東山道駅路について」より

２．菅谷石塚遺跡 01 号道路は２時期の路面を検出。第二次路面が As-B 降下以後の可能性が有る。

３．群馬町教育委員会が行った推定東山道駅路国府ルートの調査において天王川を迂回する道路状遺構が検出されている（群馬町 1987）。

４．分岐と想定される場所は上野国府等範囲内容確認調査 53 トレンチとして調査が行われた。道路状遺構は検出されず、河川の流路跡と報告されている（前橋市 2019）。

参考文献

論文等

金坂清則　1974　「上野国府とその付近の東山道、および群馬、佐位駅家について」『歴史地理学紀要』第　16 巻　歴史地理学会

山崎　一　1978　『群馬県古城塁址の研究　上巻』　群馬県文化事業振興会

近藤義雄　1981　「上野国をめぐる古代交通路」『信濃』第 33 巻第２号　信濃史学会

森田　悌　2003　「古代上野国の東山道」『群馬文化』第 275 号　群馬県地域文化研究協議会

飯森康広　2011　「中世総社城に関する資料」『群馬歴史散歩』第 219 号　群馬歴史散歩の会事務局

高島英之　2016　「東山道－上野国－」『日本古代の交通・交流・情報』３　遺跡と技術　吉川弘文館

中村岳彦　2018　「”推定上野国府”周辺の古代景観」『群馬文化』第 332 号　群馬県地域文化研究協議会

市町村史

前橋市史編さん委員会　1971　『前橋市史』第１巻

群馬県史編さん委員会　1989　『群馬県史』通史編３　中世

図録等

群馬県立歴史博物館　2001　『古代のみち　－たんけん！東山道駅路－』

報告書

（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1988　『鳥羽遺跡　Ⅰ・Ｊ・Ｋ区』

（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1996　『元総社寺田遺跡Ⅲ』

前橋市教育委員会　1984　『元総社明神遺跡Ⅱ』

群馬町教育委員会　1987　『推定東山道－群馬町中泉・福島・菅谷地区を中心とする遺構確認調査報告－』

前橋市教育委員会　1987　『天神遺跡』

前橋市教育委員会　1989　『天神Ⅱ遺跡』

前橋市教育委員会　2008　『天神Ⅲ遺跡』

前橋市教育委員会　2010　『元総社蒼海遺跡群（31）』

前橋市教育委員会　2013　『推定上野国府～平成 23 年度調査報告～』上野国府等範囲内容確認調査報告書Ⅰ

前橋市教育委員会　2014　『推定上野国府～平成 24 年度調査報告～』上野国府等範囲内容確認調査報告書Ⅱ

前橋市教育委員会　2014　『元総社落合遺跡』

前橋市教育委員会　2014　『元総社早道乙遺跡』

前橋市教育委員会　2015　『推定上野国府～平成 25 年度調査報告～』上野国府等範囲内容確認調査報告書Ⅲ

前橋市教育委員会　2016　『推定上野国府～平成 26 年度調査報告～』上野国府等範囲内容確認調査報告書Ⅳ

前橋市教育委員会　2016　『元総社蒼海遺跡群（120）』

前橋市教育委員会　2017　『推定上野国府～平成 27 年度調査報告～』上野国府等範囲内容確認調査報告書Ⅴ

前橋市教育委員会　2018　『推定上野国府～平成 28 年度調査報告～』上野国府等範囲内容確認調査報告書Ⅵ

高崎市教育委員会　2018　『小八木薬研寺遺跡』

前橋市教育委員会　2019　『推定上野国府～平成 29 年度調査報告～』上野国府等範囲内容確認調査報告書Ⅶ

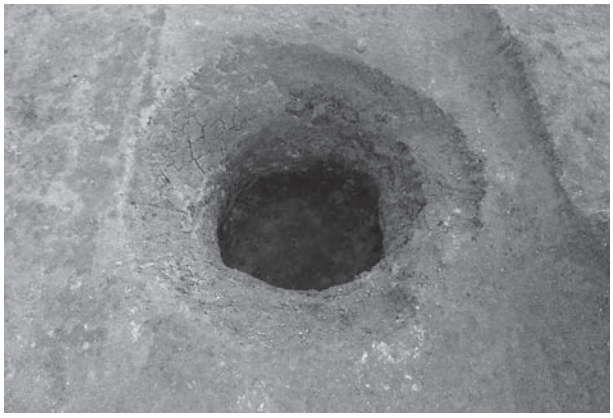
調査区北側全景（南西から、奥に赤城山）

調査区南側全景（東から、中央奥に浅間山、その右に榛名山）

Ｈ－１カマド全景（北西から）

Ｈ－２全景（西から）

Ｈ－２カマド全景（西から）



Ｈ－２貯蔵穴全景（西から）

Ｈ－３全景（西から）

Ｈ－３カマド全景（西から）

Ｈ－４・５全景（北西から）

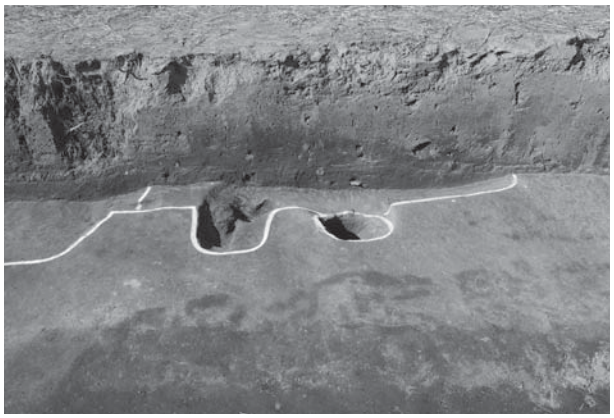
Ｈ－４カマド全景（西から）

Ｈ－７全景（西から）

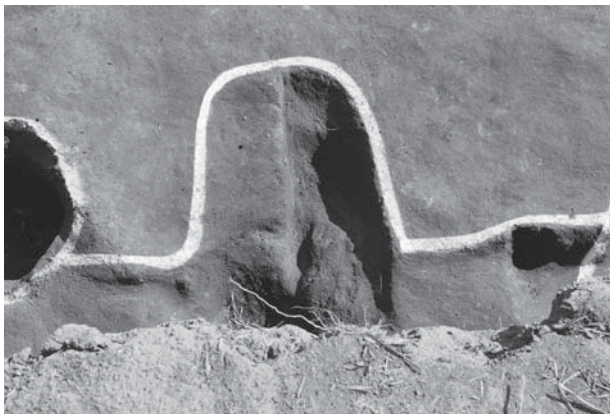
Ｈ－８全景（西から）

Ｈ－８カマド全景（西から）

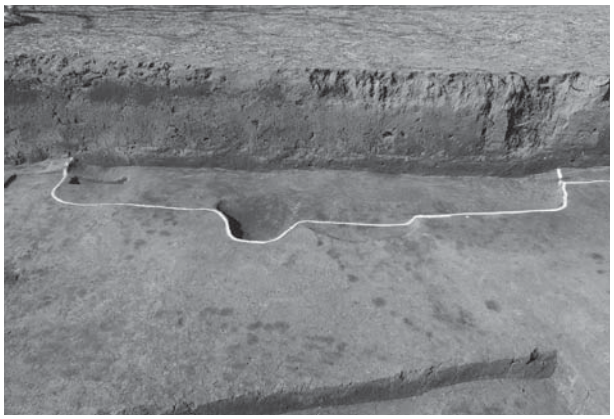
Ｈ－９・10全景（北東から）



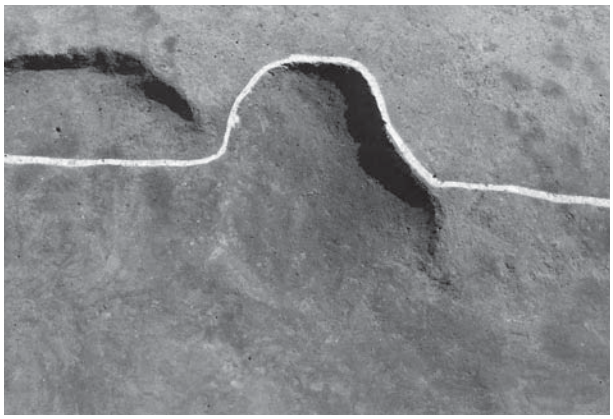
Ｈ－11全景（東から）



Ｈ－11カマド全景（西から）

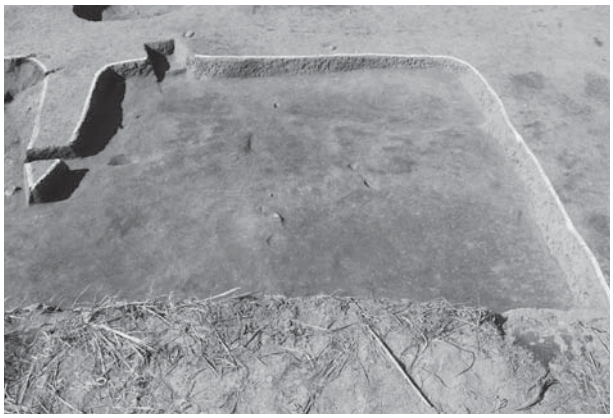


Ｈ－12全景（東から）



Ｈ－12カマド全景（西から）

H－13全景（西から）

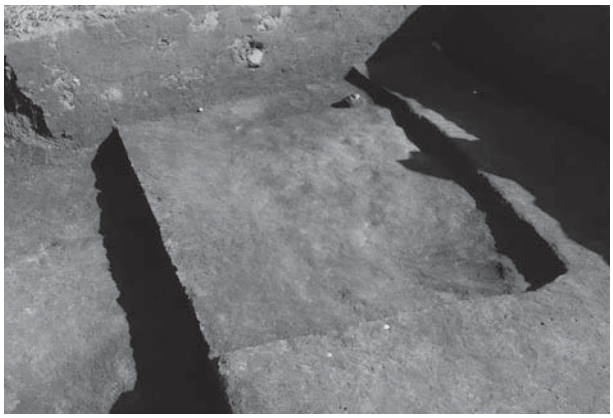


H－14全景（東から）

H－15全景（東から）

H－15カマド全景（東から）

H－16全景（東から）



H－17全景（西から）

H－18全景（北から）

H－18カマド全景（北から）

Ｈ－19全景（西から）

Ｈ－20全景（西から）

Ｈ－21全景（西から）

Ｈ－22全景（北西から）

Ｈ－23全景（西から）

Ｈ－23カマド全景（西から）

Ｈ－25全景（西から）

Ｈ－25カマド１全景（西から）

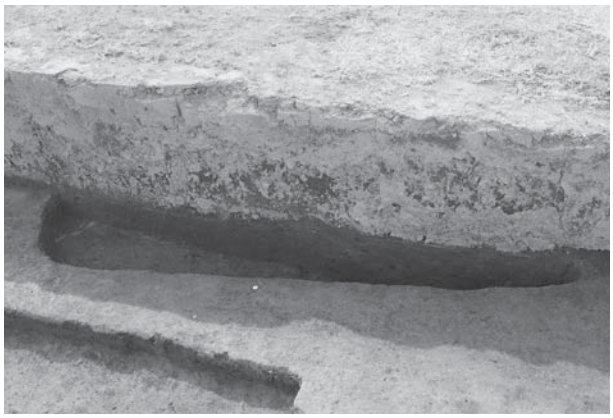
H－25カマド２全景（西から）

H－26全景（西から）

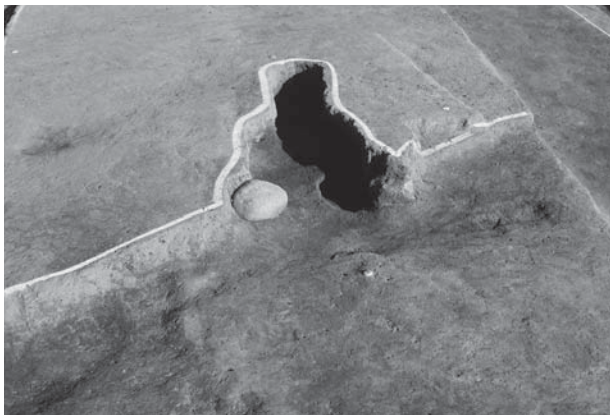
H－26カマド全景（西から）

H－27全景（西から）

H－27カマド全景（西から）

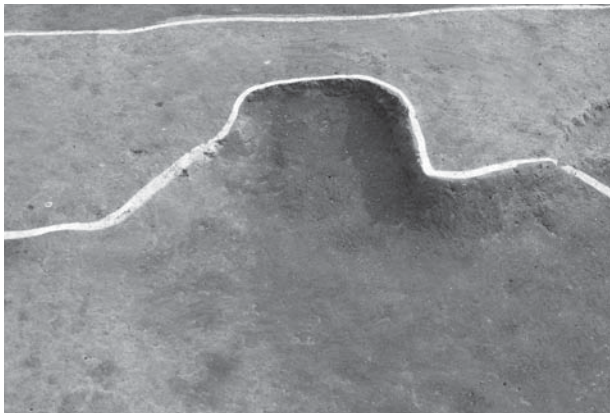

H－28全景（北から）

H－29・30全景（北西から）


H－29カマド全景（北西から）

H－30カマド全景（西から）

H－31全景（西から）



H－31カマド全景（西から）

H－32カマド全景（西から）

H－33全景（西から）

H－33カマド全景（西から）

H－34全景（南西から）

H－35全景（南から）

Ｗ－１底面状況（南から）

Ｗ－２a・b全景（東から）

Ｗ－２～６全景（上が北）

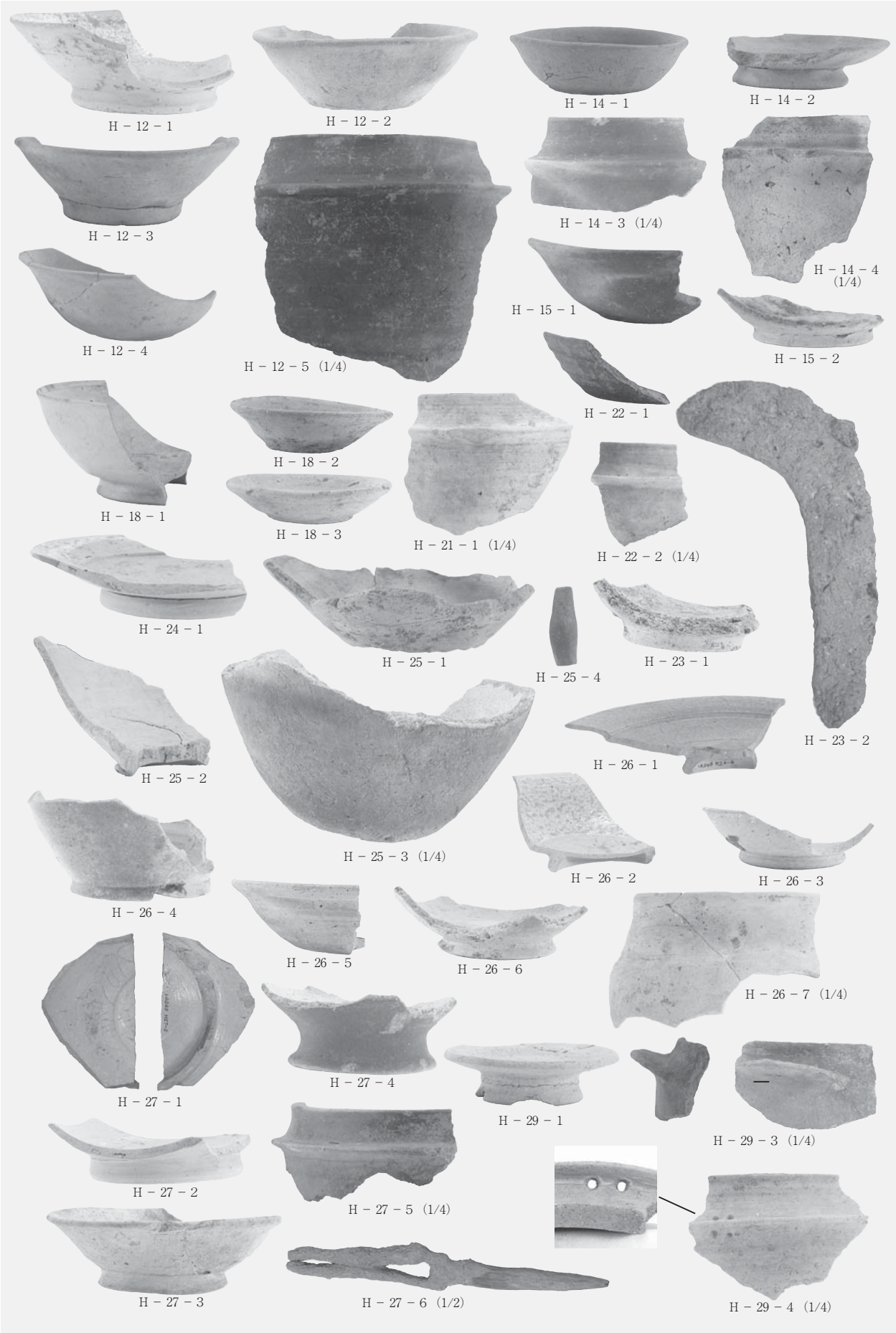
Ｗ－８～10・12・14・15全景（東から）

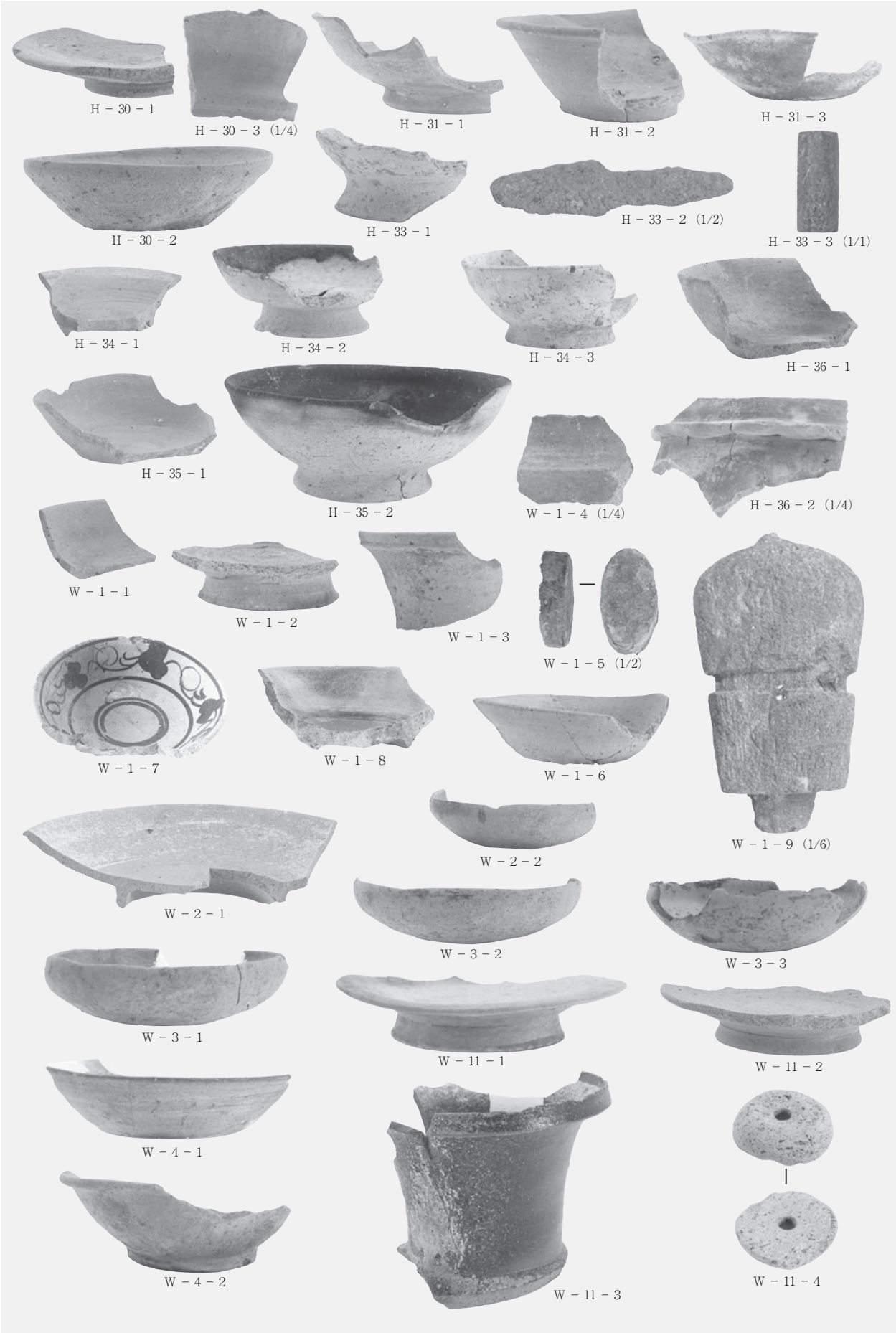
Ｗ－11遺物出土状況全景（西から）

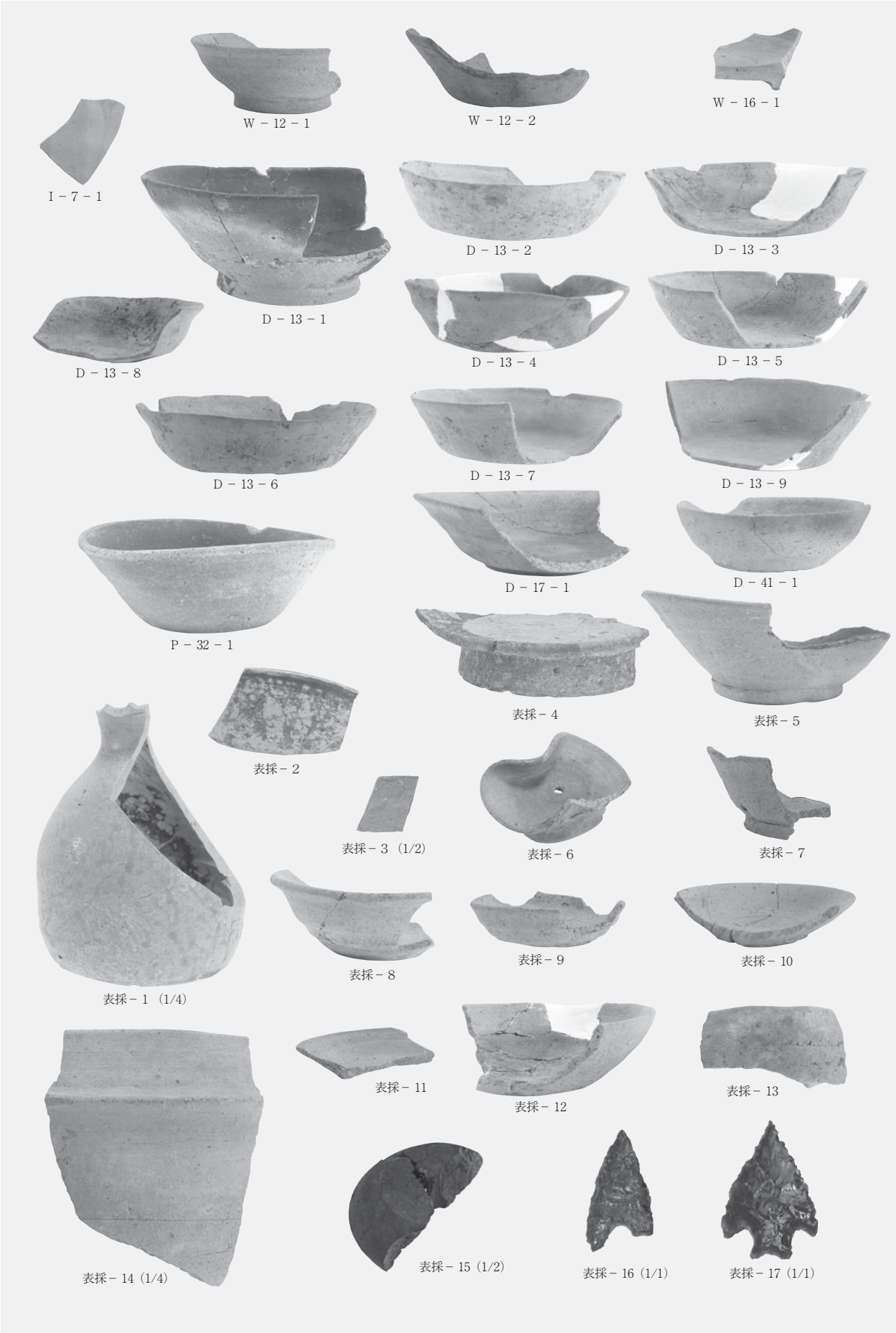
Ｄ－13全景（南から）

調査風景（北から）

H－1－1
H－1－2
(1/4)
H－3－1
(1/4)
H－4－1
H－4－2
H－2－1
H－2－2
H－2－4
H－4－3
H－2－3
H－2－7
(1/4)
H－6－1
H－2－5
H－2－6
H－6－3
H－6－2
H－7－1
H－7－2
H－8－1
H－8－2
H－8－3
H－8－4
H－8－5
H－8－6
H－8－7
H－8－8
H－8－9
H－8－10 (1/4)
H－8－11
(1/4)
H－8－12 (1/4)
H－8－13 (1/6)
H－11－2
H－11－1
H－11－3
H－11－4 (1/4)


H－12－1
H－12－2
H－14－1
H－14－2
H－12－3
H－14－3（1/4）
H－14－4（1/4）
H－12－4
H－12－5（1/4）
H－15－1
H－15－2
H－22－1
H－18－1
H－18－2
H－18－3
H－21－1（1/4）
H－22－2（1/4）
H－23－2
H－24－1
H－25－1
H－25－4
H－23－1
H－25－2
H－26－1
H－25－3（1/4）
H－26－2
H－26－3
H－26－4
H－26－5
H－26－6
H－26－7（1/4）
H－27－1
H－27－4
H－29－1
H－29－3（1/4）
H－27－2
H－27－5（1/4）
H－27－3
H－27－6（1/2）
H－29－4（1/4）


H－30－1
H－30－3（1/4）
H－31－1
H－31－2
H－31－3
H－30－2
H－33－1
H－33－2（1/2）
H－33－3（1/1）
H－34－1
H－34－2
H－34－3
H－36－1
H－35－1
H－35－2
W－1－4（1/4）
H－36－2（1/4）
W－1－1
W－1－2
W－1－3
W－1－5（1/2）
W－1－7
W－1－8
W－1－6
W－1－9（1/6）
W－2－2
W－2－1
W－3－2
W－3－3
W－3－1
W－11－1
W－11－2
W－4－1
W－4－2
W－11－3
W－11－4


W－12－1
W－12－2
W－16－1
I－7－1
D－13－1
D－13－2
D－13－3
D－13－8
D－13－4
D－13－5
D－13－6
D－13－7
D－13－9
D－17－1
D－41－1
P－32－1
表採－4
表採－5
表採－2
表採－3（1/2）
表採－6
表採－7
表採－1（1/4）
表採－8
表採－9
表採－10
表採－11
表採－12
表採－13
表採－14（1/4）
表採－15（1/2）
表採－16（1/1）
表採－17（1/1）

報告書抄録

ふりかな	せいぶだいいちおちあいいせきぐん（1）
書名	西部第一落合遺跡群（1）
副書名	前橋都市計画事業西部第一落合土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	－
シリーズ名	－
シリーズ番号	－
編著者名	佐野良平
編集機関	技研コンサル株式会社
編集機関所在地	〒371－0031　群馬県前橋市下小出町 1-15-3
発行機関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371－0853　群馬県前橋市総社町３丁目11番４
発行年月日	2020年10月30日

ふりがな	ふりがな	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
せいぶだいいちおちあいいせきぐん 西部第一落合遺跡群（1）	ぐんまけんまえばししもとそうじゃまち 群馬県前橋市元総社町 747、750-1、750-2、750-3、2509-1、2509-2、2509-3、2508-4、2510-1、2702-1	102016	1 A248	36°22′46	139°2′28	20191218 ～ 20200324	2,524㎡	前橋都市計画事業 西部第一落合 土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西部第一落合遺跡群（1）	集落 城館跡 その他	古墳 平安 中世	竪穴建物跡　36軒 溝・堀　18条 井戸　12基 土坑　40基 ピット　52基 畠跡　1面 性格不明遺構　2基	土師器 須恵器 灰釉陶器 緑釉陶器 瓦 鉄・銅製品 土製品 石製品	・古代から中世まで流水していた大型の溝・堀跡 ・9～11世紀代の集落跡

西部第一落合遺跡群（1）

前橋都市計画事業西部第一落合土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2020年10月16日　印刷
2020年10月30日　発行

発行　前橋市教育委員会文化財保護課
〒371－0853　群馬県前橋市総社町３丁目11番４
TEL　027-280-6511

編集　技研コンサル株式会社
印刷　朝日印刷工業株式会社